

現場説明書

- 1 工事（委託）名 御所污水 2 号幹線枝線 1 管路築造 工事
- 2 工事（委託）番号 都整 第 2 号
- 3 工事（委託）場所 御所市 東辻 地内
- 4 現場説明書返却について ダウンロードによる（返却不要）

5 現場説明書記載項目

- 第 1 章 概要
- 第 2 章 入札に関する注意事項
- 第 3 章 特記事項
- ・ 入札条件書
 - ・ 特記仕様書
 - ・ その他

6 仕様書

7 位置図

御 所 市 役 所

第 1 章 概 要

1 工事（委託）名	御所污水 2 号幹線枝線 1 管路築造	工事
2 工事（委託）番号	都整 第 2	号
3 工事（委託）場所	御所市 東辻	地内
4 工事（委託）概要	<div>【全体】 工事延長 L=71.0m</div> <div>推進工 ϕ 200mm L=65.7m</div> <div>立杭工 ϕ 2.0, 1.5m n= 3.0キ</div> <div>人孔工 組立1号 n= 3.0キ</div> <div>取付管及び</div> <div>桧 工 n= 1.0キ</div> <div>付帯工 一式</div> <div>【単独】 工事延長 L=0.9m</div> <div>付帯工 一式</div>	
5 竣工（履行）期日	令和7年10月31日	
6 発注担当課	都市整備課	

第2章 入札に関する注意事項

- 1 現場説明書等（仕様書、設計図面等）に対する質問の応答
質問が有る場合は、管財課入札係窓口へ質問書をメールにより提出してください。
（質問が無い場合は、質問書の提出は必要ありません。）
kanzai@city.gose.nara.jp
質問書提出期限 令和 7 年 5 月 12 日 11 : 00 までに提出してください。
提出場所 御所市役所 管財課 （新館2階）
- 2 入札書に記載する価格は、消費税に係る課税事業者であるか免税事業者であるかを問わず、見積もった契約希望金額の110分の100に相当する金額を入札書に記載してください。
（消費税及び地方消費税を含まない価格）

入札手続きに対する問い合わせは、管財課入札係にお問い合わせください。
- 3 回答方法 （令和 7 年 5 月 14 日 17 : 00 までに）
回答文書をメールにより当該質問者に送信いたします。
但し、公平性に支障を来す場合等、質問内容によっては、入札参加者全員に回答します。
該当する者は受信出来ましたら、回答文書が無事届いたかを確認したいので、早急に市役所管財課へ返信メールをお願いします。
- 4 現場説明書等の交付について
御所市ホームページからダウンロードにより提供
- 5 落札者は、契約の締結に際しては中小企業退職金退職金共済法の基づく建設業退職金共済制度の掛け金を建設業退職金機構の奈良県支部に納入し、機構発行の掛け金収納書を提出して下さい。
（ 機構奈良県支部 : 奈良市高天町5-1 奈良県建設会館内 TEL 0742-22-3345 ）
- 6 この工事の入札結果により、同一業者が、同一工事区域又は工事区域が連結した場所で、かつ工期が重複又は継続して施工することとなった場合は、協議無く共通費（共通仮設費、現場管理費及び一般管理費等）を再計算し、請負額を変更することがあります。

第3章 特記事項

1 総論

本工事の契約書、設計図書（仕様書、図面、現場説明書及び現場説明に対する質問回答書）を十分に理解し、関連法規・条例等を遵守して、安全に着手・竣工してください。

2 適用範囲

施工条件の適用については、以下の3に記載したものを適用します。

3 施工条件

(1) 一般事項

- ※ 本工事の施工は、監督員の指示した書類を作成し、承諾を受けたうえで着手してください。
- ※ 原則として、工事着手前に本工事の全ての下請け業者について、書類により監督員に届け出てください。
- ※ 本工事は奈良県土木部編集「土木工事共通仕様書」に基づき施工してください。
- ※ 本工事は奈良県土木部編集「土木部土木工事監督及び検査必携」を適用します。
- ※ 工事関係官公署その他関係機関への必要な届出手続き等は、全て請負者が行ってください。手続きに必要な費用は請負者の負担とします。
- ※ 建設工事公衆災害防止対策要綱（建設省建設経済局）を遵守し、工事を行ってください。
- ※ 本工事に示す内容その他に疑義が生じた場合は、入札前においては第2章「入札注意事項」1「設計図書等に対する質問の応答」によるものとし、契約後においては、監督職員と協議のうえ決定し、施工するものとします。また、現場の納まり、取り合い、明示無き事項及び設計図書と現場の不一致等で生じた変更については、監督職員の指示によるものとします。

(2) 施工日・施工時間帯

- ※ 原則として、土曜日・日曜日・及び祝日の現場における工事は休みとし、施工時間は8時30分から17時30分とします。ただし、現場の状況等による場合、施設管理者等の協議・許可条件等により、変更する場合があります。

(3) 環境対策

- ※ 「奈良県における「建設リサイクル」の実施に関する指針」に基づき、建設資材のリサイクルに努めて下さい。
- ※ 「公共事業に関する環境配慮指針（奈良県）」に基づき、環境負荷低減に努めて下さい。
- ※ 騒音・振動・排水等は、奈良県環境保全関係条例・その他の規程に従って十分な養生及び防止対策を講じてください。万一、第三者に損害等が生じた場合は、請負者にて処理、解決してください。なお、これらに要する費用は、請負者の負担とします。

(4) 特定建設資材の再資源化

- ※ 特定建設資材とは、建設工事に係る資材の再資源化に関する法律（以下「建設リサイクル法」という。）に定める特定建設資材（コンクリート（鉄筋コンクリートを含む）塊、アスファルトコンクリート塊、木材）をいいます。
- ※ 本工事において発生する特定建設資材廃棄物については、建設リサイクル法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律等関係法令を遵守し、適正に再資源化を処理をしてください。
- ※ 建設リサイクル法第9条を遵守し、同法施行規則第2条に定める「分別解体等に係る施工方法に関する基準」により適切な施工をしてください。
- ※ 本工事において発生した特定建設資材廃棄物については、県内の再資源化処理施設において処理してください。（請負者の責めに帰さない理由で、これによることが出来ない場

合は監督職員と協議の上、その指示によるものとします。

※ その他

- ① 再資源化施設の選定に当たっては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に基づく許可を受けた処理施設とし、許可内容・有効期限等を確認のうえ事前に監督職員の承諾を受けて下さい。
- ② 自ら搬出する場合は産業廃棄物運搬車の表示板等を掲げ明示して下さい。また、運搬を委託する場合は産業廃棄物収集運搬業の許可を受けた業者とし、事前に監督職員の承諾を受けて下さい。
- ③ 産業廃棄物管理票（マニフェスト）は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律遵守し厳正に管理してください。
- ④ 特定建設資材搬出の際は運搬車両の過積載防止の徹底を図ってください。

(5) 県（市）内業者・県（市）内産建設資材の活用

※ 下請契約を締結する場合には、当該契約の相手を「県（市）内に主たる営業所」を有するものの中から選定するよう努めてください。

※ 地場産業の活性化を図るため、建設資材・物品調達については県（市）産品の使用をより一層努めてください。

県（市）産品とは次の①から⑤に示すものとします。

- ① 県（市）内の工場で製造された資材・製品
- ② 奈良県及び県内市町村、産業支援団体等の公的機関の補助を受けて開発された資材・製品
- ③ 県（市）内企業が開発し、県（市）外の工場で製造された資材・製品
- ④ 二次製品において、材料が県（市）外製品であっても、県（市）内の工場等で製造・加工されたもの（材料が県（市）内産品で、県外の工場等で製造・加工されたものは除く）
- ⑤ 奈良県リサイクル認定製品

(6) 安全対策

※ 工事期間中、付近の構築物・道路・地下埋設物等に損傷を与えないよう万全の処置を行ってください。万一破損を生じた場合は、原形に復してください。

※ 工事着手前に、警察、その他関係機関、地元自治会、及び監督職員等と十分打ち合わせのうえ、安全管理を行ってください。

※ 住民が居住している地域での工事ですので、安全等については、十分留意してください。

(7) 工事用道路・車両

※ 工事期間中道路面には、一切車両を駐車しないようにすると共に工事関係車両の出入りには必ず誘導員を立てて交通渋滞や市民などへの災害に留意してください。

※ 工事関係車両タイヤ等で場内土を持ち出し、道路等を汚さないでください。また、汚した場合には、速やかに清掃を行ってください。

※ ダンプトラック等、過積載防止対策を行ってください。

(8) 仮設

※ 仕様書に該当項目があれば、適正に処理してください。

(9) 発生材・建設発生土の処理

※ 仕様書に該当項目があれば、適正に処理してください。

(10) その他

- コンクリート工事の施工に当たり、奈良県土木部、技第81号（令和19年8月15日）
「適正なコンクリート工事実施に関わる請負業者の遵守事項」に従って施工してください。

入 札 条 件 書

工事番号	都整 第 2 号
工事名	御所汚水2号幹線枝線1管路築造 工事
工事箇所	御所市 東辻 地内
履行期間	契約日翌日（土日、祝日除く）から、 令和7年10月31日
担当課	都市整備課

上記の工事（委託）の入札について、下記の条件により実施いたします。

- 1 共通事項 当該入札は、地方自治法（昭和22年法律第67号）、地方自治法施行令（昭和22年政令第16号）、御所市契約規則（昭和39年10月20日規則第18号）その他法令、規則などに基づき執行いたします。

- 2 当該入札に関する条件

入札方法	郵便	予定価格	24,395,800 円(税込み)
再度入札	なし	入札書比較価格	22,178,000 円(税抜き)
前払金請求	請負額が300万円を上回った場合可	最低制限基準価格	21,923,000 円(税込み)
		最低制限基準比較価格	19,930,000 円(税抜き)
議会の議決	不要	各年度における支払予定額の割合	令和 / 年度 / %
			令和 / 年度 / %
			令和 / 年度 / %

- 3 入札辞退 入札を辞退するときは、事前に辞退届の提出が必要となります。
- 4 入札中止 入札手続執行途中で入札に競争性が無くなった場合は、その段階で入札手続き又は入札を中止します。

その他	・ 契約は落札日から8日以内（落札日を含む。土日祝日も含む。）に締結しなければなりません。

御所市役所

御所污水 2 号幹線枝線 1 管路築造工事 に関する特記仕様書

工事箇所：御所市 東辻 地内

(適用事項)

本工事施工にあたっては、「御所市下水道工事標準仕様書」及び「土木工事共通仕様書奈良県県土マネジメント部」（以下「土木工事共通仕様書」という）によるものとする。

(一般的事項)

1. 受注者は都市整備課担当者に連絡し、施工計画書及び工事工程表等に基づき協議を行うこと。また、施工計画書を提出するにあたり、特に記載を要する事項として以下の点に留意すること。

①作業現場の保安施設・安全施設の計画及び交通整理等を伴う場合は、道路工事交通保安施設設置基準に準拠し、各現場に対応した計画を添付すること。また、設備・人員配置図は必ず添付すること。

②対象工種の出来形管理基準値(測定項目・規格値・測定基準・測定個所等)及び品質管理基準・規格値、試験基準を記載すること。

2. 理由のない設計変更は行わない。又、事前に市が承認した工事以外、設計変更は認めない。

なお、設計変更については、打合せ記録簿に理由等を記載し、関係書類を添付し承認を得ること。

3. 工事の施工にあたっては、諸法令を遵守するとともに地元関係者(区長・地権者等)及び関係機関と十分調整を図るものとする。

(関係官公庁への許認可等)

1. 工事施工のため必要な関係官公庁その他の者に対する諸手続きは、受注者において迅速に処理しなければならない。

2. 関係官公庁その他の者に対して交渉を要するときまたは交渉を受けたときは、遅滞なくその旨を監督員に申し出て協議するものとする。

(関係法令等)

1. 受注者は工事施工に当たり、工事に関する諸法規その他諸法令を遵守し、工事の円滑なる進捗を図るとともに、諸法令の運営費用は受注者の負担と責任において行わなければならない。

(公害の防止)

1. 受注者は工事の施工に当たっては、付近の居住者に迷惑のかからぬよう公害防止に努めなければならない。

2. 工事施工に起因して通常発生する物件のき損の補修費及び騒音、振動、濁水、交通等による一般的損失に係る補償は受注者の負担において行わなければならない。

(施設の保全)

1. 既設構造物を汚染し、またはこれ等に損傷を与えたときは、受注者の責任で復旧しなければならない。

(安全管理)

1. 受注者は土木工事安全施工技術指針（国土交通省大臣官房技術調査課監修平成13年改定版）を参考にし、労働安全衛生法令並びに関係法令を遵守し、公衆及び従業員の安全を図らなければならない。

2. 工事中は所要の人員を配し、現場内の整理、整頓及び保安に努めなければならない。

3. 重要な工作物に近接して工事を施工する場合は、あらかじめ保安上必要な措置、緊急時の応急措置及び連絡方法等について、監督員と協議し、これを厳守しなければならない。

4. 受注者は工事施工期間の一般通行者の安全確保等について、下記の事項に留意しつつ万全の対策を講じなければならない。

①公衆に係わる区域で施工する工事は道路管理者、所轄警察署等の指示事項を遵守すること。また、工事内容を地元住民や通行者に周知させなければならない。

②警戒標識、防護柵、安全施設（赤色灯やセーフティコーン等）を適切に配置するとともに、施工計画に指定した交通誘導員は、常駐して厳正な交通管理を行うこと。

③夜間作業時にあつては、十分な照明を設置し、通行車輛・歩行者等の安全を確保するとともに、工事を一時中断又は終了した場合には、材料、器具、機械等は通行に支障を生じない箇所や路外に集め防護柵等で囲うなど万全な安全対策を行うこと。

④現場代理人等の現場責任者は、常時現場を巡回し、特に安全上不良な箇所がある場合は、直ちに改善すること。

⑤警戒標識、防護柵、安全施設（赤色灯やセーフティコーン等）及び使用機械の整理整頓に努めること。

⑥維持修繕工事等、施工場所及び施工時期が分散する工事であっても、工事箇所毎に工事看板の設置を行うこと。

なお、工事標示施設の設置については、国土交通省制定の「道路工事現場における標示施設の設置基準」及び「道路工事保安施設設置基準」に準拠するものとする。

5. 火薬、ガソリン、電気等の危険物を使用する場合には、保管及び取扱いについて関係法令の定めるところに遵守し、万全の方策を講じなければならない。

6. 受注者は、交通安全対策等につき、関係機関と協議のうえ具体的に内容を定め、これを監督員に提出するものとする。

(埋設物等の措置)

1. 施工に先だち、水道管、ガスパ、電話線、電力ケーブル等の埋設物については事前に試掘を行い、その位置を確認及び位置図を作成し、監督員に報告しなければならない。

2. 試掘の結果埋設物が工事に支障となる場合は、その管理者と協議し十分な安全措置を行わなければならない。このとき、工事打合せ簿に立会者名、指示事項等を明記し提出しなければならない。

3. 地下埋設物または架線等の移設が生じたときは調査資料及び移設計画図を添えて監督員の承諾を得なければならない。

4. 工事中において、引火性物質を有する埋設物または可燃性物質の輸送管等の埋設物に近接して作業する場合は、ガス漏えいの発見に努めるとともに溶接機、切断機等火気を伴う機械器具を使用してはならない。ただし、やむを得ず使用する場合はその管理者と協議の上、保安に必要な措置を講じなければならない。

5. 工事中において、万一諸物件に損傷を与えた場合は早急に関係者に連絡し、応急措置を行わなければならない。その後関係者と協議し復旧または賠償しなければならない。

6. 発注者による埋設物事前調査において、当該工事に支障となる埋設管（水道管等）の移設等が決定している場合、当該埋設管の移設もしくは仮設の完了を、受注者間において確認した後に本工事を着手すること。

7. 工事中において、それぞれの工事が競合することがある場合、受注者間で工程等を十分協議し、安全で円滑に施工すること。

(現場管理)

1. 受注者は公衆に係わる区域で施工する工事については、「建設工事公衆災害防止対策要綱土木工事編」に準拠して災害の防止に努めなければならない。

2. 工事のため付近居住者の日常生活・業務等を妨害しないよう注意しなければならない。また、施工に当たり営業に支障があると思われるときは、監督員並びに居住者と協議の上、これを軽減するよう努力しなければならない。

3. 火薬類を使用し、工事を施工する場合は、あらかじめ監督員に使用計画書を提出しなければならない。

4. 遣方、山囲、覆工、締め切り、排水等の仮設及び特に重要物を扱う足場は、堅固な構造としなければならない。

5. 受注者は、豪雨・出水・その他天災に対しては、気象予報などについて十分な注意を払い、常にこれに対処できる所要の人員・資材の配備計画がなければならない。

6. 排出ガス対策型建設機械について

本工事において以下に示す建設機械を使用する場合は、「排出ガス対策型建設機械指定要領（H3.10.8 付建設省経機発第 249 号 最終改正 H9.10.3 付建設省経機発 126 号）」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械、又は平成 7 年度建設技術評価制度公募課題「建設機械の排出ガス浄化装置の開発」またこれと同等の開発目標で実施された民間開発建設技術の技術審査・証明事業により評価された排出ガス浄化装置を装着した建設機械（黒煙浄化装置付）を使用するものとする。

但し、これにより難しい場合は、監督員と協議の上設計変更するものとする。

また、排出ガス対策型建設機械あるいは、排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用する場合、施工現場において使用する機械の写真撮影を行い提出するものとする。なお、指定機械であることを識別するラベルが添付されているので、確認できるように撮影すること。

機 種	備 考
一般工事用建設機械 ・バックホウ・トラクタショベル（車輪式） ・ブルドーザ・発動発電機（可搬式）・空気圧縮機（可搬式）・油圧ユニット（以下に示す基礎工事用機械のうち、ベースマシンとは別に、独立したディーゼルエンジン駆動の油圧ユニットを搭載しているもの；油圧ハンマ、バイブロハンマ、油圧式鋼管圧入・引抜機、油圧式杭圧入・引抜機、アースオーガ、オールケーシング掘削機、リバーササーキュレーションドリル、地下連続壁施工機、全回転型オールケーシング掘削機）・ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ・ホイールクレーン	ディーゼルエンジン（エンジン出力7.5kw以上260kw以下）を搭載した建設機に限る。

（施工事項）

~~1. 調査が特に必要であると思われる家屋及び井戸等の物件については、別紙「御所市公共下水道工事一家屋調査仕様書」により事前調査を行い必要な図面・写真等の資料を作成しておくこと。~~

2. 起工測量を実施し、仮水準点（仮BM）を設置すると共に必要な資料を作成し、監督員と協議を行い承認を得ること。

3. 受注者は、設計図書に従って、工事の施工について監督員の立会にあたっては、あらかじめ立会に係わる事項（種別、細別、施工予定期日等）を監督員に報告すること。

4. 段階確認は、受注者（現場代理人または主任（監理）技術者若しくは、あらかじめ監督員の承認を得たもの）が臨場するものとする。

5. 本工事の施工に伴い実施する品質管理試験は、品質管理基準に記載される「必須」項目を実施し、「その他」の項目については、監督員の指示により実施するものとする。

6. 使用材料等については、事前に使用承諾願を提出し、監督員の承諾を得たうえで使用すること。如何なる材料・製品を使用しても良いとは限らない。

7. 使用する二次製品の品質等については、以下の内容を満足しなければならない。

①形状寸法は、使用承認を受けた規定寸法を満足するとともに、外観については、使用上有害な傷、ひび割れ、欠け等が無いこと。

②コンクリートの強度は、出荷時において所定の設計基準強度以上でなくてはならない。

③外観及び形状寸法の管理を行うこと。

8. 土木コンクリート構造物の品質確保について

①土木コンクリート構造物の耐久性を向上させるため、一般の環境条件の場合のコンクリート構造物に使用するコンクリートの水セメント比は、鉄筋コンクリートについては55%以下、無筋コンクリートについては60%以下とすること。

②鉄筋のかぶりを確保するため、スペーサーを設置するものとする。スペーサーは、構造物の側面については原則1㎡につき2個以上、構造物の底面については原則1㎡につき4個以上設置すること。また、型枠に接するスペーサーは本体コンクリートと同等以上の品質を有するコンクリート製又はモルタル製を使用するのを原則とする。

③重要なコンクリート構造物の適切な施工を確認するため、コンクリート構造物の施工完了後に、テストハンマーによる材齢28日強度の推定調査を受注者が実施し、調査結果を提出すること。

④テストハンマーによる強度推定調査の結果が、所定の強度が得られない場合については、受注者が原位置のコアを採取し、圧縮強度試験を実施し、調査結果を提出すること。

⑤工事完成後の維持管理にあたっての基礎資料とするため、重要構造物については、ひび割れ発生状況の調査を受注者が実施し、調査結果を完成検査時に提出すること。

⑥受注者は、生コンクリートの品質管理において、工場から現場までの運搬管理が極めて重要であることを認識すると共に、荷卸し以降の品質確保について責任を負うものとする。

9. 受注者は施工箇所付近の道路の管理・補修及び維持を充分に行い、住民に不便をかけないように受注者が自己の費用で行うこと。

10. 薬液注入工は、「薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針（建設事務次官通達：建設省官技発第160号・昭和49年7月10日付）」に基づいて施工すること。

薬液注入工法を実施する場合、地下水の水質汚濁を防止するため、着手前に水質検査並びに水位を測定し、施工中は市職員の指示に従い水質検査及び水位の測定「別添・薬液注入工法による建設工事の施工に関する暫定指針（建設省：昭和49年7月10日付）」（別紙特記仕様書参照）を行い、その結果を市に提出のこと。なお、薬液注入を行う場合には配合等の調書を事前に提出し、市の指示を得てから施工すること。

11. 施工後の路面が安定した良好な状態とすることを目的とし、土工（埋め戻し）については、十分な締め固めを行うこととし、その状態を次の方法により試験し、確認するものとする。

確認方法	R I 計器による土の密度試験
試験位置	監督員と協議のうえ決定
試験時期	監督員と協議のうえ決定
判定基準	「土の締め固め度」が90%以上であること。
土の締め固め度（%）＝ 現場の土の乾燥密度（R I 計器）／最大乾燥密度（室内試験）×100	

12. 道路舗装の仮復旧について、工事完了後1年以内に路面が通行に支障を来す起伏等が生じた場合、受注者が補修を行うこと。（但し、水道等他事業との同時施工による場合は、双方協議の上実施すること。）

13. 砂基礎工においては、再生コンクリート砂を使用するため、事前に現地土砂を採取し、六価クロム溶出試験の結果を受けて、施工を行うこと。

14. 作業時間については、昼間・夜間施工の区分を設計書に従って実施すること。なお、昼間施工における標準時間は午前9時から午後5時までとし、夜間施工における標準時間は午後10時から翌午前5時までとする。

15. マンホール蓋については、御所市性能規定書に基づき認定を受けた製品を使用すること。

16. 公共汚水弁蓋については、御所市市章入りを使用すること。

17. 管内カメラについては、別紙「管渠内テレビカメラに関する特記仕様書」に基づき、行うこと。

18. 家屋調査については、別紙「御所市公共下水道工事 家屋調査仕様書」に基づき、行うこと。

19. 工事書類を提出する際に、全作成書類の電子生データ（CD・DVD等の記憶媒体）を一緒に提出すること。なお写真については、写真帳に編集したもの、及び撮影生データ（.jpeg形式等のデータ）を提出すること。

20. 施工箇所は県営住宅に隣接する市道及び、交通量の多い市道である為、十分に注意し施工及び交通誘導を行なうこと。

21. 施工箇所は道幅の狭い住宅地内である為、十分に注意し施工を行う事。

再生材の使用に関する取り扱いについて

1. 再生材の種類

(1) 再生クラッシャラン

再生クラッシャランは、所要の修正CBRと粒度が得られるように路盤発生材、再生骨材、あるいはこれらを混合し、必要に応じて補足材を加えた再生資材をいう。

(2) 再生粒度調整碎石

再生粒度調整碎石は、所要の修正CBRと粒度が得られるように路盤発生材、再生骨材、あるいはこれらを混合し、必要に応じて補足材を加えて粒度と含水比を調整した再生資材をいう。

(3) 再生コンクリート砂

再生コンクリート砂は、セメントコンクリート発生材を破碎または解砕し、所定の粒度に調整し、必要に応じて補足材を加えた再生資材をいう。

(4) 再生加熱アスファルト混合物

アスファルトコンクリート再生骨材に、必要に応じて再生用添加剤、新アスファルトや補足材を加えて製造した加熱アスファルト混合物をいい、道路舗装の表層・基層に適用する。

【用語の説明】

路盤発生材とは、舗装発生材のうち、路盤から発生する碎石、クラッシャラン、粒度調整碎石、セメント安定処理路盤材、鉄鋼スラグ等の発生材をいう。

再生骨材とは、アスファルトコンクリート再生骨材、セメントコンクリート再生骨材、路盤再生骨材の総称をいう。

アスファルトコンクリート再生骨材とは、アスファルトコンクリート発生材を破碎または解砕し、分級した骨材をいい、これには舗装発生材中のアスファルトを含む。

【注意事項】

工事で発生したコンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊は、産業廃棄物であるとともに、再生資源としても位置づけられるものである。再利用するには、有価物にするための再生処理をおこなう必要がある。

① **再資源化施設で再生材として処理されたものを有償で買い取り、工事で使用する。**

② **移動式破碎机・仮設プラント等で自ら中間処理を行い、使用目的（場所）の品質・規格に適合する有価物である再生クラッシャラン等にして使用する。**
（使用にあたっては、廃棄物処理法の手続き等に注意してください。）

※「有価物」——— 他人に有償で売却できるもの

2. 適用工種

再 生 材	適 用 工 種
再生クラッシャラン	舗装の下層路盤材料 土木構造物の基礎材・裏込材・埋戻材 ※ただし、アスファルトコンクリート再生骨材を含む場合は、河川構造物に使用してはならない。
再生粒度調整碎石	舗装の上層路盤材料、埋戻材
再生コンクリート砂	電線共同溝、下水道の管路部等の基礎材
再生加熱アスファルト混合物	舗装の表層材・基層材

3. 品質基準

○再生クラッシュラン

コンクリート塊から製造した再生クラッシュランを利用するにあたって、その用途を定め、品質基準を次のように規定する。

①使用用途	下層路盤材、埋戻材、裏込材、基礎材 ※ただし、アスファルトコンクリート再生骨材を含む場合は、河川構造物に使用してはならない。																																															
②粒度	最大粒径は目的に応じ適宜選択するものとする。 試験方法は、J I S A 1102「骨材のふるい分け試験」に基づき行い、望ましい粒度範囲は下表のとおりとする。 <table><tr><th colspan="2">粒度範囲（呼び名）</th><th>40～0 (RC-40)</th><th>30～0 (RC-30)</th><th>20～0 (RC-20)</th></tr><tr><th colspan="2">ふるい目の開き</th><th></th><th></th><th></th></tr><tr><td rowspan="8">通過 質量 百分 率 (%)</td><td>53 mm</td><td>100</td><td></td><td></td></tr><tr><td>37.5 mm</td><td>95～100</td><td>100</td><td></td></tr><tr><td>31.5 mm</td><td>—</td><td>95～100</td><td></td></tr><tr><td>26.5 mm</td><td>—</td><td>—</td><td>100</td></tr><tr><td>19 mm</td><td>50～80</td><td>55～85</td><td>95～100</td></tr><tr><td>13.2 mm</td><td>—</td><td>—</td><td>60～100</td></tr><tr><td>4.75 mm</td><td>15～40</td><td>15～45</td><td>20～50</td></tr><tr><td>2.36 mm</td><td>5～25</td><td>5～30</td><td>10～35</td></tr></table> 〔注〕再生骨材の粒度は、モルタル粒などを含んだ解砕されたままの見かけの骨材粒度を使用する。					粒度範囲（呼び名）		40～0 (RC-40)	30～0 (RC-30)	20～0 (RC-20)	ふるい目の開き					通過 質量 百分 率 (%)	53 mm	100			37.5 mm	95～100	100		31.5 mm	—	95～100		26.5 mm	—	—	100	19 mm	50～80	55～85	95～100	13.2 mm	—	—	60～100	4.75 mm	15～40	15～45	20～50	2.36 mm	5～25	5～30	10～35
粒度範囲（呼び名）		40～0 (RC-40)	30～0 (RC-30)	20～0 (RC-20)																																												
ふるい目の開き																																																
通過 質量 百分 率 (%)	53 mm	100																																														
	37.5 mm	95～100	100																																													
	31.5 mm	—	95～100																																													
	26.5 mm	—	—	100																																												
	19 mm	50～80	55～85	95～100																																												
	13.2 mm	—	—	60～100																																												
	4.75 mm	15～40	15～45	20～50																																												
	2.36 mm	5～25	5～30	10～35																																												
③P I（塑性指数）	試験方法	J I S A 1205「土の液性限界・塑性限界試験」に基づく。																																														
規格値	6以下 ただし、簡易舗装の下層路盤に使用する場合は9以下とする。																																															
④修正C B R	試験方法	舗装試験法便覧2－3－1「修正C B R試験方法」に基づく。																																														
規格値	20〔30〕%以上 ただし、簡易舗装の下層路盤に使用する場合は10〔20〕%以上とする。 アスファルトコンクリート再生材を含む再生クラッシュランを用いる場合は、修正C B Rの基準値に〔 〕内の数値を適用する。なお、40℃でC B R試験を行う場合は通常値を満足すればよい。																																															
⑤すり減り減量	試験方法	J I S A 1121「ロサンゼルス試験機による粗骨材のすりへり試験」〔粒度は道路用砕石S－13（13・5mm）のもの〕に基づく。																																														
規格値	50%以下																																															
⑥試験成績表	再生クラッシュランを使用する場合は、上記に掲げる②～⑤に関する試験成績表を使用前に提出しなければならない。 試験成績表は、工事で使用する日から 6か月以内 の試験成績表を有効とみなす。																																															

○再生粒度調整碎石

コンクリート塊から製造した再生粒度調整碎石を利用するにあたって、その用途を定め、品質基準を次のように規定する。

①使用用途	上層路盤材、埋戻材																																																						
②粒度	<p>最大粒径は目的に応じ適宜選択するものとする。 試験方法は、J I S A 1 1 0 2「骨材のふるい分け試験」に基づき行い、望ましい粒度範囲は下表のとおりとする</p> <table><tr><th colspan="2">粒度範囲（呼び名）</th><th>4 0 ～ 0</th><th>3 0 ～ 0</th><th>2 0 ～ 0</th></tr><tr><th colspan="2">ふるい目の開き</th><th>(RM-40)</th><th>(RM-30)</th><th>(RM-25)</th></tr><tr><td rowspan="10">通過 質 量 百 分 率 (%)</td><td>5 3 mm</td><td>1 0 0</td><td></td><td></td></tr><tr><td>3 7 . 5 mm</td><td>9 5 ～ 1 0 0</td><td>1 0 0</td><td></td></tr><tr><td>3 1 . 5 mm</td><td>—</td><td>9 5 ～ 1 0 0</td><td>1 0 0</td></tr><tr><td>2 6 . 5 mm</td><td>—</td><td>—</td><td>9 5 ～ 1 0 0</td></tr><tr><td>1 9 mm</td><td>6 0 ～ 9 0</td><td>6 0 ～ 9 0</td><td>—</td></tr><tr><td>1 3 . 2 mm</td><td>—</td><td>—</td><td>5 5 ～ 8 5</td></tr><tr><td>4 . 7 5 mm</td><td>3 0 ～ 6 5</td><td>3 0 ～ 6 5</td><td>3 0 ～ 6 5</td></tr><tr><td>2 . 3 6 mm</td><td>2 0 ～ 5 0</td><td>2 0 ～ 5 0</td><td>2 0 ～ 5 0</td></tr><tr><td>4 2 5 μ m</td><td>1 0 ～ 3 0</td><td>1 0 ～ 3 0</td><td>1 0 ～ 3 0</td></tr><tr><td>7 5 μ m</td><td>2 ～ 1 0</td><td>2 ～ 1 0</td><td>2 ～ 1 0</td></tr></table> <p>〔注〕再生骨材の粒度は、モルタル粒などを含んだ解砕されたままの見かけの骨材粒度を使用する。</p>				粒度範囲（呼び名）		4 0 ～ 0	3 0 ～ 0	2 0 ～ 0	ふるい目の開き		(RM-40)	(RM-30)	(RM-25)	通過 質 量 百 分 率 (%)	5 3 mm	1 0 0			3 7 . 5 mm	9 5 ～ 1 0 0	1 0 0		3 1 . 5 mm	—	9 5 ～ 1 0 0	1 0 0	2 6 . 5 mm	—	—	9 5 ～ 1 0 0	1 9 mm	6 0 ～ 9 0	6 0 ～ 9 0	—	1 3 . 2 mm	—	—	5 5 ～ 8 5	4 . 7 5 mm	3 0 ～ 6 5	3 0 ～ 6 5	3 0 ～ 6 5	2 . 3 6 mm	2 0 ～ 5 0	2 0 ～ 5 0	2 0 ～ 5 0	4 2 5 μ m	1 0 ～ 3 0	1 0 ～ 3 0	1 0 ～ 3 0	7 5 μ m	2 ～ 1 0	2 ～ 1 0	2 ～ 1 0
粒度範囲（呼び名）		4 0 ～ 0	3 0 ～ 0	2 0 ～ 0																																																			
ふるい目の開き		(RM-40)	(RM-30)	(RM-25)																																																			
通過 質 量 百 分 率 (%)	5 3 mm	1 0 0																																																					
	3 7 . 5 mm	9 5 ～ 1 0 0	1 0 0																																																				
	3 1 . 5 mm	—	9 5 ～ 1 0 0	1 0 0																																																			
	2 6 . 5 mm	—	—	9 5 ～ 1 0 0																																																			
	1 9 mm	6 0 ～ 9 0	6 0 ～ 9 0	—																																																			
	1 3 . 2 mm	—	—	5 5 ～ 8 5																																																			
	4 . 7 5 mm	3 0 ～ 6 5	3 0 ～ 6 5	3 0 ～ 6 5																																																			
	2 . 3 6 mm	2 0 ～ 5 0	2 0 ～ 5 0	2 0 ～ 5 0																																																			
	4 2 5 μ m	1 0 ～ 3 0	1 0 ～ 3 0	1 0 ～ 3 0																																																			
	7 5 μ m	2 ～ 1 0	2 ～ 1 0	2 ～ 1 0																																																			
③ P I（塑性指数）	試験方法	J I S A 1 2 0 5「土の液性限界・塑性限界試験」に基づく。																																																					
	規格値	4 以下																																																					
④修正 C B R	試験方法	舗装試験法便覧 2－3－1「修正 C B R 試験方法」に基づく。																																																					
	規格値	8 0〔9 0〕%以上 ただし、簡易舗装の下層路盤に使用する場合は 6 0〔7 0〕%以上とする。 アスファルトコンクリート再生材を含む再生粒度調整碎石を用いる場合は、修正 C B R の基準値に〔 〕内の数値を適用する。なお、4 0℃で C B R 試験を行う場合は通常 の 値 を 満 足 す れ ば よ い。																																																					
⑤すり減り減量	試験方法	J I S A 1 1 2 1「ロサンゼルス試験機による粗骨材のすりへり試験」〔粒度は道路用碎石 S－1 3（13・5mm）のもの〕に基づく。																																																					
	規格値	5 0 %以下																																																					
⑥骨材の安定性	試験方法	J I S A 1 1 2 2「硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験」に基づく。																																																					
	規格値	2 0 %以下																																																					
⑦試験成績表	再生粒度調整碎石を使用する場合は、上記に掲げる②～⑥に関する試験成績表を使用前に提出しなければならない。ただし⑥については、再生材のみで製造されている場合は、提出は不要とする。 試験成績表は、工事で使用する日から 6 か月以内 の試験成績表を有効と見なす。																																																						

○再生コンクリート砂

セメントコンクリート塊から製造した再生コンクリート砂を基礎材に利用するにあたって、その用途を定め、品質基準を次のように規定する。

①使用用途	電線共同溝における管路及びます部の基礎材 下水道における管路の基礎材									
②粒度	試験方法は、J I S A 1 1 0 2「骨材のふるい分け試験」に基づき行い、最大粒径及び細粒分（7 5 μ m以下）は以下のとおりとする。 <table><tr><td>用 途</td><td>最 大 粒 径</td><td>細 粒 分</td></tr><tr><td>電線共同溝における管路及びます部の基礎材</td><td>1 0 mm以下</td><td>5 0 %未満</td></tr><tr><td>下水道における管路部の基礎材</td><td>1 0 mm以下</td><td>1 0 %以下</td></tr></table>	用 途	最 大 粒 径	細 粒 分	電線共同溝における管路及びます部の基礎材	1 0 mm以下	5 0 %未満	下水道における管路部の基礎材	1 0 mm以下	1 0 %以下
用 途	最 大 粒 径	細 粒 分								
電線共同溝における管路及びます部の基礎材	1 0 mm以下	5 0 %未満								
下水道における管路部の基礎材	1 0 mm以下	1 0 %以下								
③不純物量の制限	ゴミや有機性不純物は含んではならない。									
④六価クロム溶出試験	平成3年8月23日付け環境庁告示第46号に規定される測定方法に基づき、あらかじめ土壤の汚染に係る環境基準に適合していなければならない。 各工事で1購入先当たり1検体の六価クロム溶出試験を行い、環境基準に適合することを確認しなければならない。その試験には、使用する再生砂を直接採取した試料を用い、試験を行うものとする。									
⑤試験成績表	再生コンクリート砂を使用する場合は、上記に掲げる②～④に関する試験成績表を使用前に提出しなければならない。 試験成績表は、工事で使用する日から <u>6か月以内</u> の試験成績表を有効と見なす。 六価クロム溶出試験は、プラントから提出される試験成績表と現場で採取した試料の試験成績表を提出しなければならない。									

○再生加熱アスファルト混合物

再生加熱アスファルト混合物の配合設計は、舗装再生便覧 平成22年版（社団法人 日本道路協会）に基づくものとする。

薬液注入工法による建設工事の施工に関する特記仕様書

①地下水等の水質の監視

薬液の注入による地下水及び公共用水域等の水質の汚濁を防止するため、薬液注入箇所周辺の地下水及び公共用水域等の水質の汚濁の状況を監視することを目的とする。

水質の監視は、②に掲げる地点で採水し、下表に掲げる検査項目について同表に掲げる検査方法により検査を行い、その測定値が同表に掲げる水質基準に適合しているか否かを判定することにより行うものとする。

上記検査は、公的機関またはこれと同等の能力及び信用を有する機関において行うものとする。

②採水地点

採水地点は、下記に掲げるところにより選定するものとする。

地下水については、薬液注入箇所及びその周辺の地域の地形及び地盤の状況、地下水の流向等に応じ、監視の目的を達成するため必要な箇所について選定するものとする。この場合において、注入箇所からおおむね 10 メートル以内に少なくとも数箇所採水地点を設けなければならない。

なお採水は、観測井を設けて行うものとし、監視の目的を達成するため必要な箇所について選定するものとする。

公共用水域等については、当該水域の状況に応じ、監視の目的を達成するため必要な箇所について選定するものとする。

③採水回数

イ) 工事着手前 1 回

ロ) 工 事 中 毎日 1 回以上

ハ) 工事終了後 2 週間を経過するまで毎日 1 回以上(当該地域における地下水の状況に著しい変化がないと認められる場合で、調査回数を減じて監視の目的が十分に達成されると判断されるときは、週 1 回以上)
2 週間経過後半年を経過するまでの間にあたっては、月 2 回以上

④監視の結果講ずべき措置

監視の結果、水質の測定値が下表に掲げる水質基準に適合していない場合、またはその恐れのある場合には、直ちに工事を中止し、必要な措置をとらなければならない。

水質基準

薬液の種類		検査項目	検査方法	水質基準
水ガラス系	有機物を含まないもの	水素イオン濃度	水質基準に関する省令（昭和 42 年厚生省令第 11 号。以下「厚生省令」という。）または日本工業規格 K0102 の 8 に定める方法	pH 値 8.6 以下（工事直前の測定値が 8.6 を超えるときは、当該測定値以下）であること。
	有機物を含むもの	水素イオン濃度	同 上	同 上
		過マンガン酸カリウム消費量	厚生省令に定める方法	10ppm 以下（工事直前の測定値が 10ppm を超えるときは、当該測定値以下）であること。

管渠内テレビカメラに関する特記仕様書

管渠内テレビカメラ調査

1. 調査にあたっては、管渠内を洗浄し、精度を高めるよう努めること。
2. 本管の調査は、原則として上流から下流に向け、テレビカメラを移動させながら行うこと。
3. 本管の調査にあたっては、管の破損、継手部の不良、クラック、取付管口等に十分注意しながら、全区間カラー撮影し、DVD等に収録すること。
取付管口、本管継手部、異常箇所等の必要箇所については、側視撮影を行うこと。
4. 異常箇所が認められた場合は、改善及び調査を必要とする。
5. 提出する成果品は次のとおりとする。
 - ①動画（DVD等の記録媒体）
 - ②報告書
 - ③その他監督員の指示するもの

○工事写真撮影要領

第1 この要領は、都市計画法第29条または宅地造成等規制法第8条の許可を受けた工事の、工事途中において工事施行状況を把握するため報告を求めた場合、または工事完了検査にあたって、許可を受けた内容のとおり工事が施工されているかどうかを確認する場合に必要な工事写真の撮影方法及び整理方法等について定めたものである。

第2 工事写真の撮影時期及び箇所は、次に示すものを標準とする。

1. 着手前及び完成の全景写真
2. 施工状況写真（各種別・工程毎）
 - ①土工〔伐開・除根、表土はぎ、段切り、掘削・床堀、理戻・盛土等〕
 - ②基礎工（寸法、形状、位置、数量等）
 - ③石積み工、ブロック積み工、及び透水層については、基礎から高さ1m増す毎の状況
 - ④コンクリート擁壁〔鉄筋、無筋共〕については、躯体の出来形
 - ⑤鉄筋コンクリート擁壁については、底版、たて壁その他断面計算を行った箇所の配筋状況
 - ⑥水抜穴の設置の状況
 - ⑦集・排水工、その他の構造物（寸法、形状、位置、数量等）
 - ⑧防災工事〔土堰堤、沈砂池、地下排水溝等〕（寸法、形状、位置、数量等）
 - ⑨その他必要なもの
3. 許可標識掲示状況、建設業標識等掲示状況
4. その他

第3 写真の撮影にあたっては、次の事項に注意すること。

1. 工事写真は、撮影年月日、工事名、工種名、施工場所、必要数値を表示した小黒板等を入れて撮影すること。
2. 構造物等の寸法測定写真は、すべて箱尺等の測定器具をあて、構造物等の寸法を、明確に読みとることができるようにするとともに断片的な撮影だけではなく、広範囲の撮影もすること。
3. 構造物は、タイプ毎及び箇所毎にすべて撮影すること。

第4 写真の規格・整理等は次によるものとする。

1. 写真はカラーとし、写真の大きさはサービスサイズ以上の大きさとする。
2. 工事写真は、A4判の工事写真帳に整理すること。
3. 工事写真帳の表紙には、許可年月日、許可番号、工事施行場所、申請者名及び工事施行者名を記入すること。
4. 工事写真には、工事写真帳の余白に説明書きを記入し、工程毎に見出しを付けること。
5. 構造物が多数ある場合は、工事写真帳に構造物の標準図（A4判）を添付すること。

第5 工事写真の提出部数は次によるものとする

1. 工事写真は「工事完了届出書」または「宅地造成に関する工事の完了検査申請書」の提出時に、1部提出する。
2. 工事途中において報告を求めた写真については、その指示する部数。

市道拡幅工事時の注意点

・県にて開発の完了検査前に測量を行い、境界プレート等の設置を行います。その後、開発の完了検査で境界点の位置や点間距離を確認するため、隣地との境界において、構造物の越境等を無いように施工して頂きたいです。

変更について

・図面の変更等がある場合、基準に満たしているか確認する必要がある、開発の変更も行う必要があるため、事前に情報共有して下さい。

開発用の工事完了写真を撮影してください

●着手前及び完成の全景写真

●施工状況写真

・以下の各工種の土工、基礎工（寸法、形状、位置等）

・排水工（各種類、寸法、形状、位置等）

プレキャストボックスカルバート

自由勾配側溝

大型現場打ち水路

円形側溝

街渠枡

・縁石工（各種類、寸法、形状、位置等）

縁石工

乗入境界ブロック

・舗装工（各種類、寸法、形状、位置等）

車道舗装（表層、基層、上層路盤、下層路盤）

歩道舗装（表層、路盤、フィルター層）

乗入舗装（表層、路盤）

・下水道工（各種類、寸法、形状、位置等）

下水道工事における砂基礎、下水管周囲の埋め戻し（30 cmごとに転圧）

南十三マンホールポンプ制御盤移設工事特記仕様書

第1章 総 則

第1節 適 用

本特記仕様書は、御所市のマンホールポンプ制御盤移設工事に適用するもので、特記仕様書に準拠し、監督員の指示に従って施工しなければならない。また、本特記仕様書に、特に定めていない事項については全て監督員と協議し指示を受ける。特記仕様書は共通仕様書に優先するものとする。

第2節 一般事項

1. 請負者は、本工事を施工するにあたり、共通仕様書・特記仕様書並びに関係法規を熟知し、これを遵守しなければならない。
2. 契約締結後、速やかに設計図書及び施工計画書を監督員に提出し監督員の承諾を得なければならない。
3. 工事の施工にあたっては、保安・公衆衛生等に関する諸法規を遵守し現場管理、施工管理に十分な注意を払い、災害の防止に努めて施工すること。
4. 他の関連工事（奈良県 発注工事等）と、工事用地及び施工上競合する部分については、工事施工に際してあらかじめ監督員の指示に従って関連工事請負者と綿密な連絡をとり、相互協調しあって施工するものとする。

第3節 承認事項

1. 請負者は、契約締結後直ちに設計条件、設計図面により機器を設計し機器の据付図、配管図、電気関係線図、主要機器断面寸法図、主要材料メーカーリストの図書を提出し承認を受けるものとする。
2. 請負者は、書類提出後監督員の承認を得てから製作及び施工するものとする。

第4節 適用規格

1. 特記仕様書に記載なき事項については、下記の規格、基準に準拠するものとする。
 - (1) 日本工業規格（J I S）
 - (2) 日本電気工業会標準規格（J E M）
 - (3) 電気設備技術基準
 - (4) 内線規定
 - (5) 労働安全衛生規則
 - (6) その他関係法規

第5節 その他

1. 請負者は、竣工後技術者を派遣し、監督員及び地元関係者に取扱い要領、維持管理等の指導を行うものとする。

第2章 電気設備

第1節 盤 仕 様

操作盤の仕様は以下の通りとする。

機揚NO.	形式	電源	ポンプ出力	板厚	塗装色	寸法
南十三	屋外用鋼板製装柱型	200V (60Hz)	3.7kw×2 7.5kw×2	本体2.3mm 扉2.0mm	マンセルNO 5YR2/1.5	W600×D400 ×H1500

引込盤の仕様は以下の通りとする。

機揚NO.	形式	電源	遮断器容量	板厚	塗装色	寸法
南十三	屋外用鋼板製	200V 100V	3P-30AF	本体1.5mm 扉1.5mm	マンセルNO 5YR2/1.5	W500×D200 ×H930

第2節 水位制御方式（更新）

圧力式投込水位計（通報装置付属専用品）	1 台
フロート（ケーブル 20m）	1 ケ
吊下げワイヤ	1 式

第3節 クラウド型遠隔監視システム（更新）

1. 概 要

本監視システムはポンプ設備における故障等の警報をLTE網を利用して、設備を24時間監視するシステムであり、専用サーバや専用回線が不要なクラウド型のシステム構成とする。

データセンターに蓄積された情報は、Web上で管理場所のパソコン、タブレット、スマートフォンより監視ができるものとする。

2. 子局機器仕様

数量	1式（電源ユニット＋通報ユニット）
電源電圧	1φ2W100／200V 50／60Hz
通報方式	データ／子局間通信
通報種別	デジタル入力通報／アナログ入力通報／定時通報／ 停電通報／モード切替通報 他
アナログ入力	4点以上（電圧：DC0～5／1～5V、電流：DC0～20／4～20mA） アナログ入力はデジタル入力に転用可能
デジタル入力	12点以上
デジタル出力	4点以上
停電保証時間	待機状態で1時間 バッテリー増設後7時間
動作環境	温度：-10℃～60℃ 湿度：20%～85%（結露しないこと）
外部用電源出力	5V
外形寸法	電源ユニット 210W×150H×85D程度 通報ユニット 210W×150H×85D程度
重量	約2.0kg

3. 通信回線

LTE回線

4. サービス提供者要件

以下の認定を有すること。

- ・情報セキュリティマネジメントシステム(JIS Q 27001(ISO/IEC 27001))
- ・APS/SaaSの安全・信頼性に係る情報開示認定制度

5. システム仕様

- 1) 子局間の通信機能を有すること。
- 2) ログインする端末を制限する機能を有すること。
- 3) 複数機場の運転状況や故障を一覧で確認できること。
- 4) 機場を5段階までグループ分けする機能を有すること。
- 5) 複数のデータセンターを利用した冗長構成を採用していること。
- 6) データの保存期間は10年以上とすること。

7) 下記監視機能を有すること。

①地図表示

- ・機場の位置をアイコンにて表示できること
- ・異常時はアイコンが変化すること
- ・複数の機場をグループや地区でまとめたアイコンで表示できること
- ・まとめたアイコンをクリックしたり、地図を拡大することで機場別のアイコンに表示が切り替わること
- ・マウススクロールやピンチイン、ピンチアウトによる拡大縮小ができること
- ・地図上に120分前と60分後までの雨雲レーダーを表示できること
- ・機場までのルート検索ができること

②モニタリング（各機場の現在状況を確認）

- ・水位の変動イメージや機器の動作状況を表示すること
（10秒間隔で30分間更新、1分間隔で3時間更新）
- ・モニタリング画面を参照しながら遠隔操作できること
- ・モニタリング画面は機場に合わせて作成すること
- ・別タブで表示できること

③履歴管理（警報・機器動作履歴、対応履歴）

- ・警報、機器動作は項目別にフィルタリングできること
- ・表示期間の選択ができること

④帳票出力

- ・日報(最大31日分表示)、月報(最大1年分表示)、年報、複数年報形式で表示すること
- ・帳票の表示している期間一括ダウンロードできること
- ・スマートフォンではPDF表示のみであること

⑤トレンドグラフ（ポンプ運転電流値、ポンプ井水位等）

- ・1分サンプリングで連続31日分を表示できること（日報トレンドグラフのみ）
- ・別の期間との比較できること（日報トレンドグラフのみ）
- ・グラフを3つまで表示でき、各グラフに4軸12項目分の線を描写できること
- ・警報発生、復旧時から10分前までを抽出した1秒サンプリングのグラフを表示できること
- ・グラフの拡大縮小ができること
- ・グラフの線上にPCのカーソルを合わせたり、タブレット画面をタップすることでグラフの数値を表示できること
- ・CSVとPDFでデータをダウンロードできること
- ・スマートフォンではPDF表示のみであること

⑥施設台帳、ファイルアップロード、ダウンロード機能

- ・任意のテキスト入力ができること
- ・下記形式のファイルが20MB以内なら10個まで保存できること
画像ファイル（jpeg, jpg, png, gif, bmp）、Word、Excel、PowerPoint
PDF、テキストファイル（txt）

⑦メール通報機能

- ・機場名称・住所・発生内容・発生時刻が記載されていること
- ・警報レベルを重度、軽度に分別できること
- ・ユーザごとに重度のみ通報するか、両方通報するかの設定ができること

- ・日報、日報トレンド、機場最新情報の不備通知を送信できること
- ・稼働比が5日連続で1.5倍以上稼働している場合に自動で検知し、稼働比通知を送信出来ること

⑧スケジュール管理機能

- ・ユーザごとに日付、曜日にてメール通報を停止する設定ができること

⑨データの外部サーバ転送機能

- ・指定されたサーバにFTP、SFTPでデジタルデータ、アナログデータを転送できること

6. 付属品

LTEルータ、同左電源ケーブル、アンテナ、LANケーブル、SDカード

第4節 盤取付機器

1)	直流電圧計	1 個
2)	直流電流計（3 倍延長目盛り）	2 個
3)	集合形表示灯	1 式
4)	運転時間積算計	2 個
5)	切換スイッチ	2 個
6)	操作スイッチ	2 個
7)	押しボタンスイッチ	3 個
8)	名称銘板、用途銘板	1 式
9)	配線用遮断器	1 式
10)	漏電遮断器	1 式
11)	電磁接触器	1 式
12)	進相コンデンサー	1 式
13)	過電流継電器	1 式
14)	変流器	1 式
15)	フロートレススイッチ	1 式
16)	交互切換リレー	1 式
17)	補助リレー	1 式
18)	限時継電器	1 式
19)	ヒューズ	1 式
20)	盤内照明灯	1 台
21)	スペースヒーター サーモスイッチ共	1 台
22)	ドアスイッチ	1 個
23)	自家発電電源端子	1 式
24)	2 極双投カバー付きスイッチ	1 台
25)	端子台及び内部配線	1 台
26)	電話用保安器取付スペース	1 式
27)	自動通報装置	1 式

第3章 ポンプ運転操作方法等

第1節 運転制御方式

1. 概要

本装置のポンプは「手動」運転、「自動」運転のモードが選択できる。
また、公共用の運転は「1号自動」「交互運転」「2号自動」のモードが選択できる。

2. 運転モード選択

モード切換スイッチで「手動」－「1号」－「交互」－「2号」の何れかを選択する。
また、個人用のモード切換スイッチは「手動」－「自動」の何れかを選択する。

3. 手動運転

上記の「手動」を選択することにより手動運転が可能。「手動」運転は任意にポンプの運転停止が行えるもので、盤操作面の「運転」「停止」操作ボタンスイッチで操作できる。「運転」操作ボタンスイッチを操作するとポンプは運転し、「停止」操作ボタンスイッチを操作するとポンプは停止する。

4. 自動運転

自動運転は、マンホール内水位により、「自動起動」－「自動停止」し、公共用の自動運転では、「1号」「交互」「2号」の3種類のモードが選択できる。

(1) 操作面の「運転モード」切換スイッチを「自動」側に切換え、マンホール水位が「HWL」まで上昇するとポンプが起動する。また、ポンプ運転により水位が「LWL」まで下降すると一定時間延長運転後ポンプは自動停止する。

(2) 水位計の異常等により「HWL」でポンプが起動しない場合、「HHWL」にてポンプが起動する。

(3) 公共用の場合、先発ポンプが運転中に故障すると後発ポンプに自動的に切換えられ、自動運転を継続する。また、ポンプ選択スイッチを「交互」から「1号」又は「2号」に切換えると当該ポンプのみ「HWL」以上で運転し、「LWL」以下を検知後一定時間延長運転後停止する。

5. 故障時飛越し運転

公共用の場合、ポンプ運転中、故障発生により自動停止した場合、休止中のポンプが自動運転する異常飛越し運転機能を有する。但し、本機能は交互運転時のみ有効。

6. 水位検出

マンホール内の水位検出は、圧力式投込水位計で検出する。バックアップ（圧力式投込水位計の故障等）として、フロート式水位計を1ヶ所使用する。

7. 水位検出点数

水位検出点数は3点で「LWL」「HWL」「HHWL」とタイマーによる水位検出

第3節 異常時の処理

ポンプ又はマンホール内水位の異常時には、自動的に当該表示灯が点灯灯する。

又、自動通報装置にて指定された場所へ通報する。

1. ポンプ漏電、又は当該漏電遮断器断

ポンプの主漏電遮断器が「切」の状態の場合、ポンプは自動停止する。

復帰は、漏電遮断器を入に操作した後リセットボタンを押す。

2. ポンプ過電流

ポンプ運転中、過電流継電器が作動するとポンプは自動停止する。復帰は、過電流リレーをリセットした後「表示復帰」ボタンを押す。

第4章 電気配線工事

1. 本工事は、ポンプ運転に必要な動力制御配線工事及び引込柱、二次側以降の配線工事とする。但し、最寄の電柱からの引込については、請負者が電力会社への申請手続きを行うものとする。

2. 配線施工に際しては、監督員と充分協議の上、その指示に従うものとする。

3. 本工事施工に伴う一切の手続きは、請負者の負担において行うものとする。

御所市下水道工事

標 準 仕 様 書

平 成 2 6 年 1 0 月

御 所 市

都 市 整 備 課

[1] 管きょ工（開削）

（1）管きょ土工

1. 準備工

①管きょ工（開削）の施工にあたり、工事着手前に施工場所の土質、地下水の状況、地下埋設物、危険箇所、その他工事に係わる諸条件を十分調査し、その結果に基づき現場に適応した施工計画を作成して**監督職員に提出**しなければならない。

2. 管きょ掘削工

①管路掘削の施工にあたり、特に指定のない限り地質の硬軟、地形及び現地の状況により安全な工法をもって、設計図書に示した工事目的物の深さまで掘り下げなければならない。

②床掘り箇所の湧水及び滞水などは、ポンプあるいは排水溝を設けるなどして排除しなければならない。

③構造物及び埋設物に近接して掘削するにあたり、周辺地盤の緩み、沈下等の防止に注意して施工し、必要に応じ、当該施設の管理者と協議のうえ防護措置を行わなければならない。

3. 管きょ埋戻工

①埋戻し材料について、良質な土砂又は設計図書で指定されたもので監督職員の承諾を得たものを使用しなければならない。

②埋戻しの施工にあたり、管の両側より同時に埋戻し、管きょその他の構造物の側面に空隙を生じないように十分突固めなければならない。また、**管の周辺及び管頂 30 c m**までは特に注意して施工しなければならない。

③埋戻しを施工するにあたり、設計図書に基づき、各層所定の厚さ毎に両側の埋戻し高さが均等になるように、**必ず人力及びタンパ等**により十分締固めなければならない。また、一層の仕上がり厚は、**30 c m以下を基本**として埋戻さなければならない。

④埋戻し箇所に湧水及び滞水がある場合は、施工前に排水しなければならない。

⑤埋戻しの施工にあたり、土質及び使用機械に応じた適切な含水比の状態で行わなければならない。

⑥埋戻し土の締固め試験を実施する。埋戻し土の締固度は90%以上を基準とする。試験箇所、試験頻度、試験方法は設計図書に示したとおりである。

4. 発生土処理工

①生土処分にあたり、発注者の指定した場所に運搬、処分する。指定のない場合は、捨場所、運搬方法、運搬経路等の計画書を作成し、監督職員に提出しなければならない。現場に管を保管する場合には、第三者が保管場所に立ち入らないよう柵等を設けるとともに、倒壊等が生じないように十分な安全対策を講じなければならない。

(2) 管布設工

1. 管等の保管

- ①現場に管を保管する場合には、第三者が保管場所に立ち入らないよう柵等を設けるとともに、倒壊等が生じないように十分な安全対策を講じなければならない。
- ②硬質塩化ビニル管を保管するときは、シート等の覆いをかけ、管に有害な曲がりやそりが生じないように措置しなければならない。
- ③接着剤、樹脂系接合剤、滑剤、ゴム輪等は、材質の変質を防止する措置をとらなければならない。

2. 管布設 (硬質塩化ビニル管)

- ①管の布設にあたり、上流の方向に受け口を向け、他方の管端を既設管に密着させ、中心線、勾配及び管底高を保ち、かつ漏水・不陸・偏心等が生じないように施工しなければならない。
- ②ゴム輪接合においてゴム輪が正確に溝に納まっているかを確認し、ゴム輪がねじれていたりはみ出している場合は、正確に再装着しなければならない。
- ③ゴム輪接合用滑剤をゴム輪表面及び差口管に均一に塗り、管軸に合わせて差口を所定の位置まで挿入し、ゴム輪の位置、ねじれ、はみ出しがないかチェックゲージ（薄板ゲージ）で確認しなければならない。また、管の挿入については、挿入機またはてこ棒を使用しなければならない。
- ④滑剤には、ゴム輪接合専用滑剤を使用し、グリス、油等を用いてはならない。
- ⑤接着接合においては、差込み深さの印を直管の外面に付けなければならない。
- ⑥接着接合において、接着剤を受口内面及び差口外面の接合面に塗りもらしなく均一に素早く塗らなければならない。

⑦接着剤塗布後は、素早く差口を受口に挿入し、所定の位置まで差込み、そのまま暫く保持する。なお、呼び径200以上は原則として挿入機を使用しなければならない。かけや等による叩込みはしてはならない。

3. 管布設（リブ付き硬質塩化ビニル管）

①ゴム輪が正確に挿入管の端面から第2番目と第3番目のリブの間に納まっているか確認し、ゴム輪がねじれていたり、はみ出している場合は、ゴム輪を外し溝及びゴム輪を拭いてから正確に再装着しなければならない。

②ゴム輪接合に使用する滑剤は硬質塩化ビニル管用滑剤を使用し、グリス、油等はゴム輪を劣化させるので使用してはならない。

③ゴム輪接合用滑剤をゴム輪表面及び差し口に均一に塗り、管軸に合わせて差込口を所定の位置まで挿入しなければならない。差込は原則として挿入機を使用しなくてはならない。ただし、呼び径300以下はてこ棒を使用してもよい。また挿入する時、たたき込みなど衝撃的な力を加えてはならない。

4. 管の切断・せん孔

①硬質塩化ビニル管を切断・せん孔する場合、寸法出しを正確に行い、**管軸に直角に**標線を記入して標線に沿って、切断・せん孔面の食違いを生じないようにしなければならない。なお、切断・せん孔面に生じたばりや食違いを平らに仕上げるとともに、管端内外面を軽く面取りし、**ゴム輪接合の場合は**、グラインダー・やすり等を用いて規定（15～30度）の面取りをしなければならない。

5. 埋設標識テープ

①本管の埋戻しに際し、設計図書に基づき、管の上部に埋設標識テープを布設しなければならない。埋設標識テープは埋戻し及び締固めを行った後、マンホールからマンホールまで切れ目なく布設しなければならない。

②埋設位置は、**管頂から50cm**上方を標準とする。

③埋設標識テープの材質、寸法、標語等は監督職員の承諾を得ること。

6. マンホール削孔接続

- ①マンホールに接続する管の端面を内壁に一致させなければならない。
- ②既設部分への接続に対しては必ず、既設管底高及びマンホール高を測量し、設計高との照査を行い監督職員に報告しなければならない。
- ③既設マンホールその他地下構造物に出入りする場合には、必ず事前に滞留する有毒ガス、酸素欠乏等に対して十分な調査を行わなければならない。

(3) 管基礎工

1. 砂基礎

- ①砂基礎を行う場合、設計図書に示す基礎用砂を所定の厚さまで十分締固めた後管布設を行い、さらに砂の敷均し、締固めを行わなければならない。なおこの時、砂は管の損傷、移動等が生じないように投入し、管の周辺には空隙が生じないように締固めなければならない。

2. 碎石基礎

- ①碎石基礎を行う場合、あらかじめ整地した基礎面に碎石を所定の厚さに均等に敷均し、十分に突固め所定の寸法に仕上げなければならない。

(4) 管きょ土留工

1. 軽量鋼矢板土留

- ①矢板は、余堀りをしないように堀削の進行に合わせて垂直に建込むものとし、矢板先端を堀削面下**20cm程度貫入**させなければならない。
- ②バックホウの打撃による建込み作業は行ってはならない。
- ③矢板と地山の間隙は、砂詰め等により裏込めを行わなければならない。
- ④建込みの法線が不揃いとなった場合は、一旦引抜いて再度建込むものとする。
- ⑤矢板を引抜くときは、埋戻しが完了した高さだけ引抜くこと。
- ⑥矢板の引抜き跡については、沈下など地盤の変状を生じないよう空洞を砂等で充填しなければならない。

2. 支保土

①土留支保工は、掘削の進行に伴い設置しなければならない。

②土留支保工は、土圧に十分耐えうるものを使用し、施工中に緩みが生じて落下することのないよう施工しなければならない。

(5) 開削水替工

①工事区域に湧水、滞水等がある場合は、現場に適した設備、方法により排水をしなければならない。

②工事により発生する濁水を関係法令等に従って、濁りの除去等の処理を行った後、放流しなければならない。

③周辺に井戸等がある場合には、状況の把握に努め被害を与えないようにしなければならない。
施工期間を通して、井戸の水位調査をすること。水位低下が認められる場合には適切な措置をとり、その結果を監督職員へ報告しなければならない。

④河川あるいは下水道等に排水する場合においては、工事着手前に、河川法、下水道法の規定に基づき、当該管理者に届出あるいは許可を受けなければならない。

[2] 管きょ工（小口径推進）

（1）小口径推進工

1. 準備工

①推進工の施工にあたり、工事着手前に施工場所の土質、地下水の状況、地下埋設物、危険箇所、その他工事に係わる諸条件を十分調査し、その結果に基づき現場に適応した施工計画を作成して**監督職員に提出**しなければならない。

2. 推進管の保管

- ①推進管の運搬、保管、据付けの際、管に衝撃を与えないように注意して取扱わなければならない。
- ②現場に管を保管する場合には、第三者が保管場所に立入らないよう柵等を設けるとともに、倒壊等が生じないよう十分な安全対策を講じなければならない。
- ③管の吊おろしについては、現場の状況に適応した安全な方法により丁寧に行わなければならない。

3. 掘進機

- ①掘進機について掘進路線の**土質条件に適応する**形式を選定しなければならない。
- ②基本的に位置・傾きを正確に測定でき、**容易に方向修正が可能な掘進機**を使用しなければならない。
- ③掘進機は、変形及び磨耗の少ない堅牢な構造のものでなければならない。

4. 計測

- ①小口径掘進機を推進管の計画管底高及び方向に基づいて設置しなければならない。
- ②掘進中常に掘進機の方向測量を行い、**掘進機の姿勢を制御**しなければならない。
- ③掘進時には**設計図書に示した管底高・方向等計画線の維持**に努め、管の蛇行・屈曲が生じないように測量を行わなければならない。
- ④計画線に基づく上下・左右のずれ等について計測を行い、**その記録を監督職員に提出**しなければならない。

5. 掘進管理

- ①掘進機の運転操作に従事する技能者は、豊富な実務経験と知識を有し熟知した者でなければならない。
- ②掘進機の操作に当たり、適切な運転を行い、**地盤の変動**には特に留意しなければならない。
- ③掘進管理において地盤の特性、施工条件等を考慮した**適切な管理基準を定めて**行わなければならない。

6. 管の接合

- ①管の接合にあたり、管の規格にあった接合方法で接合部を十分に密着させ、接合部の**水密性を保つ**ように施工しなければならない。

7. 滑剤注入

- ①滑材注入にあたり、注入材料の選定と注入圧及び注入量の管理に留意しなければならない。

8. 泥水推進工

- ①泥水推進工着手前に推進位置の土質と地下水位を十分把握して、適した泥水圧を選定しなければならない。

9. 発生土処理

- ①発生土、泥水及び泥土（建設汚泥）処分にあたり、発注者の指示した場所に運搬、処分する。
- ②特に指定のない場合は、捨場所、運搬方法、運搬経路等の計画書を作成し、監督職員に提出しなければならない。
- ③発生土、泥水及び泥土（建設汚泥）については**関係法令に基づき**適正に処分しなければならない。

（2）仮設備工

1. 鏡切り

- ①鏡切りの施工にあたり、**切羽部の地盤の安定を確認**した後、地山崩壊に注意し、慎重に作業しなければならない。

2. 推進設備

- ①油圧及び電気機器について十分能力に余裕あるものを選定するものとし、**常時点検整備**に努め故障を未然に防止しなければならない。
- ②推進延長に比例して増加する**ジャッキ圧の測定等**についてデータシートを**監督職員に提出**しなければならない。

(3) 送排泥設備工

1. 送排泥設備

- ①切羽の安定、送排泥の輸送等に必要な容量の送排泥ポンプ及び送排泥管等の設備を設けなければならない。
- ②**送排泥管に流体の流量を測定できる装置**を設け、掘削土量及び切羽の逸水等を監視しなければならない。
- ③送排泥ポンプの回転数、送泥水压及び送排泥流量を監視し、十分な運転管理を行わなければならない。

(4) 汚泥処理設備工

1. 泥水処理設備

- ①掘削土の性状、掘削土量、作業サイクル及び立地条件等を十分考慮し、泥水処理設備を設けなければならない。
- ②泥水処理設備を常に監視し、泥水の処理に支障をきたさないよう運転管理に努めなければならない。
- ③泥水処理設備の管理及び処理にあたり、**周辺及び路上等の環境保全に留意**し必要な対策を講じなければならない。

2. 泥水運搬処理

- ①凝集剤は有害性のない薬品を使用しなければならない。
- ②凝集剤を使用する場合は土質成分に適した材質、配合のものとし、**その使用量は必要最小限にとどめ**なければならない。

③泥水処理された土砂を、運搬が可能な状態にして搬出しなければならない。

④**余剰水**は関係法令等に従い、必ず**規制基準値内**となるよう水質環境の保全に十分留意して処理しなければならない。

[3] マンホール工

(1) 組立マンホール工

1. 組立マンホール

- ①マンホールの設置位置は、設計図書に示された事項をもとに、決定しなければならない。
位置決定に際し、**監督職員の承諾**を得ること。
- ②マンホール天端の仕上り高さ及び勾配は、道路または敷地の**表面勾配に合致**するよう仕上げなければならない。
- ③マンホールの据付けにあたり、部材間が**密着**するよう施工しなければならない。
- ④ブロックの据付けにあたり、**内面を一致させ垂直**に据付けなければならない。また、据付け前にブロック相互の接合面を清掃し、**止水用シール材**の塗布あるいは設置を行わなければならない。
- ⑤マンホール蓋の高さの調整にあたり、**調整リング**、調整金具等で行い、調整部のモルタルは、十分充填しなければならない。
- ⑥組立マンホールの削孔は、原則として**製造工場**で行わなければならない。これにより難い場合は**監督職員と協議**しなければならない。
- ⑦組立マンホールの削孔位置は、流出入管の管径、流出入数、流出入角度、落差等に適合するように定めなければならない。
- ⑧削孔は、**躯体ブロック及び直壁ブロック**に行うものとし、斜壁ブロックに削孔してはならない。
- ⑨マンホールに取付ける管の軸方向の中心線は、原則としてマンホールの中心に一致させなければならない。
- ⑩マンホールに取付ける管は、**管の端面を内壁に一致**させなければならない。
- ⑪管体とマンホール壁体の接続部分には**可とう継手**を使用する。丁寧に施工し漏水のないよう仕上げなければならない。

2. インバート工

- ①インバートの施工は、管取付け部、底部及び側壁部より**漏水が生じないことを確認**した後、行わなければならない。
- ②インバートは、流入下水流れに沿う線形とし、表面は汚物等が付着、停滞せず流れるよう、接続管の管径、管底に合わせて**滑らかに仕上げ**なければならない。
- ③インバートは、**管径の1/2を超えない高さ**を標準とする。

3. 副管工

- ①副管の取付けにあたり、本管のせん孔は、クラックが入らないよう丁寧に施工し、また管口、目地等も本管の施工に準じて施工しなければならない。
- ②副管の本管への接合は、**管端が突出しない**よう注意しなければならない。
- ③副管の設置は**鉛直**に行わなければならない。
- ④段差が**60cm**以上のときは、流量に応じた副管を設置する。
- ⑤副管設置の**詳細図を作成**し監督職員の承諾を得ること。

(2) 小型マンホール工

1. 組立マンホール

- ①マンホールの設置位置は、設計図書に示された事項をもとに、決定しなければならない。
位置決定に際し、**監督職員の承諾**を得ること。
- ②マンホール天端の仕上り高さ及び勾配は、道路または敷地の**表面勾配に合致する**よう仕上げなければならない。
- ③基礎工は、マンホール本体に**歪みや沈下が生じない**ように施工しなければならない。
- ④据付けは、本管の勾配、軸心及び高さ、インバート部の勾配を考慮して施工しなければならない。
- ⑤インバート部と立上り部及び本管との接合にあたっては、接合時にマンホール本体が移動しないよう注意して施工しなければならない。

〔４〕 取付管及びます工

（１） ます設置工

１． ます

- ① ますの設置位置について、**監督職員の承諾**を得なければならない。
- ② ます設置工の施工について、安全かつ効率的な施工方法について検討の上、施工計画書に明記し監督職員に提出しなければならない。
- ③ ますの深さを決定する場合、宅地の奥行き・宅地の地盤高等を調査しなければならない。
- ④ ますの深さを決定する場合、御所市が定める排水管の内径及び勾配を遵守すること。

（２） 取付管布設工

１． 取付管

- ① 取付管布設工の施工については、工事着手前に公共下水道使用者と十分打合せて位置を選定しなければならない。
- ② 地下埋設物等の都合により設計図書で示す構造をとり難い場合は、**監督職員の指示**を受けなければならない。
- ③ 取付管と**本管の接合部**及び取付管と**ますの接合部**は、接合前に必ず汚泥等を除去し清掃しなければならない。
- ④ 取付管とますとの接続は、取付管の管端をますの**内面に一致**させ、突出してはならない。接合部は、モルタル、特殊接合剤等で充填し漏水がないよう仕上げること。
- ⑤ 取付管と施工について、安全かつ効率的な施工法について検討のうえ、施工計画書に明記し監督職員に提出しなければならない。
- ⑥ 取付管の**最小管径は１５０mm**とする。
- ⑦ 取付管は本管の**中心より上方４５度**付近に取り付ける。
- ⑧ 本管と取付管の接合は**可とう支管継手**を用いる。継手の仕様は**監督職員の承諾**を得ること。
- ⑨ 取付管は自在曲管を用いて勾配の調整をすること。

[5] 道路復旧工

(1) 舗装工

1. 材料

①アスファルト舗装工に使用する材料について、以下は**設計図書**によるものとする。

- ・ 表層・基層に使用する**アスファルト及びアスファルト混合物**の種類
- ・ 粒度調整路盤材の最大粒径

②以下の材料の**試料及び試験結果**を、工事に使用する前に**監督職員に提出**しなければならない。ただし、これまでに使用実績があるものを用いる場合は、その試験成績表を**監督職員が承諾**した場合はこの限りでない。

- ・ 表層・基層に使用する**アスファルト及びアスファルト混合物**の種類
- ・ 粒度調整路盤材の最大粒径

③以下の材料の品質証明書を**監督職員に提出**しなければならない。

- ・ 表層・基層に使用する**アスファルト**
- ・ プライムコート及びタックコートに使用する瀝青材料

④アスファルト舗装の基層及び表層に再生アスファルトを使用する場合、以下の規定に従わなければならない。

- ・ プラントで使用する**再生用添加剤の種類**については、**監督職員の承諾**を得ること。
- ・ 再生用添加剤は、**アスファルト系又は石油潤滑油系**とする。

⑤基層及び表層に使用する**骨材**は、碎石、玉砕、砂利、製鋼スラグ、砂及び再生骨材とする。

⑥基層及び表層に使用する**細骨材**は、天然砂、スクリーニングス、高炉水砕スラグ、クリンカーアッシュ、またはそれらを混合したものとする。

⑦基層及び表層に使用する**フィラー**は、石灰岩やその他の岩石を粉砕した石粉、消石灰、セメント、回収ダスト及びフライアッシュ等とする。

⑧密粒度アスファルトの骨材の最大粒径は**車道部 20 mm**、**歩道部及び車道部のすりつけ舗装は 20 mm または 13 mm**とする。

2. 舗装撤去工

- ①**設計図書**に示された断面となるように、既設舗装を撤去しなければならない。
- ②既設舗装の撤去によって周辺の舗装や構造物に影響を及ぼす懸念がもたれた場合や、計画撤去層より下層に**不良部分が発見**された場合は、その処置方法について速やかに**監督職員と協議**しなければならない。

3. アスファルト舗装工

- ①粒度調整路盤材の敷均しにあたり、**材料の分離に注意**して敷均し、締固めはマカダムローラ、タイヤローラを用いて締固めなければならない。
- ②加熱アスファルト混合物の粒度及びアスファルト量の決定にあたり、**設計配合**を行い**監督職員の確認**を得なければならない。ただし小規模工事においては、これまでの実績または定期試験による配合設計書の**提出**により配合設計を省略することができる。
- ③舗設に先立って、**設計配合に従い**試験練りを行わなければならない。ただし小規模工事においては、これまでの実績または定期試験による試験練り結果報告書の**提出**により試験練りを省略することができる。
- ④表層及び基層の加熱アスファルト混合物の**基準密度の決定**にあたり、小規模工事においては、実績や定期試験で得られている**基準密度の試験結果を提出**することにより、基準密度試験を省略することができる。
- ⑤表層工及び基層工の施工にあたり、プライムコート及びタックコートの使用量は設計図書によるものとする。
- ⑥プライムコート及びタックコートの散布にあたり、縁石等の構造物を汚さないようにしながら、**アスファルトディストリビュータ**または**エンジンブレーヤ**で均一に散布しなければならない。
- ⑦プライムコート施工後、交通を開放する場合は、瀝青材料の車輪への付着を防ぐため、粗目砂等を散布しなければならない。
- ⑧加熱アスファルト混合物の敷均しにあたり、敷均し機械は施工条件に合った機種のアスファルトフィニッシャーを選定すること。
- ⑨加熱アスファルト混合物の舗設作業を監督職員が承諾した場合を除き、気温が5℃以下の時は施工してはならない。
- ⑩加熱アスファルト混合物の締固めにあたり、締固め機械は施工条件に合ったローラを選定しなければならない。

- ⑪加熱アスファルト混合物を敷均した後、ローラにより締固めなければならない。
- ⑫加熱アスファルト混合物をローラによる締固めが不可能な箇所は、タンパ、プレート、コテ等で締固めなければならない。
- ⑬監督職員の指示による場合を除き、舗装表面温度が50℃以下になってから交通開放を行わなければならない。
- ⑭加熱アスファルト混合物の初期締固め温度は110℃以上でなければならない。
- ⑮表層施工後3メートルプロフィルメーター等を使用し、道路の平坦性試験を実施しなければならない。車道及び側帯の舗装路面の施工直後の平坦性の規格値は**2.4mm**以下とする。

位置図



令和7年度

実施設計書

(当 初)

御所市

部長				課長				課長 補佐				主任					検算				設計			
作成年月日											工 事 概 要	当 初				変 更								
工 事 名		御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事										[全体] 工事延長 L=71.0m												
工 事 番 号		都整第 号										推 進 工 φ 200mm L=65.7m												
路線・河川名												立 坑 工 φ 2.0, 1.5m n= 3.0㍓												
工 事 箇 所		御所市 東辻 地内										人 孔 工 組立1号 n= 3.0㍓												
											取付管及び				n= 1.0㍓									
											枴 工				一式									
											付 帯 工													
当初設計金額 (変更前)		円									当初請負金額 (変更前)		円											
変更設計金額 (変更後)		円									変更請負金額 (変更後)		円											
変更請負金額 計 算 式		(請 負 率) 当初請負額 ÷ 当初設計額 = 円÷ 円=																						
		(変 更 価 格) 変更設計工事価格×請負率 = 円× = 円																						
		(変 更 消 費 税 等 相 当 額) 変更価格 × 0.1 = 円× = 円																						
		(変 更 契 約 額) 変更価格+変更消費税等相当額 = 円+ 円= 円																						

事 務 所 名	御所市	単価適用年月	令和 7年 3月
課 名・係 名	都市整備課	歩掛適用年月	令和 7年 3月
単 価 地 区	4 地区	損料適用年月	令和 7年 3月
適 用 工 種	下水道工事（2）	諸経費適用年月	令和 7年 3月
調 整 区 分	本附	一般管理費 前払	補正を行わない
施工地域区分	補正を行わない	契 約 保 証	補正しない
現場環境改善費	計上しない		
変 更 理 由	<div>-----</div> <div>-----</div> <div>-----</div> <div>-----</div>		

事業費総括表

費目	金額	摘要
事業費		
工事費		
本工事費		別紙内訳書のとおり
測量及び試験費		
補償費		
用地費		
機械器具費		
営繕費		
工事雑費		
応急工事費		
事務費		

令和7年度

実施設計書

(当 初)

御所市

部長				課長				課長 補佐				主任					検算				設計			
作成年月日											工 事 概 要	当 初					変 更							
工 事 名		御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事										[補助] 工事延長 L=71.0m												
工 事 番 号		都整第 号										推 進 工 φ 200mm L=65.7m 立 坑 工 φ 2.0, 1.5m n= 3.0㍓ 人 孔 工 組立1号 n= 3.0㍓ 取付管及び 枺 工 n= 1.0㍓ 付 帯 工 一式												
路線・河川名																								
工 事 箇 所		御所市 東辻 地内																						
当初設計金額 (変更前)		円									当初請負金額 (変更前)			円										
変更設計金額 (変更後)		円									変更請負金額 (変更後)			円										
変更請負金額 計 算 式		(請 負 率) 当初請負額 ÷ 当初設計額 = 円÷ 円=																						
		(変 更 価 格) 変更設計工事価格×請負率 = 円× = 円																						
		(変 更 消 費 税 等 相 当 額) 変更価格 × 0. 1 = 円× = 円																						
		(変 更 契 約 額) 変更価格+変更消費税等相当額= 円+ 円= 円																						

事 務 所 名	御所市	単価適用年月	令和 7年 3月
課 名・係 名	都市整備課	歩掛適用年月	令和 7年 3月
単 価 地 区	4 地区	損料適用年月	令和 7年 3月
適 用 工 種	下水道工事（2）	諸経費適用年月	令和 7年 3月
調 整 区 分	本附	一般管理費 前払	補正を行わない
施工地域区分	補正を行わない	契 約 保 証	補正しない
現場環境改善費	計上しない		
変 更 理 由	<div>-----</div> <div>-----</div> <div>-----</div> <div>-----</div>		

設計内訳書（本工事）

工事番号： 都整第 号

工事名	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事				事業区分 工事区分	下水道 管路
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
管路						レベル1
		式	1			
マンホール工 推進部						レベル2
		式	1			
組立マンホール工						レベル3
		式	1			
組立1号マンホール	T-25					単 1 号
		箇所	3			
伸縮可とう継手(管)	φ 400mm用					単 2 号
		箇所	6			
内副管	φ 150mm h=2.292m					単 3 号
		箇所	1			
推進水替工						レベル3
		式	1			
推進用水替						単 4 号
		日				
取付管およびます工						レベル2
		式	1			
管路土工						レベル3
		式	1			
管路掘削 BH_0.1						単 5 号
		m3	0.6			

設計内訳書（本工事）

工事番号： 都整第 号

工事名	御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事				事業区分 工事区分	下水道 管路
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
管路掘削 人力						単 6 号
		m3	0.5			
管路埋戻						単 7 号
		m3	0.4			
発生土処理						単 8 号
		m3	0.7			
ます設置工						レベル3
		式	1			
ます	塩ビ桝 φ200mm h≦1.0m					単 9 号
		箇所	1			
取付管布設工						レベル3
		式	1			
取付管	プレキャスト直管 φ150mm					単 10 号
		m	2.7			
管きょ工(小口径推進)＜管径φ400mm＞ ＜低耐荷力泥土圧推進工法＞						レベル2
		式	1			
低耐荷力泥土圧推進工						レベル3
		式	1			
推進用硬質塩化ビニル管(低耐荷力泥土 圧) アイアンモール工法						単 11 号
		m	65.7			
発生土処理						単 12 号
		m3	2.6			

設計内訳書（本工事）

工事番号： 都整第 号

工事名	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事				事業区分 工事区分	下水道 管路
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
立坑内管布設工						レベル3
		式	1			
硬質塩化ビニル管	VP φ 200mm					単 13 号
		m	2.6			
砂基礎						単 14 号
		m	0.4			
仮設備工(小口径)						レベル3
		式	1			
坑口(小口径)						単 15 号
		箇所	5			
坑口(既設)						単 16 号
		箇所	1			
鏡切り						単 17 号
		箇所	6			
推進設備等設置撤去	据付・撤去					単 18 号
		箇所	2			
推進設備等設置撤去 方向転換	据換					単 19 号
		箇所	1			
推進水替工						レベル3
		式	1			
推進用水替						単 20 号
		日				

設計内訳書（本工事）

工事番号： 都整第 号

工事名	御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事				事業区分 工事区分	下水道 管路
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
補助地盤改良工						レベル3
		式	1			
薬液注入	改良範囲：4.131m 溶液型無機系					単 21 号
		本	24			
立坑工（立坑名称、基数）						レベル2
		式	1			
鋼製ケーシング式土留工及び土工 φ2000mm No.5, 6						レベル3
		式	1			
鋼製ケーシング撤去工						単 22 号
		箇所	2			
円形覆工板						単 23 号
		箇所	2			
埋戻 RC-40						単 24 号
		m3	7.9			
鋼製ケーシング式土留工及び土工 φ1500mm No.7						レベル3
		式	1			
鋼製ケーシング撤去工						単 25 号
		箇所	1			
円形覆工板						単 26 号
		箇所	1			
埋戻 RC-40						単 27 号
		m3	2.2			

設計内訳書（本工事）

工事番号： 都整第 号

工事名	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事				事業区分 工事区分	下水道 管路
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
付帯工						レベル2
		式	1			
舗装版破碎工						レベル3
		式	1			
舗装版切断	アスファルト舗装版 舗装厚：50mm					単 28 号
		m	1.8			
舗装版破碎(小規模)						単 29 号
		m2	0.7			
殻運搬	舗装版破碎					単 30 号
		m3	0.1			
殻処分	アスファルト殻					単 31 号
		m3	0.1			
アスファルト舗装復旧工						レベル3
		式	1			
上層路盤(車道・路肩部)	路盤材(砕石各種) RC-40 仕上り厚：200mm					単 32 号
		m2	7.8			
表層(車道・路肩部)	再生密粒度アスコン(20) 舗装厚：50mm 1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下)					単 33 号
		m2	7.9			
仮設工						レベル2
		式	1			
交通管理工						レベル3
		式	1			

設計内訳書（本工事）

工事番号： 都整第 号

工事名	御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事				事業区分 工事区分	下水道 管路
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
交通誘導警備員 推進部						単 34 号
		人日	42.0			
直接工事費						
		式	1			
共通仮設						レベル1
		式	1			
共通仮設費						レベル2
		式	1			
運搬費						レベル3
		式	1			
仮設材運搬費 推進部						単 35 号
		t	3.050			
技術管理費						レベル3
		式	1			
施工調査費 L=400m						内 1 号
		式	1			
共通仮設費(率計上)						レベル2
		式	1			
純工事費						
		式	1			
現場管理費						
		式	1			

設計内訳書（本工事）

工事番号： 都整第 号

工事名	御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事				事業区分 工事区分	下水道 管路
工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量	単価	金額	摘要
工事原価						
		式	1			
一般管理費等						
		式	1			
工事価格						
		式	1			
消費税相当額						
		式	1			
工事費						
		式	1			

一式当り内訳書 (本工事)

單價使用年月	2025.03			
步掛適用年月	2025.03			
勞務調整係數	1.000-0000-0-1.00	0.0	0	

[illegible]

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 1号	組立1号マンホール	T-25	単位	箇所	割戻数量	3	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
ブロック 蓋 受枠 可とう継手等							単	36 号
			式	1				
組立マンホール設置工 (市場単価)		1号(900mm) 3m以下 4箇所未満 無 無					単	37 号
			箇所	2				
組立マンホール設置工 (市場単価)		1号(900mm) 3m超～4m以下 4箇所未 満 無 無					単	38 号
			箇所	1				
流入口削孔工							単	39 号
			式	1				
調整コンクリート		無筋・鉄筋構造物 人力打設 18-8-40 (高炉) 養生無し 無し 全ての費 用					施	1 号
			m3	1.1				
インパートコンクリート		無筋・鉄筋構造物 人力打設 18-8-40 (高炉) 養生無し 無し 全ての費 用					施	2 号
			m3	0.6				
モルタル上塗り マンホール用		配合比1:2 モルタル厚さ(10～30mm)(実 数入力)20mm 高炉					単	40 号
			m2	1.9				
計								
単価								
							円/箇所	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 2号	伸縮可とう継手(管)	φ 400mm用	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
伸縮可とう継手(管)材料							単	41 号
			個	1				
計								
単価							円/箇所	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 3号	内副管	φ 150mm h=2.292m	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
内副管取付工		段差2.0m以上～2.5m未満					単	42 号
			箇所	1				
内副管材料費							単	43 号
			式	1				
計								
単価							円/箇所	

1 次 単 価 表（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 4号	推進用水替		単位	日	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
ポンプ運転工		作業時排水 商用電源 ポンプ 台数（実数入力）1台					単 44 号	
計			日					
単価							円/日	

1 次 単 価 表（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 5号	管路掘削		単位	m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
掘削		土砂 上記以外（小規模） 小規模（標準以外）					施 3 号	
計			m3	1				
単価							円/m3	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 6号	管路掘削		単位	m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
床掘り		土砂 現場制約あり					施 4 号	
			m3	1				
計								
単価							円/m3	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 7号	管路埋戻		単位	m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
機械投入埋戻工(小型バックホ)		排対(2次)山積0.13m3(平0.1m3)タンハ 締固め数量(m3)(実数)1.11m3					単 45 号	
			m3	1				
計								
単価							円/m3	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 8号	発生土処理		単位	m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土砂等運搬		小規模 バックホウ山積0.13m3 (平積0.1m3) 土砂 (岩塊・玉石混り土含む) 無し 4.5km以下					施 5 号	
			m3	1				
処分費 (m3)							単 46 号	
			m3	1				
計								
単価							円/m3	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 9号	ます	塩ビ桧 φ200mm h≤1.0m	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
ます設置工(塩化ビニル製) (市場単価)		ます径 200mm 5箇所未満 無 無 無					単 47 号	
			箇所	1				
計								
単価							円/箇所	

1 次 単 価 表 (本工事)

單價使用年月	2025.03			
步掛適用年月	2025.03			
勞務調整係數	1.000-0000-0-1.00	0.0	0	

[illegible]

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 11号	推進用硬質塩化ビニル管(低耐荷力泥土圧)		単位	m	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
推進工法用硬質塩化ビニル管							単 49 号	
			本	1				
推進工(低耐荷力泥土圧)		呼び径200mm N≦15 1推進区間の延長(実数入力)65.72m					単 50 号	
			m	1				
スクレーコンベヤ類撤去工(低耐荷力泥土圧)							単 51 号	
			m	1				
添加材注入工(低耐荷力泥土圧)		呼び径200mm N≦15 添加材 添加材数量(実数入力)0.4kg					単 52 号	
			m	1				
計								
単価							円/m	

1 次 単 価 表（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 12号	発生土処理		単位	m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土砂等運搬		小規模 バックホウ山積0.28m3（平積0.2m3）土砂（岩塊・玉石混り土含む）無し 5.0km以下					施 6 号	
			m3	1				
処分費(m3)							単 46 号	
			m3	1				
計								
単価							円/m3	

1 次 単 価 表（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 13号	硬質塩化ビニル管	VP φ 200mm	単位	m	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
管材料費(1m当たり)							単 53 号	
			m	1				
硬質塩化ビニル管設置工（市場単価）		呼び径 200mm 20m未満 無 無					単 54 号	
			m	1				
計								
単価							円/m	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 14号	砂基礎		単位	m	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土材料							施 7 号	
			m3	1				
砂基礎設置工(機械施工) (市場単価)		10m3未満 無 無					単 55 号	
			m3	1				
計								
単価							円/m	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 15号	坑口(小口径)		単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
坑口工 (低耐荷力泥土圧推進)		呼び径200mm					単 56 号	
			箇所	1				
計								
単価							円/箇所	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 16号	坑口(既設)		単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
坑口工(低耐荷力泥土圧推進)		呼び径200mm					単 57 号	
計			箇所	1				
単価							円/箇所	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 17号	鏡切り		単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
鏡切り工		小型立坑(鋼製ケーシング)					単 58 号	
計			m	1.6				
単価							円/箇所	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 18号	推進設備等設置撤去	据付・撤去	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
推進設備工（低耐荷力泥土圧）		標準(1.0)					単 59 号	
			箇所	1				
先導体据付撤去工（低耐荷力泥土圧）							単 60 号	
			箇所	1				
計								
単価							円/箇所	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 19号	推進設備等設置撤去	据換	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
推進設備据換工（低耐荷力泥土圧）		標準(1.0)					単 61 号	
			箇所	1				
先導体据付撤去工（低耐荷力泥土圧）							単 60 号	
			箇所	1				
計								
単価							円/箇所	

1 次 単 価 表（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 20号	推進用水替		単位	日	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
ポンプ運転工		常時排水 商用電源 ポンプ 台数（実数入力）1台					単 62 号	
			日					
計								
単価							円/日	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 21号	薬液注入	改良範囲：4.131m 溶液型無機系	単位	本	割戻数量	24	単価	
	名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
二重管スレーナ工法		2セット 砂質土の削孔長(実数入力)0m 砂質土の削孔長(実数入力)3.703m 粘性土の削孔長(実数入力)0.4m 土	本	4			単	63 号
二重管スレーナ工法		2セット 砂質土の削孔長(実数入力)0m 砂質土の削孔長(実数入力)3.407m 粘性土の削孔長(実数入力)0.4m 土	本	4			単	64 号
二重管スレーナ工法		2セット 砂質土の削孔長(実数入力)0m 砂質土の削孔長(実数入力)3.448m 粘性土の削孔長(実数入力)0.4m 土	本	4			単	65 号
二重管スレーナ工法		2セット 砂質土の削孔長(実数入力)0m 砂質土の削孔長(実数入力)3.03m 粘性土の削孔長(実数入力)0.4m 土	本	4			単	66 号
二重管スレーナ工法		2セット 砂質土の削孔長(実数入力)0m 砂質土の削孔長(実数入力)3.01m 粘性土の削孔長(実数入力)0.4m 土	本	4			単	67 号
二重管スレーナ工法		2セット 砂質土の削孔長(実数入力)0m 砂質土の削孔長(実数入力)2.832m 粘性土の削孔長(実数入力)0.4m 土	本	4			単	68 号
注入設備据付・解体(車上)		供用日の割増率 α (実数入力)1	現場	1			単	69 号
計								
単価							円/本	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 22号	鋼製ケーシング撤去工		単位	箇所	割戻数量	2	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
ケーシング撤去工		呼び径φ2000mm ケーシング切断長(実数入力)23.92m					単 70 号	
			箇所	2				
計								
単価							円/箇所	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 23号	円形覆工板		単位	箇所	割戻数量	2	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
円形覆工板撤去工		呼び径 φ 2000mm					単 71 号	
			箇所	2				
円形覆工板開閉工		呼び径 φ 2000mm					単 72 号	
			回	32				
円形覆工板賃料等							単 73 号	
			式	1				
計								
単価							円/箇所	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 24号	埋戻		単位	m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
機械投入埋戻工(バックホウ)		排対(2次)山積0.28m3(平0.2m3)タンハ 締固め数量(m3)(実数)100m3					単 74 号	
土材料			m3	1			施 8 号	
計			m3	1				
単価							円/m3	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 25号	鋼製ケーシング撤去工		単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
ケーシング撤去工		呼び径φ1500mm ケーシング切断長(実数 入力)10.35m					単 75 号	
計			箇所	1				
単価							円/箇所	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 26号	円形覆工板		単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
円形覆工板撤去工		呼び径 φ 1500mm					単 76 号	
			箇所	1				
円形覆工板開閉工		呼び径 φ 1500mm					単 77 号	
			回	1				
円形覆工板賃料等							単 78 号	
			式	1				
計								
単価							円/箇所	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 27号	埋戻		単位	m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
機械投入埋戻工(バックホ)		排対(2次)山積0.28m3(平0.2m3)タンハ 締固め数量(m3)(実数)100m3					単 74 号	
土材料			m3	1			施 8 号	
計			m3	1				
単価							円/m3	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 28号	舗装版切断	アスファルト舗装版 舗装厚：50mm	単位	m	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
舗装版切断		アスファルト舗装版 15cm以下 全ての費用					施 9 号	
計			m	1				
単価							円/m	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 29号	舗装版破碎(小規模)		単位	m2	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
舗装版破碎積込(小規模土工)		全ての費用					施 10 号	
計			m2	1				
単価							円/m2	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 30号	殻運搬	舗装版破碎	単位	m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
殻運搬		舗装版破碎 機械(騒音対策不要、厚15cm以下) 無し 6.5km以下 全ての費用					施 11 号	
計			m3	1				
単価							円/m3	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 31号	殻処分	アスファルト殻	単位	m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
処分費 (m3)							単 79 号	
			m3	1				
計								
単価							円/m3	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 32号	上層路盤(車道・路肩部)	路盤材(砕石各種) RC-40 仕上り厚 : 200mm	単位	m2	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
上層路盤 (車道・路肩部)		路盤材 (砕石各種) 全仕上り厚 (実数入力) 200mm 2層施工 全ての費用					施 12 号	
			m2	1				
計								
単価							円/m2	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 33号	表層(車道・路肩部)	再生密粒度アスコン(20) 舗装厚:50mm 1.4m未満(1層当り平均仕上り厚5	単位	m2	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
表層(車道・路肩部)		1.4m未満(仕上厚50mm以下) 1層当 平均仕上厚 50mm以下50mm 再生密粒 度アスコン(20) プライムコート PK					施 13 号	
計			m2	1				
単価							円/m2	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 34号	交通誘導警備員		単位	人日	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
交通誘導警備員B							単 80 号	
計			人日	2				
単価							円/人日	

1 次 単 価 表 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 35号	仮設材運搬費		単位	t	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
仮設材等の運搬 (鋼矢板、H形鋼、覆工板、敷鉄板等)		関東・中部・近畿 片道運搬距離(実数入力)10km 12m以内 各種(実数入力)運搬割増率(実数入力)1 無	t	1			単	81 号
仮設材等の積込み取卸し費		積込み、取卸し(往復分)	t	1			単	82 号
計								
単価							円/t	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 36号	ブロック 蓋 受枠 可とう継手等		単位	式	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
マンホール(浮上防止型)T-14 マーク入 ロック付転落防止用梯子								
			個	3				
調整金具 h=45mm								
			組	3				
無収縮モルタル 25kg								
			袋	3				
調整リング 60×5cm								
			個	1				
調整リング 60×10cm								
			個	1				
調整リング 60×15cm								
			個	1				
組立式マンホール1号 斜壁 600×900×450(JSWAS A-11)								
			個	2				
組立式マンホール1号 斜壁 600×900×600(JSWAS A-11)								
			個	1				
組立式マンホール1号 直壁 900× 300 (JSWAS A-11)								
			個	1				
組立式マンホール1号 直壁 900× 600 (JSWAS A-11)								
			個	1				
組立式マンホール1号 直壁 900× 900 (JSWAS A-11)								
			個	1				

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 36号	ブロック 蓋 受枠 可とう継手等		単位	式	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
組立式マンホール 1 号 く体ブロック900×1800(JSWAS A-11)								
			個	3				
組立式マンホール 1 号 底版 有効高130 (JSWAS A-11)								
			個	3				
計								

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 37号	組立マンホール設置工（市場単価）	1号(900mm) 3m以下 4箇所未満 無 無	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
組立マンホール設置工 1号(900mm) 3m以下 単価補正1.150								
			箇所	1				
諸雑費(まるめ)		まるめ						
			式	1				
計								
単価							円/箇所	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 38号	組立マンホール設置工（市場単価）	1号(900mm) 3m超～4m以下 4箇所未 満 無 無	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
組立マンホール設置工 1号(900mm) 3m超～4m以下 単価補正1.150								
			箇所	1				
諸雑費(まるめ)		まるめ						
			式	1				
計								
単価							円/箇所	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 39号	流入口削孔工		単位	式	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
削孔費 1号 φ 200mm								
			箇所	4				
計								

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 40号	モルタル上塗り マンホール用	配合比1:2 モルタル厚さ(10～30mm)(実数入力)20mm 高炉	単位	m2	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
左官								
			人					
普通作業員								
			人					
モルタル練工								
配合比 1 : 2			m3	0.02				
諸雑費(まるめ)		まるめ						
			式	1				
計								
単価							円/m2	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03			
歩掛適用年月	2025.03			
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00	0.0	0	

[illegible]

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 42号	内副管取付工	段差2.0m以上～2.5m未満	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
計								
単価								
							円/箇所	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 43号	内副管材料費		単位	式	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
副管用90° 支管 コソバ 外型 φ200×150mm								
			個	1				
副管用立管 2,000×φ200×150mm用								
			本	1				
副管用曲管 φ200×150mm用								
			本	1				
副管用固定金具 φ200×150mm用								
			本	2				
計								

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 44号	ポンプ運転工	作業時排水 商用電源 ポンプ 台数 (実数入力) 1台	単位	日	割戻数量	1	単価	
	名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額		摘要
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
工事用水中ポンプ [普通型] 潜水ポンプ 口径 φ 50mm 全揚程5m								
			日					
諸雑費		率+まるめ						
			式	1				
計								
単価								
							円/日	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 45号	機械投入埋戻工(小型バックホ)	排対(2次)山積0.13m3(平0.1m3) タンバ 締固め数量(m3)(実数)1.11m3	単位	m3	割戻数量	100	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
普通作業員								
			人					
小型バックホ運転[クローラ型](2次) 山積0.13m3(平積0.1m3)							単 84 号	
			日					
タンバ締固め		全ての費用					施 14 号	
			m3	1.11				
諸雑費(まるめ)		まるめ						
			式	1				
計								
単価							円/m3	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 46号	処分費(m3)		単位	m3	割戻数量	100	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
処分費 残土								
			m 3	100				
計								
単価							円/m3	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 47号	ます設置工(塩化ビニル製) (市場単価)	ます径 200mm 5箇所未満 無 無 無	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
塩化ビニル製ます設置工(材工共) ます(径200) 単価補正1.100								
			箇所	1				
計								
単価							円/箇所	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 48号	取付管布設および支管取付工 (市場単価)	管径 150mm 5箇所未満 無 無 有 無	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
	名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
	取付管布設及び支管取付工(材工共)							
	管径150		箇所	1				
	単価補正0.935							
	諸雑費(まるめ)	まるめ						
			式	1				
	計							
	単価							
							円/箇所	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 49号	推進工法用硬質塩化ビニル管		単位	本	割戻数量	1	単価	
	名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
	推進用硬質塩化ビニル管							
	φ200mm スパイラル継手直管(L=)		本	1				
	計							
	単価							
							円/本	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 50号	推進工(低耐荷力泥土圧)	呼び径200mm N≦15 1推進区間の延長(実数入力)65.72m	単位	m	割戻数量	8.2	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
滑材								
			L	123				
クレーン装置付トラック 4～4.5t級2.9t吊							単 85 号	
			日					
機械器具損料 エンビライナー								
			日					
推進工機械器具損料(2) (低耐荷力泥土圧)		呼び径200mm N≦15 1推進区間の延長(実数入力)65.72m					単 86 号	
			日					
諸雑費		率+まるめ						
			式	1				
計								
単価							円/m	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 51号	スクリーンベヤ類撤去工 (低耐荷力泥土圧)		単位	m	割戻数量	40	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
クレーン装置付トラック 4～4.5t級2.9t吊							単 87 号	
			日					
諸雑費(まるめ)		まるめ						
			式	1				
計								
単価							円/m	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 52号	添加材注入工(低耐荷力泥土圧)	呼び径200mm N≦15 添加材 添加材 数量(実数入力) 0.4kg	単位	m	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
添加材								
			k g	0.4				
添加材注入機械器具損料(低耐荷力泥土圧)		呼び径200mm N≦15					単 88 号	
			m	1				
計								
単価							円/m	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 53号	管材料費(1m当たり)		単位	m	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
硬質塩化ビニル管 VP φ 200mm							仮	
			m	1				
計								
単価							円/m	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 54号	硬質塩化ビニル管設置工（市場単価）	呼び径 200mm 20m未満 無 無	単位	m	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
硬質塩化ビニル管設置工(材工共) 呼び径200mm 単価補正1.100								
			m	1				
計								
単価							円/m	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 55号	砂基礎設置工(機械施工) (市場単価)	10m3未満 無 無	単位	m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
砂基礎工(手間のみ)								
砂基礎設置 機械施工 単価補正1.100			m3	1				
計								
単価							円/m3	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 56号	坑口工 (低耐荷力泥土圧推進)	呼び径200mm	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
溶接工								
			人					
普通作業員								
			人					
止水器 径200mm Aタイプ								
			組	1				
鋼材溶接工							単 89 号	
			m	1.9				
鋼材切断工							単 90 号	
			m	3.8				
クレーン装置付トラック 4～4.5t級2.9t吊							単 87 号	
			日					
諸雑費(まるめ)		まるめ						
			式	1				
計								
単価								
							円/箇所	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 57号	坑口工 (低耐荷力泥土圧推進)	呼び径200mm	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
溶接工								
			人					
普通作業員								
			人					
止水器 径200mm Aタイプ 既設人孔用								
			組	1				
鋼材溶接工							単 89 号	
			m	1.9				
鋼材切断工							単 90 号	
			m	3.8				
クレーン装置付トラック 4～4.5t級2.9t吊							単 87 号	
			日					
諸雑費(まるめ)		まるめ						
			式	1				
計								
単価								
							円/箇所	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 58号	鏡切り工	小型立坑(鋼製ケーシング)	単位	m	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
溶接工								
			人					
普通作業員								
			人					
諸雑費		率+まるめ						
			式	1				
計								
単価								
							円/m	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 59号	推進設備工（低耐荷力泥土圧）	標準(1.0)	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
	名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額		摘要
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
電工								
			人					
トラッククレーン〔油圧伸縮ジブ型〕								
4.9t吊								
単価補正1.000			日					
計								
単価								
							円/箇所	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 60号	先導体据付撤去工 (低耐荷力泥土圧)		単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
クレーン装置付トラック 4～4.5t級2.9t吊							単 87 号	
			日					
諸雑費(まるめ)		まるめ						
			式	1				
計								
単価								
							円/箇所	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 61号	推進設備据換工 (低耐荷力泥土圧)	標準(1.0)	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
電工								
			人					
トラッククレーン[油圧伸縮ジブ型] 4.9t吊 単価補正1.000								
			日					
計								
単価							円/箇所	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 62号	ポンプ運転工	常時排水 商用電源 ポンプ 台数 (実 数入力) 1台	単位	日	割戻数量	1	単価	
	名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額		摘要
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
工事用水中ポンプ [普通型] 潜水ポンプ 口径 φ 50mm 全揚程5m 単価補正2.000								
			日					
工事用水中ポンプ [普通型] 潜水ポンプ 口径 φ 50mm 全揚程5m								
			供用日					
諸雑費		率+まるめ						
			式	1				
計								
単価								
							円/日	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 63号	二重管スレーナ工法	2セット 砂質土の削孔長(実数入力)0m 砂質土の削孔長(実数入力)3.703	単位	本	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
注入材								
			L	432				
ボーリングマシン[油圧式] 5.5kW級								
			日					
薬液注入ポンプ 5～20L/min×2(9.8MPa)								
			日					
二重管スレーナ工法削孔 消耗材料費		砂質土					単 91 号	
			m	3.703				
二重管スレーナ工法削孔 消耗材料費		粘性土					単 92 号	
			m	0.4				
二重管スレーナ工法注入 消耗材料費							単 93 号	
			KL	0.432				
諸雑費(率+まるめ)		率+まるめ						
			式	1				
計								

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

單價使用年月	2025.03			
步掛適用年月	2025.03			
勞務調整係數	1.000-0000-0-1.00	0.0	0	

[illegible]

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 64号	二重管スレーナ工法	2セット 砂質土の削孔長(実数入力)0m 砂質土の削孔長(実数入力)3.407	単位	本	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
注入材								
			L	432				
ボーリングマシン[油圧式] 5.5kW級								
			日					
薬液注入ポンプ 5～20L/min×2(9.8MPa)								
			日					
二重管スレーナ工法削孔 消耗材料費		砂質土					単 91 号	
			m	3.407				
二重管スレーナ工法削孔 消耗材料費		粘性土					単 92 号	
			m	0.4				
二重管スレーナ工法注入 消耗材料費							単 93 号	
			KL	0.432				
諸雑費(率+まるめ)		率+まるめ						
			式	1				
計								

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

單價使用年月	2025.03			
步掛適用年月	2025.03			
勞務調整係數	1.000-0000-0-1.00	0.0	0	

[illegible]

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 65号	二重管スレーナ工法	2セット 砂質土の削孔長(実数入力)0m 砂質土の削孔長(実数入力)3.448	単位	本	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
注入材								
			L	432				
ボーリングマシン[油圧式]								
5.5kW級			日					
薬液注入ポンプ								
5～20L/min×2(9.8MPa)			日					
二重管スレーナ工法削孔 消耗材料費		砂質土					単 91 号	
			m	3.448				
二重管スレーナ工法削孔 消耗材料費		粘性土					単 92 号	
			m	0.4				
二重管スレーナ工法注入 消耗材料費							単 93 号	
			KL	0.432				
諸雑費(率+まるめ)		率+まるめ						
			式	1				
計								

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

單價使用年月	2025.03			
步掛適用年月	2025.03			
勞務調整係數	1.000-0000-0-1.00	0.0	0	

[illegible]

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 66号	二重管スレーナ工法	2セット 砂質土の削孔長(実数入力)0m 砂質土の削孔長(実数入力)3.03m	単位	本	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
注入材								
			L	432				
ポンピングマシン[油圧式] 5.5kW級								
			日					
薬液注入ポンプ 5～20L/min×2(9.8MPa)								
			日					
二重管スレーナ工法削孔 消耗材料費		砂質土					単 91 号	
			m	3.03				
二重管スレーナ工法削孔 消耗材料費		粘性土					単 92 号	
			m	0.4				
二重管スレーナ工法注入 消耗材料費							単 93 号	
			KL	0.432				
諸雑費(率+まるめ)		率+まるめ						
			式	1				
計								

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

單價使用年月	2025.03			
步掛適用年月	2025.03			
勞務調整係數	1.000-0000-0-1.00	0.0	0	

[illegible]

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 67号	二重管スレーナ工法	2セット 砂質土の削孔長(実数入力)0m 砂質土の削孔長(実数入力)3.01m	単位	本	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
注入材								
			L	432				
ポンピングマシン[油圧式] 5.5kW級								
			日					
薬液注入ポンプ 5～20L/min×2(9.8MPa)								
			日					
二重管スレーナ工法削孔 消耗材料費		砂質土					単 91 号	
			m	3.01				
二重管スレーナ工法削孔 消耗材料費		粘性土					単 92 号	
			m	0.4				
二重管スレーナ工法注入 消耗材料費							単 93 号	
			KL	0.432				
諸雑費(率+まるめ)		率+まるめ						
			式	1				
計								

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

單價使用年月	2025.03			
步掛適用年月	2025.03			
勞務調整係數	1.000-0000-0-1.00	0.0	0	

[illegible]

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 68号	二重管スレーナ工法	2セット 砂質土の削孔長(実数入力)0m 砂質土の削孔長(実数入力)2.832	単位	本	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
注入材								
			L	432				
ポンピングマシン[油圧式]								
5.5kW級			日					
薬液注入ポンプ								
5～20L/min×2(9.8MPa)			日					
二重管スレーナ工法削孔 消耗材料費		砂質土					単 91 号	
			m	2.832				
二重管スレーナ工法削孔 消耗材料費		粘性土					単 92 号	
			m	0.4				
二重管スレーナ工法注入 消耗材料費							単 93 号	
			KL	0.432				
諸雑費(率+まるめ)		率+まるめ						
			式	1				
計								

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

單價使用年月	2025.03			
步掛適用年月	2025.03			
勞務調整係數	1.000-0000-0-1.00	0.0	0	

[illegible]

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 69号	注入設備据付・解体(車上)	供用日の割増率 α (実数入力)1	単位	現場	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
トラック[クレーン装置付] ベーストラック4～4.5t級吊能力2.9t							単 94 号	
			時間					
トラック[普通型] 4～4.5t積								
			供用日					
諸雑費(まるめ)		まるめ						
			式	1				
計								
単価							円/現場	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 70号	ケーシング撤去工	呼び径φ2000mm ケーシング切断長(実数入力)23.92m	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
	名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
クレーン装置付トラック 4～4.5t級2.9t吊							単 95 号	
			時間					
ケーシング切断工							単 96 号	
			m	23.92				
諸雑費(まるめ)		まるめ						
			式	1				
計								
単価								
							円/箇所	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 71号	円形覆工板撤去工	呼び径 φ 2000mm	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
普通作業員								
			人					
クレーン装置付トラック 4～4.5t級2.9t吊							単 97 号	
			時間					
計								
単価								
							円/箇所	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 72号	円形覆工板開閉工	呼び径 φ 2000mm	単位	回	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
普通作業員								
			人					
クレーン装置付トラック 4～4.5t級2.9t吊							単 97 号	
			時間					
計								
単価								
							円/回	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 73号	円形覆工板賃料等		単位	式	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
円形覆工板賃料 呼び径 φ 2000mm ケーシング 用								
			月					
円形覆工板整備料 呼び径 φ 2000mm ケーシング 用								
			枚	2				
計								

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 74号	機械投入埋戻工(ハック杓)	排対(2次)山積0.28m3(平0.2m3) タンバ 締固め数量(m3)(実数)100m3	単位	m3	割戻数量	100	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
普通作業員								
			人					
ハック杓[クローラ]排対(2次) 山積0.28m3(平積0.2m3)							単 98 号	
			時間					
タンバ締固め		全ての費用					施 14 号	
			m3	100				
諸雑費(まるめ)		まるめ						
			式	1				
計								
単価							円/m3	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 75号	ケーシング撤去工	呼び径φ1500mm ケーシング切断長(実数入力)10.35m	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
	名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
特殊作業員								
			人					
普通作業員								
			人					
クレーン装置付トラック 4～4.5t級2.9t吊							単 95 号	
			時間					
ケーシング切断工							単 96 号	
			m	10.35				
諸雑費(まるめ)		まるめ						
			式	1				
計								
単価								
							円/箇所	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 76号	円形覆工板撤去工	呼び径 φ 1500mm	単位	箇所	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
普通作業員								
			人					
クレーン装置付トラック 4～4.5t級2.9t吊							単 97 号	
			時間					
計								
単価								
							円/箇所	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 77号	円形覆工板開閉工	呼び径 φ 1500mm	単位	回	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
土木一般世話役								
			人					
普通作業員								
			人					
クレーン装置付トラック 4～4.5t級2.9t吊							単 97 号	
			時間					
計								
単価							円/回	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 78号	円形覆工板賃料等		単位	式	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
円形覆工板賃料 呼び径 φ 1500mm ケーシング 用								
			月					
円形覆工板整備料 呼び径 φ 1500mm ケーシング 用								
			枚	1				
計								

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 79号	処分費(m3)		単位	m3	割戻数量	100	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
処分費 AS								
			m 3	100				
計								
単価							円/m3	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 80号	交通誘導警備員B		単位	人日	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
交通誘導警備員 B								
			人	1				
計								
単価							円/人日	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 81号	仮設材等の運搬 (鋼矢板、H形鋼、覆工板、敷鉄板等)	関東・中部・近畿 片道運搬距離(実数入力)10km 12m以内 各種(実数入	単位	t	割戻数量	1	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
基本運賃区分A 製品長12m以内 10kmまで 単価補正2.000								
			t	1				
計								
単価							円/t	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 82号	仮設材等の積込み取卸し費	積込み、取卸し(往復分)	単位	t	割戻数量	1	単価	
	名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
	積込み、取卸し費(仮設材等)							
			t	2				
	計							
	単価						円/t	

2 次 単 価 表(参考資料) (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 83号	施工調査費		単位	式	割戻数量	1	単価	
	名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
	管内カマ調査 L=400m							
			式	1				
	計							

構 成 比 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 1号	調整コンクリート	無筋・鉄筋構造物 人力打設 18-8-40 (高炉) 養生無し 無し 全ての費用	単位	m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位	構成比	単価	金額		摘要
普通作業員		普通作業員	標	人 (11.44)				
				人				
特殊作業員		特殊作業員	標	人 (7.77)				
				人				
土木一般世話役		土木一般世話役	標	人 (6.06)				
				人				
その他(労務)								
生コンクリート 18-8-40 高炉		生コンクリート 24-12-25 (20) 高炉	標	m3 (72.96)				
				m 3				
諸雑費								
計								
単価								円/m3

構 成 比 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 2号	インパートコンクリート	無筋・鉄筋構造物 人力打設 18-8-40 (高炉) 養生無し 無し 全ての費用	単位	m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位	構成比	単価	金額		摘要
普通作業員		普通作業員	標	人 (11.44)				
				人				
特殊作業員		特殊作業員	標	人 (7.77)				
				人				
土木一般世話役		土木一般世話役	標	人 (6.06)				
				人				
その他(労務)								
生コンクリート 18-8-40 高炉		生コンクリート 24-12-25 (20) 高炉	標	m3 (72.96)				
				m 3				
諸雑費								
計								
単価								円/m3

構成比（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 3号	掘削	土砂 上記以外（小規模） 小規模（標準以外）	単位		m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位		構成比	単価	金額		摘要
小型バックホウ（クローラ）〔標準〕 排出ガス対策型（第2次基準） 山積0.13m3		小型バックホウ（クローラ）〔標準〕 排出ガス対策型（第2次基準） 山積0.13m3	標	日	（20.8）				
				供用日					
運転手（特殊）		運転手（特殊）	標	人	（71.28）				
				人					
軽油		軽油	標	L	（7.92）				
				L					
諸雑費									
計									
単価									円/m3

--	--	--	--	--	--	--	--	--

構成比（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 4号	床掘り	土砂 現場制約あり	単位		m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位		構成比	単価	金額		摘要
普通作業員		普通作業員	標	人 (100)					
				人					
計									
単価									円/m3

--	--	--	--	--	--	--	--	--

構成比（本工事）

構 成 比（本工事）					単価使用年月 歩掛適用年月 労務調整係数		2025.03 2025.03 1.000-0000-0-1.00 0.0 0		
施 5号	土砂等運搬	小規模 バックホウ山積0.13m3（平積0.1m3） 土砂（岩塊・玉石混り土含む） 無し 4.5km以下	単位		m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位		構成比	単価	金額		摘要
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 2t積級（タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む）		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 2 t 積級（タイヤ損耗費及び補修費（良好）含む）	標	時間	(18.57)				
				供用日					
運転手（一般）		運転手（一般）	標	人	(72.35)				
				人					
軽油		軽油	標	L	(9.08)				
				L					
諸雑費									
計									
単価									円/m3

構成比（本工事）

構 成 比（本工事）					単価使用年月 歩掛適用年月 労務調整係数		2025.03 2025.03 1.000-0000-0-1.00 0.0 0		
施 6号	土砂等運搬	小規模 バックホウ山積0.28m3（平積0.2m3） 土砂（岩塊・玉石混り土含む） 無し 5.0km以下	単位		m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位		構成比	単価	金額		摘要
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 4t積級（タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む）		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 4 t 積級（タイヤ損耗費及び補修費（良好）含む）	標	時間	(24.45)				
				供用日					
運転手（一般）		運転手（一般）	標	人	(63.42)				
				人					
軽油		軽油	標	L	(12.13)				
				L					
諸雑費									
計									
単価									円/m3

構成比（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 7号	土材料		単位		m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位		構成比	単価	金額		摘要
砂		材料費	標	式 (100)					
				m 3					
計									
単価									円/m3

構成比（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 8号	土材料		単位	m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位	構成比	単価	金額		摘要
再生クラッシャーラン RC-40		材料費	標 式 (100)					
			m 3					
計								
単価								
								円/m3

--	--	--	--	--	--	--	--	--

構成比（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 9号	舗装版切断	アスファルト舗装版 15cm以下 全ての費用	単位	m	割戻数量	1	単価	
	名称・規格	標準 名称・規格	単位	構成比	単価	金額		摘要
	コンクリートカッタ[バキューム式(超低騒音型)] 湿式 切削深20cm級 ブレード径φ56cm	コンクリートカッタ [バキューム式(超低騒音型)] 湿式 切削深20cm級 ブレード径φ56cm	標 日	(10.49)				
			供用日					
	その他(機械)							
	特殊作業員	特殊作業員	標 人	(19.6)				
			人					
	土木一般世話役	土木一般世話役	標 人	(10.55)				
			人					
	普通作業員	普通作業員	標 人	(8.73)				
			人					
	その他(労務)							
	コンクリートカッタ (ブレード) 径18インチ	コンクリートカッタ (ブレード) 径18インチ	標 枚	(23.29)				
			枚					
	ガソリン レギュラー	ガソリン レギュラー	標 L	(2.83)				
			L					
	その他(材料)							
	諸雑費							
	計							

構成比（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 9号	舗装版切断	ｱｽﾌｧﾙﾄ舗装版 15cm以下 全ての費用	単位		m	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位		構成比	単価	金額		摘要
単価									円/m

構成比（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 10号	舗装版破碎積込（小規模土工）	全ての費用	単位	m2	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位	構成比	単価	金額		摘要
小型バックホウ（クローラ）[標準] 排出ガス対策型（第2次基準） 山積0.13m3		小型バックホウ（クローラ） [標準] 排出ガス対策型（第2次基準） 山積0.13m3	標	日 (20.8)				
				供用日				
運転手（特殊）		運転手（特殊）	標	人 (71.28)				
				人				
軽油		軽油	標	L (7.92)				
				L				
諸雑費								
計								
単価								円/m2

--	--	--	--	--	--	--	--	--

構成比（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 11号	殻運搬	舗装版破碎 機械（騒音対策不要、厚15cm以下） 無し 6.5km以下 全ての費用	単位		m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位		構成比	単価	金額		摘要
ダンプトラック[オンロード・ディーゼル] 10t積級（タイヤ損耗費及び補修費(良好)を含む）		ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 1 0 t 積級（タイヤ損耗費及び補修費（良好）含む）	標	時間	(44.95)				
				供用日					
運転手（一般）		運転手（一般）	標	人	(38.97)				
				人					
軽油		軽油	標	L	(16.08)				
				L					
諸雑費									
計									
単価									円/m3

--	--	--	--	--	--	--	--	--

構 成 比 (本工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 12号	上層路盤（車道・路肩部）	路盤材（碎石各種） 全仕上り厚（実数入力）200mm 2 層施工 全ての費用	単位	m2	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位	構成比	単価	金額		摘要
モータグレーダ [土工用・排ガス対策型 (第2次)] ブレード幅3.1m		モータグレーダ [土工用・排ガス対策型 (第2次)] ブレード幅3.1m	標	時間	(4.83)			
				供用日				
ロードローラ [マカダム・排ガス対策型 (第2次)] 運転質量10t 締固め幅2.1m		ロードローラ [マカダム・排ガス対策型 (第2次)] 運転質量10t 締固め幅2.1m	標	時間	(3.83)			
				供用日				
タイヤローラ [普通型] 運転質量8～20t		タイヤローラ [普通型] 運転質量8～20t	標	日	(1.24)			
				日				
その他 (機械)								
運転手 (特殊)		運転手 (特殊)	標	人	(18.87)			
				人				
特殊作業員		特殊作業員	標	人	(6.26)			
				人				
普通作業員		普通作業員	標	人	(6.11)			
				人				
土木一般世話役		土木一般世話役	標	人	(1.84)			
				人				
その他 (労務)								
再生クラッシャーラン RC-40 単価補正200.000		再生粒度調整碎石 RM-40 全仕上り厚 200mm	標	式	(43.39)			
				m3				
軽油		軽油	標	L	(3.43)			
				L				

構成比（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 12号	上層路盤（車道・路肩部）	路盤材（碎石各種） 全仕上り厚（実数入力）200mm 2 層施工 全ての費用	単位	m2	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位	構成比	単価	金額		摘要
その他(材料)								
諸雑費								
計								
単価								円/m2

構成比（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 13号	表層（車道・路肩部）	1.4m未満（仕上厚50mm以下） 1層当平均仕上厚 50mm 以下50mm 再生密粒度アスコン（20） プライムコート PK-	単位	m2	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位	構成比	単価	金額		摘要
振動ローラ（舗装用）[ハンドガイド式] 運転質量0.5～0.6t		振動ローラ（舗装用） [ハンドガイド式] 運転質量0.5～0.6 t	標	時間	(0.24)			
				供用日				
振動コンパクタ[前進型] 機械質量40～60kg		振動コンパクタ [前進型] 機械質量40～60 kg	標	日	(0.13)			
				供用日				
その他（機械）								
特殊作業員		特殊作業員	標	人	(18.71)			
				人				
普通作業員		普通作業員	標	人	(13.4)			
				人				
土木一般世話役		土木一般世話役	標	人	(4.05)			
				人				
その他（労務）								
再生アスファルト混合物 再生密粒度アスコン（20） 単価補正50.000		アスファルト混合物 密粒度（20） 平均仕上り厚50mm	標	式	(52.51)			
				t				
アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用		アスファルト乳剤 PK-3 プライムコート用	標	L	(4.54)			
				L				
ガソリン レギュラー		ガソリン レギュラー	標	L	(0.16)			
				L				
軽油		軽油	標	L	(0.03)			
				L				

構成比（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 13号	表層（車道・路肩部）	1. 4m未満（仕上厚50mm以下） 1層当平均仕上厚 50mm 以下50mm 再生密粒度アスコン（20） フライムコート PK-	単位	m2	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位	構成比	単価	金額		摘要
その他(材料)								
諸雑費								
計								
単価								円/m2

構成比（本工事）

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

施 14号	タンバ締固め	全ての費用	単位	m3	割戻数量	1	単価	
名称・規格		標準 名称・規格	単位	構成比	単価	金額		摘要
タンバ及びランマ 質量 60～80kg		タンバ及びランマ 質量 60～80kg	標	日	(1.24)			
				日				
特殊作業員		特殊作業員	標	人	(51.22)			
				人				
普通作業員		普通作業員	標	人	(45.83)			
				人				
ガソリン レギュラー		ガソリン レギュラー	標	L	(1.71)			
				L				
諸雑費								
計								
単価								円/m3

--	--	--	--	--	--	--	--	--

機労材集計リスト（材料）（本工事）

工事名	御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事					
単価コード	名称	規格	単位	数量	金額	摘要
Y001241001001	添加材		k g	26.28		
Y001633000001	注入材		L	10,368		
Y007600000001	処分費	残土	m ³	3.3		
Y007600000003	処分費	AS	m ³	0.1		
Y0G9110010002	円形覆工板賃料	呼び径φ2000mm ケーシング用	月	2.1		
Y0G9110010004	円形覆工板賃料	呼び径φ1500mm ケーシング用	月	0.1		
Y0G9110020002	円形覆工板整備料	呼び径φ2000mm ケーシング用	枚	2		
Y0G9110020003	円形覆工板整備料	呼び径φ1500mm ケーシング用	枚	1		
Y3G0110010001	滑材		L	985.5		
Y7G0010020001	モルタル練工	配合比 1 : 2	m ³	0.038		
Y8G2010010001	機械器具損料	エンベライナー	日	8.012		
Z006208001001	電気溶接棒	E4319 軟鋼用 3.2mm	k g	4.56		
Z006412002	メタルクラウン	φ41mm	個	3.394		
Z006453001	二重管ボーリングロッド		m	2.52		
Z006455002	複相用グラウトモニタ	φ40.5mm	個	0.452		
Z006457002	複相用注入用ホース類 φ12mm	4.9MPa L=50m×3	組	0.048		
Z006458002	複相用サクシヨンホース	φ38mm L=3m×3	組	0.03		

機労材集計リスト（材料）（本工事）

工事名	御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事					
単価コード	名称	規格	単位	数量	金額	摘要
Z006702002	軽油		L	620.247		
Z006710001	酸素	ポンベ	m ³	3.716		
Z006712001	アセチレン	ポンベ	kg	0.638		
Z006800001001	積込み、取卸し費（仮設材等）		t	6.1		
Z006810001001	基本運賃区分A	製品長12m以内 10kmまで	t	3.05		
ZA04593140	組立式マンホール1号	斜壁 600×900×450(JSWAS A-11)	個	2		
ZA04593150	組立式マンホール1号	斜壁 600×900×600(JSWAS A-11)	個	1		
ZA04593160	組立式マンホール1号	直壁 900× 300 (JSWAS A-11)	個	1		
ZA04593170	組立式マンホール1号	直壁 900× 600 (JSWAS A-11)	個	1		
ZA04593180	組立式マンホール1号	直壁 900× 900 (JSWAS A-11)	個	1		
ZA04593260	組立式マンホール1号	く体 ^ア ロック900×1800(JSWAS A-11)	個	3		
ZA04593270	組立式マンホール1号	底版 有効高130 (JSWAS A-11)	個	3		
ZA04594040	マンホール(浮上防止型)T-14 マーク入	ロック付転落防止用梯子	個	3		
ZA06725020	電力量料金		kwh	30.78		
	判別中計					

機労材集計リスト (材料) (本工事)

[illegible]

機労材集計リスト（材料）（本工事）

工事名	御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事					
単価コード	名称	規格	単位	数量	金額	摘要
ZZ00000001001	推進用硬質塩化ビニル管	φ 200mm スパ イラル継手直管 (L=)	本	65.7		
ZZ00000002003	硬質塩化ビニル管	VP φ 200mm	m	2.6		
ZZ00000007002	調整金具	h=45mm	組	3		
ZZ00000007003	調整リング	60×5cm	個	1		
ZZ00000007004	調整リング	60×10cm	個	1		
ZZ00000007005	調整リング	60×15cm	個	1		
ZZ00000007006	無収縮モルタル	25kg	袋	3		
ZZ00000007008	削孔費	1号 φ 200mm	箇所	4		
ZZ00000011001	副管用90° 支管	コンパ° 外型 φ 200×150mm	個	1		
ZZ00000011003	副管用曲管	φ 200×150mm用	本	1		
ZZ00000011004	副管用固定金具	φ 200×150mm用	本	2		
ZZ00000011005	副管用立管	2,000× φ 200×150mm用	本	1		
ZZ00000013001	伸縮可とう継手	φ 200mm用	個	6		
ZZ00000019001	管内カメラ調査	L=400m	式	1		
	判別中計					
	トータル額					

施工パッケージ 機労材集計リスト（材料）（本工事）

工事名	御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事					
単価コード	名称	規格	単位	数量	金額	摘要
Z002012010	生コンクリート	1 8－8－4 0 高炉	m 3	1. 819		
Z002122003	再生クラッシャーラン	R C－4 0	m 3	12. 083		
Z004101003	再生アスファルト混合物	再生密粒度アスコン（2 0）	t	0. 993		
Z004130002	アスファルト乳剤	P K－3 プライムコート用	L	9. 927		
Z006540009	コンクリートカッタ（ブレード）	径1 8インチ	枚	0. 004		
Z006702002	軽油		L	9. 486		
Z006704001	ガソリン	レギュラー	L	2. 273		
ZA02150010	砂		m 3	0. 4		
	その他(材料)		式	1		
	諸雑費		式	1		
	判別中計					
	トータル額					

令和7年度

実施設計書

(当 初)

御所市

部長				課長				課長 補佐				主任					検算				設計			
作成年月日											工 事 概 要	当 初				変 更								
工 事 名		御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事										[単独] 工事延長 L= 0.9m												
工 事 番 号		都整第 号																						
路線・河川名																								
工 事 箇 所		御所市 東辻 地内																						
当初設計金額 (変更前)		円									当初請負金額 (変更前)		円											
変更設計金額 (変更後)		円									変更請負金額 (変更後)		円											
変更請負金額 計 算 式		(請 負 率) 当初請負額 ÷ 当初設計額 = 円÷ 円=																						
		(変 更 価 格) 変更設計工事価格×請負率 = 円× = 円																						
		(変更消費税等相当額) 変更価格 × 0. 1 = 円× = 円																						
		(変 更 契 約 額) 変更価格+変更消費税等相当額 = 円+ 円= 円																						

事 務 所 名	御所市	単価適用年月	令和 7年 3月
課 名・係 名	都市整備課	歩掛適用年月	令和 7年 3月
単 価 地 区	4 地区	損料適用年月	令和 7年 3月
適 用 工 種	下水道工事（2）	諸経費適用年月	令和 7年 3月
調 整 区 分	本附	一般管理費 前払	補正を行わない
施工地域区分	補正を行わない	契 約 保 証	補正しない
現場環境改善費	計上しない		
変 更 理 由	<div>-----</div> <div>-----</div> <div>-----</div> <div>-----</div>		

設計内訳書（附帯工事）

工事番号： 都整第 号

工事名	御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事					事業区分 工事区分	下水道 管路	
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量	単価	金額	摘要	
管路								レベル1
			式	1				
付帯工								レベル2
			式	1				
洗浄工								レベル3
			式	1				
マンホール洗浄工		協A-42						単 1 号
			基	1				
直接工事費								
			式	1				
純工事費								
			式	1				
現場管理費								
			式	1				
工事原価								
			式	1				
一般管理費等								
			式	1				
工事価格								
			式	1				
消費税相当額								
			式	1				

設計内訳書 (附帯工事)

工事番号: 都整第 号

[illegible]

1 次 単 価 表 (附 帯 工 事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 1号	マンホール洗淨工	協A-42	単位	基	割戻数量	50	単価	
名称・規格		条件	単位	数量	単価	金額	摘要	
高圧洗淨車運転(2)		4t 154kW					単 2 号	
			日					
給水車運転(1)		4t 154kW					単 3 号	
			日					
計								
単価							円/基	

2 次 単 価 表(参考資料) (附帯工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 2号	高压洗浄車運転(2)	4t 154kW	単位	日	割戻数量	1	単価	
	名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額		摘要
軽油								
			L	40.8				
清掃技師								
			人					
運転手(特殊)								
			人					
高压洗浄車損料 4t 154Kw								
			時間					
計								
単価								
							円/日	

2 次 単 価 表(参考資料) (附帯工事)

単価使用年月	2025.03
歩掛適用年月	2025.03
労務調整係数	1.000-0000-0-1.00 0.0 0

単 3号	給水車運転(1)	4t 154kW	単位	日	割戻数量	1	単価	
	名称・規格	条件	単位	数量	単価	金額		摘要
軽油								
			L	40.8				
運転手 (一般)								
			人					
給水車損料 4t 154Kw								
			時間					
計								
単価								円/日

機労材集計リスト (材料) (附帯工事)

[illegible]

都整第 号

御所污水 2 号幹線枝線 1 管路築造工事

数量計算書

令和 年 月

御所市産業建設部都市整備課

目 次

1. 推 進 工	
1-1. 推 進 工	
・ 低耐荷力方式 泥土圧方式 φ 200	
1-2. 立坑築造工	
・ 鋼製ケーシング立坑 φ 2000	
・ 鋼製ケーシング立坑 φ 1500	
1-3. 薬液注入工	
1-4. 人孔築造工	
・ 組立 1 号マンホール	
・ 内副管工	
2. 開 削 工	
2-1. 汚水柵および取付管工	
・ 汚水柵・取付管工・土工	
3. 付 帯 工	
3-1. 舗装工	
・ 舗装版撤去	
・ 仮復旧工	

補助 昼間

[illegible]

路 線 番 号	人 孔 番 号	人 孔 種 別	区 間 延 長 A m	管 体 減 長 B m	管 体 延 長 C=A-B m	推 進 工					残 土 処 分 0.04m³/m m³	立坑内管布設工			管 材 料											摘 要	
						推 進 減 長 D m	推 進 延 長 E=A-D m	スクリュー コンベア類 撤 去 工 E m	添 加 材 注 入 工 E m			空 伏 延 長 F=C-E m	空 伏 基礎 減 長 G m	空 伏 基礎 延 長 H=F-G m	管本数 I										管接合 箇 所 J = I -1 箇所		
															管 実 延 長 m	SUSカラー付直管(SUSR)				スパイラル継手付直管(SSPS)							
																標準管 ℓ=1.00 本	先頭管 ℓ=1.00 本	最終管 ℓ=1.00 本		標準管 ℓ=1.00 本	先頭管 ℓ=1.00 本	最終管 ℓ=1.00 本					
1757	NO.5	1号	22.20	0.45	21.30	1.00	20.67	20.67	20.67		0.83	0.63	0.08	0.56	21.30	20	1	1						21			
	既設NO.3	1号		0.45		0.53																					
1757	NO.6	1号	26.80	0.45	25.90	1.00	24.80	24.80	24.80		0.99	1.10	0.08	0.95	25.90	24	1	1						25			
	NO.5	1号		0.45		1.00							0.08														
1757	NO.6	1号	22.00	0.45	21.10	1.00	20.25	20.25	20.25		0.81	0.85	0.08	0.70	21.10	20	1	1						21			
	NO.7	1号		0.45		0.75							0.08														
合 計			71.00		68.30		65.72	65.72	65.72		2.63	2.58		2.21	68.30	64	3	3						67			

推 進 工 平 面 略 図



No.5→既設No.3 ϕ 200mm 低耐荷力泥土圧推進工 数量計算書

補助 昼間
路線番号1757

[illegible]

No.

 $\phi 20$ $\phi 200\text{mm}$

低耐荷力泥土圧推進工

数量計算書

補助 昼間

路線番号1757

[illegible]

No.6→No.7 φ 200mm 低耐荷力泥土圧推進工 数量計算書

補助 昼間
路線番号1757

[illegible]

鋼製ケーシング式立坑 数量集計表

名 称 / 種 別 / 規 格				単 位	既設 No.5 発進・到達	既設 No.6 両発進	既設 No.7 到達	合計
ケーシング径				mm	2,000	2,000	1,500	
掘削深				m	4.490	4.159	4.040	
ケーシング本数（仮設ケーシング含む）				本	3	3	3	
溶接箇所				箇所	1	1	1	
機械退避・再設置回数				回	1	1	1	
圧入深				m	4.740	4.522	4.290	
引抜長				m	0.900	0.900	0.900	
ボルト切離箇所				箇所	1	1	1	
ケーシング厚				mm	12	12	12	
土質層厚	掘削深 9.0m以下 (φ 2500は 9.5m以下)	粘性土	N≦5	m	0.400	0.400	0.400	1.200
			5<N≦30	m				
		砂質土	N≦30	m	4.090	3.759	3.640	11.489
			30<N≦50	m				
		砂礫土	N≦30	m				
			30<N≦50	m				
	掘削深 9.0m超 (φ 2500は 9.5m超)	粘性土	N≦5	m				
			5<N≦30	m				
		砂質土	N≦30	m				
			30<N≦50	m				
		砂礫土	N≦30	m				
			30<N≦50	m				
鋼製 ケーシング	先頭 ケーシング			m	2.400	2.400	2.400	7.200
		鏡切りスクラップ重量		t	0.015	0.015	0.015	0.045
	中間 ケーシング			m 本				
	最終 ケーシング			m 本	1.500 1	1.200 1	0.900 1	3.600 3
		撤去延長 切断延長	m	1.410	1.428	1.410	4.248	
			m	11.920	12.000	10.350	34.270	
		スクラップ重量 計			t	0.882	0.893	0.672
立坑土工	残土処分			m ³	14.61	13.90	7.37	
	埋戻し	砕石	m ³	3.93	3.93	2.21	10.07	
			m ³					
	舗装版切断	As t=5cm	m	6.28	6.28	4.71		
	舗装版直接掘削積込	As t=5cm	m ²	3.14	3.14	1.77		
	舗装版直接掘削積込	HMS t=15cm	m ²					
	路盤掘削	M25 t=20cm	m ³					
	一般掘削	覆工部	m ³					
	残塊処分	アスファルト	m ³	0.16	0.16	0.09		
		HMS(鉾滓)	m ³					
		再生クラッシュラン	m ³					
		粒調砕石	m ³					
	通過時 仮埋戻し			m ³				
	仮埋戻し掘削			m ³				
底版コンクリートはつり工	水中コンクリート 30-18-20(25)BB			m ³	0.41		0.26	0.67
路面覆工	円形覆工板	設置工	箇所	1	1	1		
	※積算資料より		開閉工	回	12	20	1	33
			撤去工	箇所	1	1	1	3
	覆工板	設置撤去工	m ²					
	覆工板受桁	設置撤去工	t					
表層工				m ²	2.86	2.86	1.48	7.20

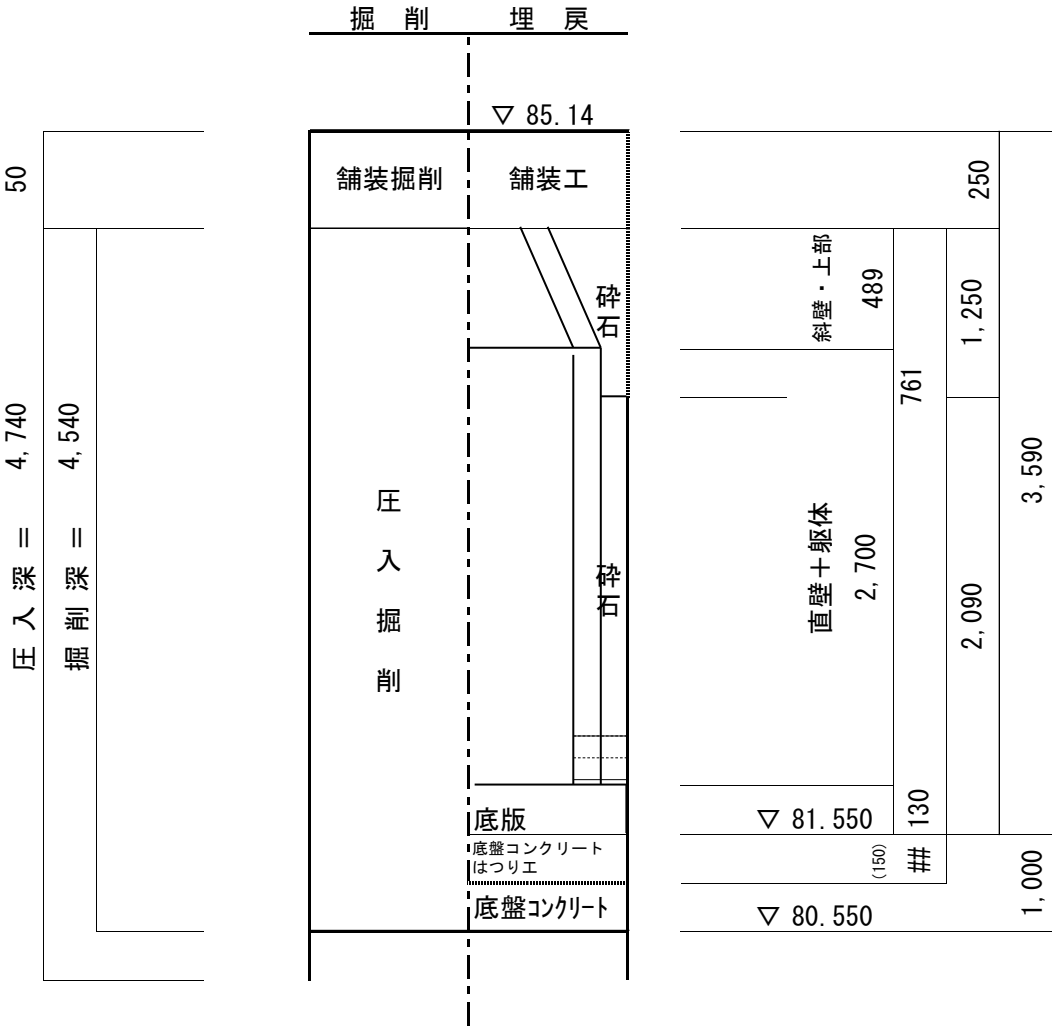
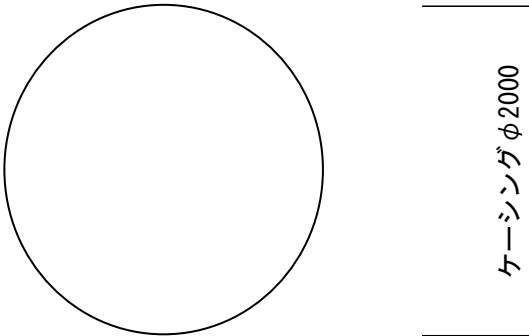
参考図

NO. 5 発進・到達立坑

立坑寸法φ 2, 000ケーシング厚12 mm

立坑面積 $2.000^2 \times \pi / 4 = 3.142 \text{ m}^2$

掘削面積 $2.024^2 \times \pi / 4 = 3.217 \text{ m}^2$



立坑数量計算書

NO. 5 発進・到達立坑

工種	種別	計算式	数量
施工済み			
1. 鋼製ケーシング圧入掘削		$\phi 2,000$	
圧入掘削積込工	ラムシェル 0.40m ³	油圧ラムシェル(テレスコピック式)	4.490 m
掘削深 H \leq 9.0m	粘性土	$N \leq 5$ 0.400	0.400 m
	〃	$5 < N \leq 30$	m
	砂質土	$N \leq 30$ 4.090	4.090 m
	〃	$30 < N \leq 50$	m
	礫質土	$N \leq 30$	m
	〃	$30 < N \leq 50$	m
掘削深 9.0m<H	粘性土	$N \leq 5$	m
	〃	$5 < N \leq 30$	m
	砂質土	$N \leq 30$	m
	〃	$30 < N \leq 50$	m
	礫質土	$N \leq 30$	m
	〃	$30 < N \leq 50$	m
ケーシング溶接工	$\phi 2,000$	6.30 m	1 箇所
ケーシング引抜工			0.9 m
ケーシング撤去工	$\phi 2,000$ 以下		1 箇所
ケーシング切断長	$\phi 2,000$	$2.00 \times \pi + (1.500 - 0.090) \times 4$	11.92 m
スクラップ	上部撤去部	$(1.500 - 0.090) \times 0.615\text{t/m}$	0.867 t
$\phi 2,000$	鏡切り部	$(0.216 + 0.100)^2 \times \pi / 4 \times 0.0942\text{t/m}^2$ $\times 1 \text{ 箇所}$	
		$+ (0.216 + 0.100)^2 \times \pi / 4 \times 0.0942\text{t/m}^2$ $\times 1 \text{ 箇所}$	
			0.015 t
2. 底盤コンクリート工			
底盤コンクリート	コンクリート 30-18-20(25)BB		3.1 m ³
3. 圧入掘削設備			
機械設置撤去工			1 回
機械退避・再設置工			1 回
4. 鋼製ケーシング存置			
刃 先	$\phi 2,000$ 用		1 個
先頭ケーシング	$\phi 2,000$	L= 2.40 m	1 本
中間ケーシング	$\phi 2,000$	L= m	本
最終ケーシング	$\phi 2,000$	L= 1.50 m	1 本
ケーシング全長	$\phi 2,000$		3.90 m

立坑数量計算書

NO. 5 発進・到達立坑

工種	種別	計算式	数量
5. 仮設ケーシング 損料		呼び径 $\phi 2,000$	1 式
6. 路面覆工	円形覆工板 $\phi 2,000$ 用	参考重量 1.160 t	
円形覆工板設置工	$\phi 2,000$		4 箇所
円形覆工板開閉工	$\phi 2,000$		12 回
円形覆工板撤去工	$\phi 2,000$		1 箇所
覆工板損料			1 式
7. 立坑土工 修正			
残土処分工		3.217×4.540	14.61 m^3
埋戻工	碎石埋戻	$3.142 \times (1.500 - 0.250) -$ (控除)	3.93 m^3
	流動化処理土埋戻	$3.142 \times -$ (控除)	m^3
舗装切断	As t= 5 cm	$2.00 \times \pi$	6.28 m
舗装版掘削積込	As t= 5 cm	$2.00^2 \times \pi/4$	3.14 m^2
舗装版掘削積込	HMS t= cm	$\times \pi/4$	m^2
路盤掘削	M25 t= cm	$2.00^2 \times \pi/4 \times$	m^3
残塊処分	アスファルト	3.14×0.05	0.16 m^3
	HMS (鉋滓)	\times	m^3
	粒調碎石	\times	m^3
埋戻控除土量計算			
	舗装	0.528×0.25	0.13 m^3
	1号 斜壁 H=600	0.70×0.49	0.34 m^3
	1号 直壁・連結直壁	0.87×0.76	0.66 m^3
	中間斜壁		m^3
	合計		m^3
	直壁・躯体・底版		m^3
	中間斜壁		m^3
	直壁		m^3
	1号 躯体及び直壁	0.866×1.751	1.52 m^3
	1号 底版及び調整Co	0.950×0.280	0.95 m^3
	管渠	$(0.216^2 + 0.216^2)$	
		$\times \pi/4 \times 0.450$	0.03 m^3
	外副管		m^3
	合計	改良土控除	3.63 m^3
8. 底版コンクリートはつり工	水中コンクリート 30-18-20(25)BB	3.142×0.129	0.41 m^3
9. 舗装工			
表層工		$3.142 - 0.6^2 \times \pi/4$	2.86 m^2

立坑数量計算書

NO. 6 両発進立坑

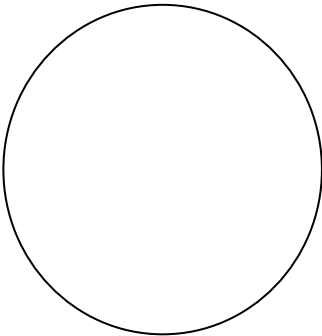
参考図

NO. 6 両発進 立坑

立坑寸法 φ 2, 000 ケーシング厚 12 mm

立坑面積 $2.000^2 \times \pi / 4 = 3.142 \text{ m}^2$

掘削面積 $2.024^2 \times \pi / 4 = 3.217 \text{ m}^2$



ケーシング φ 2000

掘削埋戻

▽ 84.92

舗装掘削

舗装工

砕石

砕石

圧入掘削

底版

調整コンクリート

底盤コンクリート

斜壁・上部

直壁+躯体

▽ 81.548

▽ 80.548

50

4,522

4,322

圧入深 =

掘削深 =

442

808

2,400

≡

1,250

1,722

≡

250

3,372

1,000

立坑数量計算書

NO. 6 両発進立坑

工種	種別	計算式	数量
1. 鋼製ケーシング圧入掘削		φ 2, 000	
圧入掘削積込工	ラムシェル 0. 40m ³	油圧ラムシェル(テレスコピック式)	4. 159 m
掘削深 H≦9. 0m	粘性土	N≦5 0. 400	0. 400 m
	〃	5< N≦30	m
	砂質土	N≦30 3. 759	3. 759 m
	〃	30< N≦50	m
	礫質土	N≦30	m
	〃	30< N≦50	m
掘削深 9. 0m<H	粘性土	N≦5	m
	〃	5< N≦30	m
	砂質土	N≦30	m
	〃	30< N≦50	m
	礫質土	N≦30	m
	〃	30< N≦50	m
ケーシング溶接工	φ 2, 000	6. 30 m	± 箇所
ケーシング引抜工			0. 9 m
ケーシング撤去工	φ 2, 000 以下		1 箇所
ケーシング切断長	φ 2, 000	2. 00 × π + (1. 500 - 0. 072) × 4	12. 00 m
スクラップ	上部撤去部	(1. 500 - 0. 072) × 0. 615t/m	0. 878 t
φ 2, 000	鏡切り部	(0. 216 + 0. 100) ² × π /4× 0. 0942t/m2 × 1 箇所	
		+ (0. 216 + 0. 100) ² × π /4× 0. 0942t/m2 × 1 箇所	
			0. 015 t
2. 底盤コンクリート工			
底盤コンクリート	コンクリート 30-18-20(25)BB		3. 1 m ³
3. 圧入掘削設備			
機械設置撤去工			± 回
機械退避・再設置工			± 回
4. 鋼製ケーシング存置			
刃 先	φ 2, 000 用		± 個
先頭ケーシング	φ 2, 000	L= 2. 40 m	± 本
中間ケーシング	φ 2, 000	L= m	本
最終ケーシング	φ 2, 000	L= 1. 20 m	± 本
ケーシング全長	φ 2, 000		3. 60 m

立坑数量計算書

NO. 6 両発進立坑

工種	種別	計算式	数量
5. 仮設ケーシング 損料		呼び径 $\phi 2,000$	1 式
6. 路面覆工	円形覆工板 $\phi 2,000$ 用	参考重量 1.160 t	
円形覆工板設置工	$\phi 2,000$		4 箇所
円形覆工板開閉工	$\phi 2,000$		20 回
円形覆工板撤去工	$\phi 2,000$		1 箇所
覆工板損料			1 式
7. 立坑土工			
残土処分工		3.217×4.322	13.90 m^3
埋戻工	碎石埋戻	$3.142 \times (1.500 - 0.250) -$ (控除)	3.93 m^3
	流動化処理土埋戻	$3.142 \times -$ (控除)	m^3
舗装切断	As t= 5 cm	$2.00 \times \pi$	6.28 m
舗装版掘削積込	As t= 5 cm	$2.00^2 \times \pi / 4$	3.14 m^2
舗装版掘削積込	HMS t= cm	$\times \pi / 4$	m^2
路盤掘削	M25 t= cm	$2.00^2 \times \pi / 4 \times$	m^3
残塊処分	アスファルト	3.14×0.05	0.16 m^3
	HMS (鉦滓)	\times	m^3
	粒調碎石	\times	m^3
埋戻控除土量計算			
	舗装工	0.528×0.25	0.13 m^3
	1号 斜壁 H=600	0.70×0.44	0.31 m^3
	1号 直壁・連結直壁	0.87×0.81	0.70 m^3
	中間斜壁		m^3
	合計		m^3
	直壁・躯体・底版		m^3
	中間斜壁		m^3
	直壁		m^3
	1号 躯体及び直壁	0.866×1.722	1.49 m^3
	1号 底版及び調整Co	0.950×0.280	0.95 m^3
	管渠	$(0.216^2 + 0.216^2)$	
		$\times \pi / 4 \times 0.475 \times 2$	0.07 m^3
	取付管	$(0.165^2 \times \pi / 4) \times 0.475 \times 2$	0.02 m^3
	合計	改良土控除	3.67 m^3
9. 舗装工			
表層工		$3.142 - 0.6^2 \times \pi / 4$	2.86 m^2

立坑数量計算書

NO. 7 到達立坑

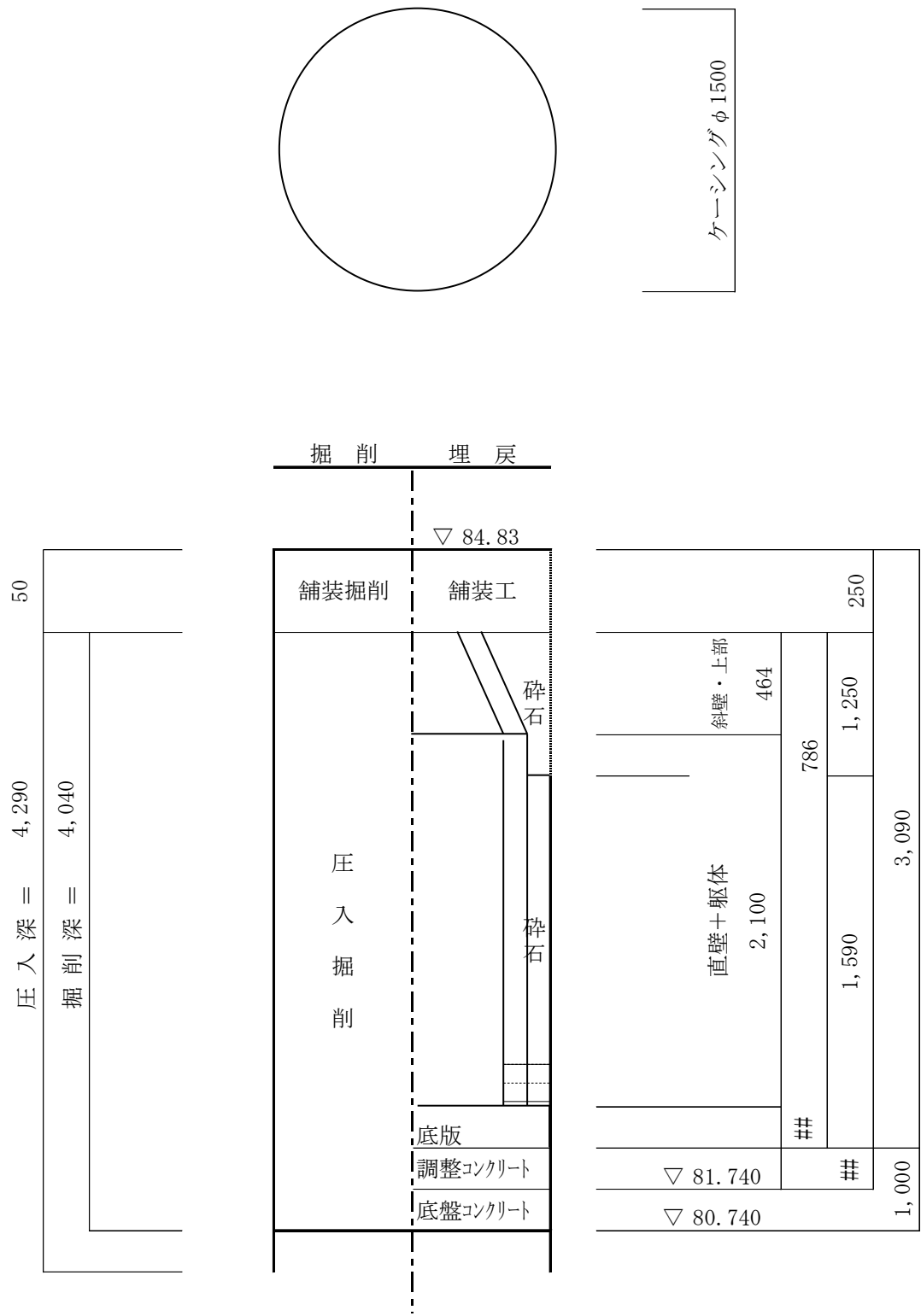
参考図

NO. 7 到達 立坑

立坑寸法φ 1, 500ケーシング厚12 mm

立坑面積 $1.500^2 \times \pi / 4 = 1.767 \text{ m}^2$

掘削面積 $1.524^2 \times \pi / 4 = 1.824 \text{ m}^2$



立坑数量計算書

NO. 7 到達立坑

工種	種別	計算式	数量
施工済み			
1. 鋼製ケーシング圧入掘削		$\phi 1,500$	
圧入掘削積込工	クラムシェル 0.40m ^φ	油圧クラムシェル(テレスコピック式)	4.040 m
掘削深 H ≤ 9.0m	粘性土	$N \leq 5$ 0.400	0.400 m
	〃	$5 < N \leq 30$	m
	砂質土	$N \leq 30$ 3.640	3.640 m
	〃	$30 < N \leq 50$	m
	礫質土	$N \leq 30$	m
	〃	$30 < N \leq 50$	m
掘削深 9.0m < H	粘性土	$N \leq 5$	m
	〃	$5 < N \leq 30$	m
	砂質土	$N \leq 30$	m
	〃	$30 < N \leq 50$	m
	礫質土	$N \leq 30$	m
	〃	$30 < N \leq 50$	m
ケーシング溶接工	$\phi 1,500$	4.70 m	± 箇所
ケーシング引抜工			0.9 m
ケーシング撤去工	$\phi 1,500$ 以下		1 箇所
ケーシング切断長	$\phi 1,500$	$1.50 \times \pi + (1.500 - 0.090) \times 4$	10.35 m
スクラップ	上部撤去部	$(1.500 - 0.090) \times 0.466\text{t/m}$	0.657 t
$\phi 1,500$	鏡切り部	$\frac{(0.216 + 0.100)^2}{2} \times \pi / 4 \times 0.0942\text{t/m}^2$ × 1 箇所	
		$+$ $\frac{(0.216 + 0.100)^2}{2} \times \pi / 4 \times 0.0942\text{t/m}^2$ × 1 箇所	
			0.015 t
2. 底盤コンクリート工			
底盤コンクリート	コンクリート 30-18-20(25)BB		1.8 m ^φ
3. 圧入掘削設備			
機械設置撤去工			± 回
機械退避・再設置工			± 回
4. 鋼製ケーシング存置			
刃 先	$\phi 1,500$ 用		± 個
先頭ケーシング	$\phi 1,500$	L= 2.40 m	± 本
中間ケーシング	$\phi 1,500$	L= m	本
最終ケーシング	$\phi 1,500$	L= 0.90 m	± 本
ケーシング全長	$\phi 1,500$		3.30 m

立坑数量計算書

NO. 7 到達立坑

工種	種別	計算式	数量
5. 仮設ケンゲ 損料		呼び径 φ 1, 500	1 式
6. 路面覆工	円形覆工板 φ 1, 500 用	参考重量 0. 730 t	
円形覆工板設置工	φ 1, 500		4 箇所
円形覆工板開閉工	φ 1, 500		1 回
円形覆工板撤去工	φ 1, 500		1 箇所
覆工板損料			1 式
7. 立坑土工			
残土処分工		1. 824 × 4. 040	7. 37 m ³
埋戻工	碎石埋戻	1. 767 × (1. 500 − 0. 250) − (控除)	2. 21 m ³
	流動化処理土埋戻	1. 767 × − (控除)	m ³
舗装切断	As t= 5 cm	1. 50 × π	4. 71 m
舗装版掘削積込	As t= 5 cm	1. 50 ² × π /4	1. 77 m ²
舗装版掘削積込	HMS t= cm	× π /4	m ²
路盤掘削	M25 t= cm	1. 50 ² × π /4 ×	m ³
残塊処分	アスファルト	1. 77 × 0. 05	0. 09 m ³
	HMS (鉦滓)	×	m ³
	粒調碎石	×	m ³
埋戻控除土量計算			
	舗装工	0. 528 × 0. 25	0. 13 m ³
	1号 斜壁 H=600	0. 70 × 0. 46	0. 32 m ³
	1号 直壁・連結直壁	0. 87 × 0. 79	0. 68 m ³
	中間斜壁		m ³
	合計		m ³
	直壁・躯体・底版		m ³
	中間斜壁		m ³
	直壁		m ³
	1号 躯体及び直壁	0. 866 × 1. 751	1. 52 m ³
	1号 底版及び調整Co	0. 950 ×	0. 95 m ³
	管渠	(0. 216 ² + 0. 216 ²)	
		× π /4× 0. 450	0. 03 m ³
	外副管		m ³
	合計	改良土控除	3. 63 m ³
8. 底版コンクリートはつり工	水中コンクリート 30-18-20(25)BB	1. 767 × 0. 146	0. 26 m ³
9. 舗装工			
表層工		1. 767 − 0. 6 ² × π /4	1. 48 m ²

【薬液注入工 総括表（二重管ストレーナ工法）複相方式】

注 入 箇 所	1 本 当 り 削 孔 長				1 本 当 り 土 被 り 長 m／本	1 日 当 り 施 工 本 数 本／日	1 本 当 り 施 工 時 間 分／本	1 本 当 た り 注 入 材 料			施 工 本 数 本	総 注 入 量		
	粘性土	砂質土	レキ質土	削孔長				1 次 注 入	2 次 注 入	計		1 次 注 入	2 次 注 入	計
	m／本	m／本	m／本	m／本				リットル／本	リットル／本	リットル／本		k l	k l	k l
既設No. 3（坑口）	0.400	3.703		4.103	2.803	11.3	66.7	182	250	432	4	0.727	1.000	1.727
No. 5（坑口・下流）	0.400	3.407		3.807	2.507	11.7	64.6	182	250	432	4	0.727	1.000	1.727
No. 5（坑口・上流）	0.400	3.448		3.848	2.548	11.6	64.9	182	250	432	4	0.727	1.000	1.727
No. 6（坑口・下流）	0.400	3.030		3.430	2.130	12.2	62.1	182	250	432	4	0.727	1.000	1.727
No. 6（坑口・上流）	0.400	3.010		3.410	2.110	12.2	61.9	182	250	432	4	0.727	1.000	1.727
No. 7（坑口・下流）	0.400	2.832		3.232	1.932	12.5	60.7	182	250	432	4	0.727	1.000	1.727
計	2.400	19.430		21.830	14.030	71.5	380.9	1092	1500	2592	24	4.362	6.000	10.362

薬液注入工の計算（二重管ストレーナ複相方式）

入力シート

注入箇所			既設No. 3（坑口）				
算 式			1.50×2.50				
注入面積		m ²	3.750				
削孔長		m	注入長			平均N値	m
土質	粘性土	0.400	土質	粘性土①	0-4		
				粘性土②	4-8	5	0.400
				粘性土③	8-15		
	砂質土	3.703		砂質土①	0-10	5	0.900
				砂質土②	10-30		
				砂質土③	30-		
	砂礫土			砂礫土①	10-30		
				砂礫土②	30-50		
				砂礫土③	50-		

4.103

施工時間の算出

注入諸元

- (1) 機械準備時間 T1 (分/本)
T1= 14.0 (分/本)
- (2) 削孔時間 T2 (分/本)
T2= Σ (γ1×L0) (分/本)

削孔時間算定表

土質名	γ1 (分/m)	削孔長 L0(m)	削孔時間 T2(分)
粘性土	4.0	0.400	1.60
砂質土	5.0	3.703	18.52
砂礫土	8.0		
計		4.103	20.12

土質	N値	間隙率 ρ (%)	填充率 α (%)	注入率 (%)	注入比率		注入率	
					1次 (%)	2次 (%)	1次 (%)	2次 (%)
粘性土①	0~4	70	40	28.0	1.0	1.0	14.0	14.0
粘性土②	4~8	60	40	24.0	1.0	1.0	12.0	12.0
粘性土③	8~15							
砂質土①	0~10	45	90	40.5	1.0	1.5	16.2	24.3
砂質土②	10~30	45	90	40.5	1.0	2.5	11.6	28.9
砂質土③	30以上	35	90	31.5	1.0	3.5	7.0	24.5
砂礫土①	10~30	40	90	36.0	1.0	0.5	24.0	12.0
砂礫土②	30~50	40	90	36.0	1.0	0.5	24.0	12.0
砂礫土③	50以上	35	90	31.5	1.0	1.5	12.6	18.9

※注入比率は標準値である。

- (3) 注入時間 T3 (分/本)
T3= Q s / q s = 432 / 16.0
= 27.0 (分/本)
q s : 単位時間当り作業量 (16.0 l/m)
- (4) 土被り引抜時間 T4 (分/本)
T4= (削孔長－注入高) × γ2
= (4.103 － 1.300) × 2.0
= 5.6 (分/本)
γ2 : 土被り引抜の単位作業時間 (2.0 分/m)
- (5) 1本当り施工時間 T s (分/本)
T s= T1+ T2+ T3+ T4
= 66.7 (分/本)
- (6) 2セット1日当り施工本数 N (本/日)
N= (60×H) / T s ×2
= (60×6.3) / 66.7 × 2 = 11.3 (本/日)
H : 注入設備の1日当り実作業時間 (6.3 時間)

薬液注入工数量計算書

注入箇所 < 既設No.3 (坑口) >
薬液注入量 (二重管ストレーナ複相方式)

$$V = v \cdot \rho \cdot \alpha$$

V : 注入量 (kl) 注入面積 3.750 m²
v : 対象土量 (m³) 1本当り注入面積 0.938 m²
ρ : 間隙率 注入本数 4 本
α : 填充率

$$Q_s = v_1 \cdot \lambda \cdot 1000$$

Q_s : 1本当り注入量 (l)
v₁ : 1本当り対象土量 (m³)
 v₁ = 1本当り注入面積 × 注入高
λ : 注入率 (λ = ρ · α)

土質名	平均 N値	対象土量	注入高 h (m)	間隙率 ρ (%)	填充率 α (%)	注入率 (%)	注入率		注入量			1本当り注入量			摘要
		v ₁ (m ³)					1次	2次	1次注入	2次注入	注入量	1次注入	2次注入	注入量	
		v (m ³)					(%)	(%)	(kl)	(kl)	(kl)	(l)	(l)	(l)	
粘性土①															
粘性土②	5	0.375 1.500	0.400	60	40	24.0	12.0	12.0	0.180	0.180	0.360	45	45	90	
粘性土③															
砂質土①	5	0.844 3.375	0.900	45	90	40.5	16.2	24.3	0.547	0.820	1.367	137	205	342	
砂質土②															
砂質土③															
砂礫土①															
砂礫土②															
砂礫土③															
合計		1.219 4.875	1.300						0.727	1.000	1.727	182	250	432	

薬液注入工の計算（二重管ストレーナ複相方式）

入力シート

注入箇所			No. 5（坑口・下流）			
算 式			1.50×2.50			
注入面積		m ²	3.750			
削孔長		m	注入長		平均N値	m
土質	粘性土	0.400	粘性土①	0-4		
			粘性土②	4-8	5	0.400
			粘性土③	8-15		
	砂質土	3.407	砂質土①	0-10	5	0.900
			砂質土②	10-30		
			砂質土③	30-		
	砂礫土		砂礫土①	10-30		
			砂礫土②	30-50		
			砂礫土③	50-		

3.807

施工時間の算出

注入諸元

- (1) 機械準備時間 T1（分／本）
T1= 14.0（分／本）
(2) 削孔時間 T2（分／本）
T2=Σ（γ1×L0）（分／本）

削孔時間算定表

土質名	γ1 (分/m)	削孔長 L0(m)	削孔時間 T2(分)
粘性土	4.0	0.400	1.60
砂質土	5.0	3.407	17.04
砂礫土	8.0		
計		3.807	18.64

土質	N値	間隙率 ρ (%)	填充率 α (%)	注入率 (%)	注入比率		注入率	
					1次 (%)	2次 (%)	1次 (%)	2次 (%)
粘性土①	0~4	70	40	28.0	1.0	1.0	14.0	14.0
粘性土②	4~8	60	40	24.0	1.0	1.0	12.0	12.0
粘性土③	8~15							
砂質土①	0~10	45	90	40.5	1.0	1.5	16.2	24.3
砂質土②	10~30	45	90	40.5	1.0	2.5	11.6	28.9
砂質土③	30以上	35	90	31.5	1.0	3.5	7.0	24.5
砂礫土①	10~30	40	90	36.0	1.0	0.5	24.0	12.0
砂礫土②	30~50	40	90	36.0	1.0	0.5	24.0	12.0
砂礫土③	50以上	35	90	31.5	1.0	1.5	12.6	18.9

※注入比率は標準値である。

- (3) 注入時間 T3（分／本）
T3=Q s／q s= 432／ 16.0
= 27.0（分／本）
q s：単位時間当り作業量（16.0 l/m）
(4) 土被り引抜時間 T4（分／本）
T4=（削孔長－注入高）×γ2
=（ 3.807 － 1.300 ）× 2.0
= 5.0（分／本）
γ2：土被り引抜の単位作業時間（2.0 分/m）
(5) 1本当り施工時間 Ts（分／本）
Ts=T1+T2+T3+T4
= 64.6（分／本）
(6) 2セット1日当り施工本数 N（本／日）
N=（60×H）／Ts×2
=（60×6.3）／ 64.6×2= 11.7（本／日）
H：注入設備の1日当り実作業時間（6.3 時間）

薬液注入工数量計算書

注入箇所 < No.5 (坑口・下流) >
薬液注入量 (二重管ストレーナ複相方式)

$$V = v \cdot \rho \cdot \alpha$$

V : 注入量 (kl)

v : 対象土量 (m3)

ρ : 間隙率

α : 填充率

注入面積

1 本当り注入面積

注入本数

3.750 m2

0.938 m2

4 本

$$Q_s = v_1 \cdot \lambda \cdot 1000$$

Q_s : 1 本当り注入量 (l)

v₁ : 1 本当り対象土量 (m3)

v₁ = 1 本当り注入面積 × 注入高

λ : 注入率 (λ = ρ · α)

土質名	平均 N 値	対象土量	注入高 h (m)	間隙率 ρ (%)	填充率 α (%)	注入率 (%)	注入率		注入量			1 本当り注入量			摘要
		<div>v₁(m3) v (m3)</div>					1 次 (%)	2 次 (%)	1 次注入 (kl)	2 次注入 (kl)	注入量 (kl)	1 次注入 (l)	2 次注入 (l)	注入量 (l)	
粘性土①															
粘性土②	5	<div>0.375 1.500</div>	0.400	60	40	24.0	12.0	12.0	0.180	0.180	0.360	45	45	90	
粘性土③															
砂質土①	5	<div>0.844 3.375</div>	0.900	45	90	40.5	16.2	24.3	0.547	0.820	1.367	137	205	342	
砂質土②															
砂質土③															
砂礫土①															
砂礫土②															
砂礫土③															
合計		<div>1.219 4.875</div>	1.300						0.727	1.000	1.727	182	250	432	

薬液注入工の計算（二重管ストレーナ複相方式）

入力シート

注入箇所			No. 5（坑口・上流）			
算 式			1.50×2.50			
注入面積		m ²	3.750			
削孔長		m	注入長		平均N値	m
土質	粘性土	0.400	粘性土①	0-4		
			粘性土②	4-8	5	0.400
			粘性土③	8-15		
	砂質土	3.448	砂質土①	0-10	5	0.900
			砂質土②	10-30		
			砂質土③	30-		
	砂礫土		砂礫土①	10-30		
			砂礫土②	30-50		
			砂礫土③	50-		

3.848

施工時間の算出

注入諸元

- (1) 機械準備時間 T1（分／本）
T1= 14.0（分／本）
(2) 削孔時間 T2（分／本）
T2=Σ（γ1×L0）（分／本）

削孔時間算定表

土質名	γ1 (分/m)	削孔長 L0(m)	削孔時間 T2(分)
粘性土	4.0	0.400	1.60
砂質土	5.0	3.448	17.24
砂礫土	8.0		
計		3.848	18.84

土質	N値	間隙率 ρ (%)	填充率 α (%)	注入率 (%)	注入比率		注入率	
					1次 (%)	2次 (%)	1次 (%)	2次 (%)
粘性土①	0~4	70	40	28.0	1.0	1.0	14.0	14.0
粘性土②	4~8	60	40	24.0	1.0	1.0	12.0	12.0
粘性土③	8~15							
砂質土①	0~10	45	90	40.5	1.0	1.5	16.2	24.3
砂質土②	10~30	45	90	40.5	1.0	2.5	11.6	28.9
砂質土③	30以上	35	90	31.5	1.0	3.5	7.0	24.5
砂礫土①	10~30	40	90	36.0	1.0	0.5	24.0	12.0
砂礫土②	30~50	40	90	36.0	1.0	0.5	24.0	12.0
砂礫土③	50以上	35	90	31.5	1.0	1.5	12.6	18.9

※注入比率は標準値である。

- (3) 注入時間 T3（分／本）
T3=Q s／q s= 432／ 16.0
= 27.0（分／本）
q s：単位時間当り作業量（16.0 l/m）
(4) 土被り引抜時間 T4（分／本）
T4=（削孔長－注入高）×γ2
=（ 3.848 － 1.300 ）× 2.0
= 5.1（分／本）
γ2：土被り引抜の単位作業時間（2.0 分/m）
(5) 1本当り施工時間 Ts（分／本）
Ts=T1+T2+T3+T4
= 64.9（分／本）
(6) 2セット1日当り施工本数 N（本／日）
N=（60×H）／Ts×2
=（60×6.3）／ 64.9×2 = 11.6（本／日）
H：注入設備の1日当り実作業時間（6.3 時間）

薬液注入工数量計算書

注入箇所 < No.5 (坑口・上流) >
薬液注入量 (二重管ストレーナ複相方式)

$$V = v \cdot \rho \cdot \alpha$$

V : 注入量 (kl)
v : 対象土量 (m3)
 ρ : 間隙率
 α : 填充率

$$Q_s = v_1 \cdot \lambda \cdot 1000$$

Q_s : 1 本当り注入量 (l)
 v_1 : 1 本当り対象土量 (m3)
 $v_1 = 1 \text{ 本当り注入面積} \times \text{注入高}$
 λ : 注入率 ($\lambda = \rho \cdot \alpha$)

注入面積 3.750 m2
1 本当り注入面積 0.938 m2
注入本数 4 本

土質名	平均 N 値	対象土量	注入高 h (m)	間隙率 ρ (%)	填充率 α (%)	注入率 (%)	注入率		注入量			1 本当り注入量			摘要
		v_1 (m3) v (m3)					1 次 (%)	2 次 (%)	1 次注入 (kl)	2 次注入 (kl)	注入量 (kl)	1 次注入 (l)	2 次注入 (l)	注入量 (l)	
粘性土①															
粘性土②	5	0.375 1.500	0.400	60	40	24.0	12.0	12.0	0.180	0.180	0.360	45	45	90	
粘性土③															
砂質土①	5	0.844 3.375	0.900	45	90	40.5	16.2	24.3	0.547	0.820	1.367	137	205	342	
砂質土②															
砂質土③															
砂礫土①															
砂礫土②															
砂礫土③															
合計		1.219 4.875	1.300						0.727	1.000	1.727	182	250	432	

薬液注入工の計算（二重管ストレーナ複相方式）

入力シート

注入箇所			No. 6（坑口・下流）			
算 式			1.50×2.50			
注入面積		m ²	3.750			
削孔長		m	注入長		平均N値	m
土質	粘性土	0.400	粘性土①	0-4		
			粘性土②	4-8	5	0.400
			粘性土③	8-15		
	砂質土	3.030	砂質土①	0-10	5	0.900
			砂質土②	10-30		
			砂質土③	30-		
	砂礫土		砂礫土①	10-30		
			砂礫土②	30-50		
			砂礫土③	50-		

3.430

施工時間の算出

注入諸元

- (1) 機械準備時間 T1 (分/本)
T1= 14.0 (分/本)
- (2) 削孔時間 T2 (分/本)
T2= Σ (γ1×L0) (分/本)

削孔時間算定表

土質名	γ1 (分/m)	削孔長 L0(m)	削孔時間 T2(分)
粘性土	4.0	0.400	1.60
砂質土	5.0	3.030	15.15
砂礫土	8.0		
計		3.430	16.75

土質	N値	間隙率 ρ (%)	填充率 α (%)	注入率 (%)	注入比率		注入率	
					1次 (%)	2次 (%)	1次 (%)	2次 (%)
粘性土①	0~4	70	40	28.0	1.0	1.0	14.0	14.0
粘性土②	4~8	60	40	24.0	1.0	1.0	12.0	12.0
粘性土③	8~15							
砂質土①	0~10	45	90	40.5	1.0	1.5	16.2	24.3
砂質土②	10~30	45	90	40.5	1.0	2.5	11.6	28.9
砂質土③	30以上	35	90	31.5	1.0	3.5	7.0	24.5
砂礫土①	10~30	40	90	36.0	1.0	0.5	24.0	12.0
砂礫土②	30~50	40	90	36.0	1.0	0.5	24.0	12.0
砂礫土③	50以上	35	90	31.5	1.0	1.5	12.6	18.9

※注入比率は標準値である。

- (3) 注入時間 T3 (分/本)
T3= Q s / q s = 432 / 16.0
= 27.0 (分/本)
q s : 単位時間当り作業量 (16.0 l/m)
- (4) 土被り引抜時間 T4 (分/本)
T4= (削孔長－注入高) × γ2
= (3.430 － 1.300) × 2.0
= 4.3 (分/本)
γ2 : 土被り引抜の単位作業時間 (2.0 分/m)
- (5) 1本当り施工時間 T s (分/本)
T s= T1+ T2+ T3+ T4
= 62.1 (分/本)
- (6) 2セット1日当り施工本数 N (本/日)
N= (60×H) / T s ×2
= (60×6.3) / 62.1 × 2 = 12.2 (本/日)
H : 注入設備の1日当り実作業時間 (6.3 時間)

薬液注入工数量計算書

注入箇所 < No.6 (坑口・下流) >
薬液注入量 (二重管ストレーナ複相方式)

$$V = v \cdot \rho \cdot \alpha$$

V : 注入量 (kl) 注入面積 3.750 m²
v : 対象土量 (m³) 1本当り注入面積 0.938 m²
ρ : 間隙率 注入本数 4本
α : 填充率

$$Q_s = v_1 \cdot \lambda \cdot 1000$$

Q_s : 1本当り注入量 (l)
v₁ : 1本当り対象土量 (m³)
 v₁ = 1本当り注入面積 × 注入高
λ : 注入率 (λ = ρ · α)

土質名	平均 N値	対象土量	注入高 h (m)	間隙率 ρ (%)	填充率 α (%)	注入率 (%)	注入率		注入量			1 本 当 り 注 入 量			摘要
		v 1 (m3) v (m3)					1 次 (%)	2 次 (%)	1 次 注 入 (k1)	2 次 注 入 (k1)	注 入 量 (k1)	1 次 注 入 (1)	2 次 注 入 (1)	注 入 量 (1)	
粘性土①															
粘性土②	5	0.375 1.500	0.400	60	40	24.0	12.0	12.0	0.180	0.180	0.360	45	45	90	
粘性土③															
砂質土①	5	0.844 3.375	0.900	45	90	40.5	16.2	24.3	0.547	0.820	1.367	137	205	342	
砂質土②															
砂質土③															
砂礫土①															
砂礫土②															
砂礫土③															
合計		1.219 4.875	1.300						0.727	1.000	1.727	182	250	432	

薬液注入工の計算（二重管ストレーナ複相方式）

入力シート

注入箇所			No. 6（坑口・上流）			
算 式			1.50×2.50			
注入面積		m ²	3.750			
削孔長		m	注入長		平均N値	m
土質	粘性土	0.400	粘性土①	0-4		
			粘性土②	4-8	5	0.400
			粘性土③	8-15		
	砂質土	3.010	砂質土①	0-10	5	0.900
			砂質土②	10-30		
			砂質土③	30-		
	砂礫土		砂礫土①	10-30		
			砂礫土②	30-50		
			砂礫土③	50-		

3.410

施工時間の算出

注入諸元

- (1) 機械準備時間 T1 (分/本)
T1= 14.0 (分/本)
- (2) 削孔時間 T2 (分/本)
T2= Σ (γ1×L0) (分/本)

削孔時間算定表

土質名	γ1 (分/m)	削孔長 L0(m)	削孔時間 T2(分)
粘性土	4.0	0.400	1.60
砂質土	5.0	3.010	15.05
砂礫土	8.0		
計		3.410	16.65

土質	N値	間隙率 ρ (%)	填充率 α (%)	注入率 (%)	注入比率		注入率	
					1次 (%)	2次 (%)	1次 (%)	2次 (%)
粘性土①	0~4	70	40	28.0	1.0	1.0	14.0	14.0
粘性土②	4~8	60	40	24.0	1.0	1.0	12.0	12.0
粘性土③	8~15							
砂質土①	0~10	45	90	40.5	1.0	1.5	16.2	24.3
砂質土②	10~30	45	90	40.5	1.0	2.5	11.6	28.9
砂質土③	30以上	35	90	31.5	1.0	3.5	7.0	24.5
砂礫土①	10~30	40	90	36.0	1.0	0.5	24.0	12.0
砂礫土②	30~50	40	90	36.0	1.0	0.5	24.0	12.0
砂礫土③	50以上	35	90	31.5	1.0	1.5	12.6	18.9

※注入比率は標準値である。

- (3) 注入時間 T3 (分/本)
T3=Q s/q s= 432/ 16.0
= 27.0 (分/本)
q s : 単位時間当り作業量 (16.0 l/m)
- (4) 土被り引抜時間 T4 (分/本)
T4= (削孔長－注入高) × γ2
= (3.410 － 1.300) × 2.0
= 4.2 (分/本)
γ2 : 土被り引抜の単位作業時間 (2.0 分/m)
- (5) 1本当り施工時間 Ts (分/本)
Ts=T1+T2+T3+T4
= 61.9 (分/本)
- (6) 2セット1日当り施工本数 N (本/日)
N= (60×H) / Ts ×2
= (60×6.3) / 61.9 × 2 = 12.2 (本/日)
H : 注入設備の1日当り実作業時間 (6.3 時間)

薬液注入工数量計算書

注入箇所 < No.6 (坑口・上流) >
薬液注入量 (二重管ストレーナ複相方式)

$$V = v \cdot \rho \cdot \alpha$$

V : 注入量 (kl) 注入面積 3.750 m²
v : 対象土量 (m³) 1本当り注入面積 0.938 m²
ρ : 間隙率 注入本数 4 本
α : 填充率

$$Q_s = v_1 \cdot \lambda \cdot 1000$$

Q_s : 1本当り注入量 (l)
v₁ : 1本当り対象土量 (m³)
 v₁ = 1本当り注入面積 × 注入高
λ : 注入率 (λ = ρ · α)

土質名	平均 N値	対象土量	注入高 h (m)	間隙率 ρ (%)	填充率 α (%)	注入率 (%)	注入率		注入量			1 本 当 り 注 入 量			摘要
		v 1 (m3) v (m3)					1 次 (%)	2 次 (%)	1 次 注 入 (k1)	2 次 注 入 (k1)	注 入 量 (k1)	1 次 注 入 (1)	2 次 注 入 (1)	注 入 量 (1)	
粘性土①															
粘性土②	5	0.375 1.500	0.400	60	40	24.0	12.0	12.0	0.180	0.180	0.360	45	45	90	
粘性土③															
砂質土①	5	0.844 3.375	0.900	45	90	40.5	16.2	24.3	0.547	0.820	1.367	137	205	342	
砂質土②															
砂質土③															
砂礫土①															
砂礫土②															
砂礫土③															
合計		1.219 4.875	1.300						0.727	1.000	1.727	182	250	432	

薬液注入工の計算（二重管ストレーナ複相方式）

入力シート

注入箇所			No. 7（坑口・下流）			
算 式			1.50×2.50			
注入面積		m ²	3.750			
削孔長		m	注入長		平均N値	m
土質	粘性土	0.400	粘性土①	0-4	5	0.400
			粘性土②	4-8		
			粘性土③	8-15		
	砂質土	2.832	砂質土①	0-10	5	0.900
			砂質土②	10-30		
			砂質土③	30-		
	砂礫土		砂礫土①	10-30		
			砂礫土②	30-50		
			砂礫土③	50-		

3.232

施工時間の算出

注入諸元

- (1) 機械準備時間 T1 (分/本)
T1 = 14.0 (分/本)
- (2) 削孔時間 T2 (分/本)
T2 = Σ (γ1 × L0) (分/本)

削孔時間算定表

土質名	γ1 (分/m)	削孔長 L0(m)	削孔時間 T2(分)
粘性土	4.0	0.400	1.60
砂質土	5.0	2.832	14.16
砂礫土	8.0		
計		3.232	15.76

土質	N 値	間隙率 ρ (%)	填充率 α (%)	注入率 (%)	注入比率		注入率	
					1 次 (%)	2 次 (%)	1 次 (%)	2 次 (%)
粘性土①	0~4	70	40	28.0	1.0	1.0	14.0	14.0
粘性土②	4~8	60	40	24.0	1.0	1.0	12.0	12.0
粘性土③	8~15							
砂質土①	0~10	45	90	40.5	1.0	1.5	16.2	24.3
砂質土②	10~30	45	90	40.5	1.0	2.5	11.6	28.9
砂質土③	30以上	35	90	31.5	1.0	3.5	7.0	24.5
砂礫土①	10~30	40	90	36.0	1.0	0.5	24.0	12.0
砂礫土②	30~50	40	90	36.0	1.0	0.5	24.0	12.0
砂礫土③	50以上	35	90	31.5	1.0	1.5	12.6	18.9

※注入比率は標準値である。

- (3) 注入時間 T3 (分/本)
T3 = Q s / q s = 432 / 16.0
= 27.0 (分/本)
q s : 単位時間当り作業量 (16.0 l/m)
- (4) 土被り引抜時間 T4 (分/本)
T4 = (削孔長 - 注入高) × γ2
= (3.232 - 1.300) × 2.0
= 3.9 (分/本)
γ2 : 土被り引抜の単位作業時間 (2.0 分/m)
- (5) 1 本当り施工時間 Ts (分/本)
Ts = T1 + T2 + T3 + T4
= 60.7 (分/本)
- (6) 2 セット 1 日当り施工本数 N (本/日)
N = (60 × H) / Ts × 2
= (60 × 6.3) / 60.7 × 2 = 12.5 (本/日)
H : 注入設備の 1 日当り実作業時間 (6.3 時間)

薬液注入工数量計算書

注入箇所 < No.7 (坑口・下流) >

薬液注入量 (二重管ストレーナ複相方式)

$$V = v \cdot \rho \cdot \alpha$$

$$Q_s = v_1 \cdot \lambda \cdot 1000$$

V : 注入量 (kl) 注入面積 3.750 m²
v : 対象土量 (m³) 1本当り注入面積 0.938 m²
ρ : 間隙率 注入本数 4 本
α : 填充率

Q_s : 1本当り注入量 (l)
v₁ : 1本当り対象土量 (m³)
v₁ = 1本当り注入面積 × 注入高
λ : 注入率 (λ = ρ · α)

土質名	平均 N値	対象土量	注入高 h (m)	間隙率 ρ (%)	填充率 α (%)	注入率 (%)	注入率		注入量			1本当り注入量			摘要
		v ₁ (m ³) v (m ³)					1次 (%)	2次 (%)	1次注入 (kl)	2次注入 (kl)	注入量 (kl)	1次注入 (l)	2次注入 (l)	注入量 (l)	
粘性土①															
粘性土②	5	0.375 1.500	0.400	60	40	24.0	12.0	12.0	0.180	0.180	0.360	45	45	90	
粘性土③															
砂質土①	5	0.844 3.375	0.900	45	90	40.5	16.2	24.3	0.547	0.820	1.367	137	205	342	
砂質土②															
砂質土③															
砂礫土①															
砂礫土②															
砂礫土③															
合計		1.219 4.875	1.300						0.727	1.000	1.727	182	250	432	

1号マンホール設置工

数量集計表

推進部

1/2

名 称	仕 様	単位	数 量	備 考
マンホール蓋	浮上防止型 T-25 φ 600 ロック付転落防止用梯子受枠共	組	－	
〃	浮上防止型 T-14 φ 600 ロック付転落防止用梯子受枠共	〃	3	
調 整 金 具		式	3	
無収縮モルタル	25Kg	袋	3	
〃	12.5Kg	〃	－	
調整リング	60×5	個	1	
〃	60×10	〃	1	
〃	60×15	〃	1	
斜 壁	60×90×30	個	－	
〃	60×90×45	〃	2	
〃	60×90×60	〃	1	
直 壁	90×90×30	個	1	
〃	90×90×60	〃	1	
〃	90×90×90	〃	1	
〃	90×90×120	〃	－	
〃	90×90×150	〃	－	
〃	90×90×180	〃	－	
躯体ブロック	90×90×60	個	－	
〃	90×90×90	〃	－	
〃	90×90×120	〃	－	
〃	90×90×150	〃	－	
〃	90×90×180	〃	3	
底 版	90用	個	3	

1号マンホール設置工 数量集計表

推進部

2/2

名 称	仕 様	単位	数 量	備 考
底 部 工	(推 進)	箇所	3	
〃	インバートコンクリート 18-8-40BB	m ³	0.194	1箇所当たり平均数量
〃	モルタル上塗り工 t=2cm 配合1:2	m ²	0.636	
調 整 工	コンクリート工	m ³	1.059	
ブロッコ据付工	3m以下	箇所	2	
〃	4m以下	〃	1	
〃	5m以下	〃	-	
削 孔	VU φ 150	箇所	-	
〃	VU φ 200	〃	4	
	VU φ 250	〃	-	
副管取付工 副管径150	内副管タイプ (平均落差 h=2.292m)	個所	1	副管取付工数量参照
〃 〃	特殊Aタイプ	〃	-	〃
〃 〃	特殊Bタイプ	〃	-	〃
〃 〃	特殊Cタイプ	〃	-	〃
〃 副管径200	標準タイプ	〃	-	〃
伸縮可とう継手	φ 200mm用	箇所	6	

推進部

・ブロック据付工	3.0m以下	2箇所	・マンホール蓋	T-14	3個	・無収縮モルタル	25kg	3袋	22.6～45mm	・副管設置工	標準タイプ	1箇所	(平均落差 h=2.292m)
	4.0m以下	1箇所		T-25	-個		12.5kg	-袋	～22.5mm		特殊Aタイプ	-箇所	
	5.0m以下	-箇所									特殊Bタイプ	-箇所	
											特殊Cタイプ	-箇所	
※ ()											標準200タイプ	-箇所	

数量計算書

[illegible]

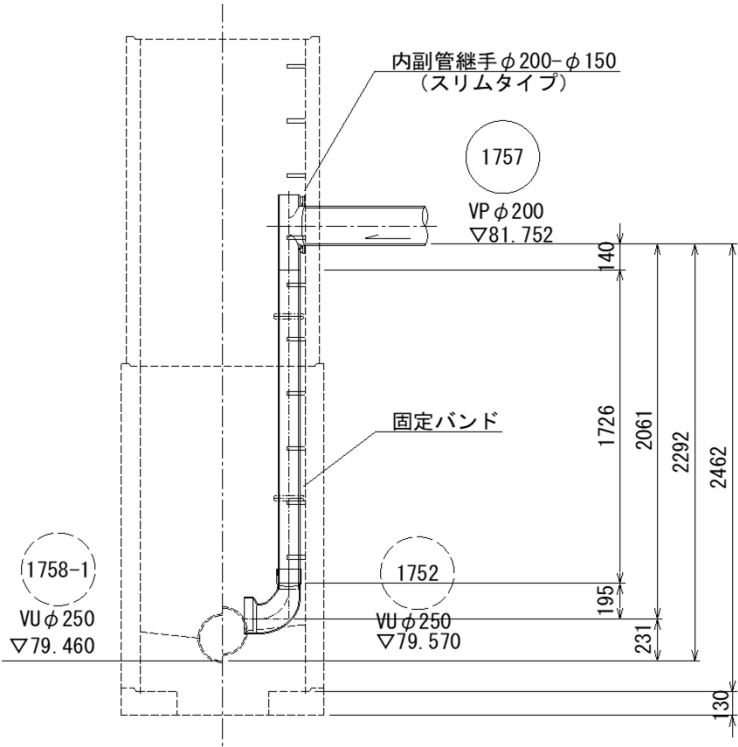
副管取付工 数量計算書

(内副管タイプ 副管径150)

1/2

算 出 根 拠 と な る 構 造 図

副管取付標準構造図



管番号	マンホールNO.	落差H (m)	H1 (m)		流入管 (D2)	摘 要
					流出管 (D1)	
1757	既設No.3	2.292	1.726		VU○200	
					VU○250	
計	箇所 1	2.292	1.726			

副管取付工 数量計算書

(内副管タイプ 副管径150)

2/2

[illegible]

汚水枥・取付管工 数量集計表

補助

1/2

名 称	仕 様	単位	数 量	備 考
鋳鉄製防護ふた	(車両乗入用) T-8 φ200用	組	—	
硬質塩化ビニル製ふた	(一般宅地用) ワンタッチ密閉蓋 (AI)	個	1	
硬質塩化ビニル管	フレーション直管 φ200 L=4.0m	m	0.7	
硬質塩化ビニル製 公共枥	φ200 90° 三方向合流(横型)	個	1	
〃	φ200 90° 三方向合流(縦型)	〃	—	
汚水枥設置工	ます深さ 1.00m以下	箇所	1	
	ます深さ 1.50m以下	〃	—	
	ます深さ 2.00m以下	〃	—	
	ます深さ 2.00m以上	〃	—	
取付管 直管	プレーンエンド φ150 L=4.0m	m	2.7	
〃 90° 支管	可とう支管継手 塩ビ管 φ150	本	—	
〃 30° 自在曲管	塩ビ管 φ150	〃	—	
〃 90° 曲管	塩ビ管 φ150	〃	—	
〃 接着受口カバー	塩ビ管 φ150	〃	1	
〃 キャップ	φ150	個	—	
支管取付工	φ200×150	箇所	—	
取付管布設工	塩ビ管 φ150 H=1.5m以下	m	2.67	L≤3.0m L=2.67m
				3.0<L≤5.0m —
				5.0<L≤12.0m —

数量集計表

補助

2/2

[illegible]

補助

[illegible]

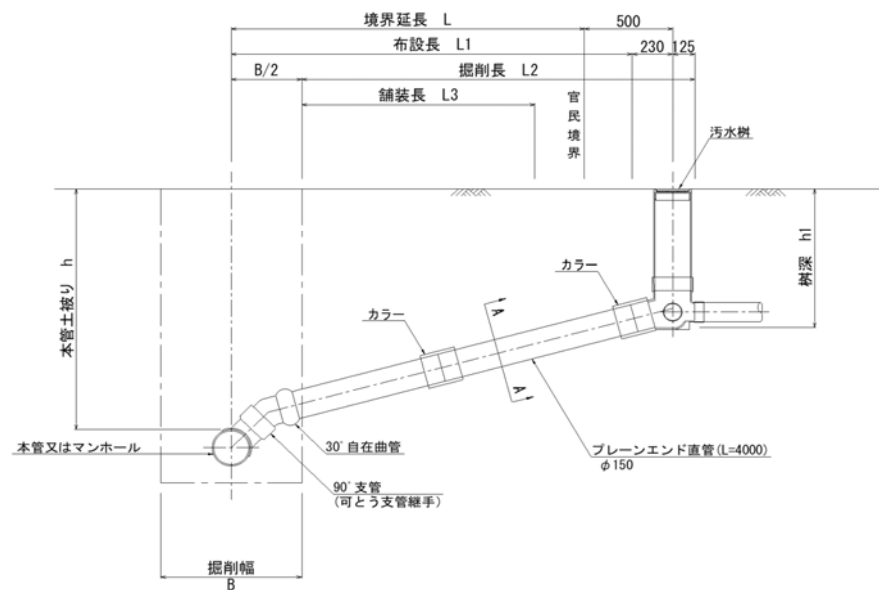
本管φ 200

取付管土工数量計算表

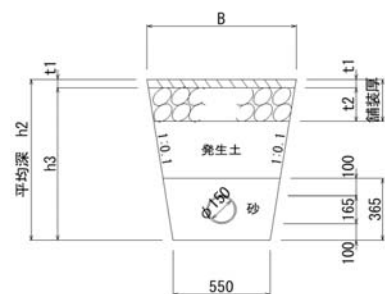
補助

管 番 号	マン ホール 番号	桝 番 号	桝 種 別	中心延長	掘削長	本 管			桝 深	平均掘削深	加重値	舗装長	備 考
						掘削幅	土被り	平均土被り					
						B	h	平均h					
						$\varnothing=L+0.5$ ケ	$L2=\varnothing-B/2+桝幅/2$ m	m			$L2\times h2$ m2	L3 m	
1757	7	45-5	塩ビ	2.90	2.03	2.000	0.89	0.89	0.90	0.90	1.83	0.90	人孔取り(ケーシング)
計				2.90	2.03						1.83	0.90	

本管 ϕ 200 補助



A-A断面図
(取付管埋戻し図)



B 1 =	0.730	m
B 2 =	0.720	m
B 3 =	0.680	m
h 2 =	0.901	m
h 3 =	0.851	m
h 4 =	0.286	m
t 1 =	0.050	m
t 2 =	0.200	m

加 重 値	取付管土工数量計算書より	1.83 m
掘 削 長	取付管土工数量計算書より	2.03 m
舗 装 長	取付管土工数量計算書より	0.90 m
平 均 深	$1.83/2.03=0.901$	0.901 m
掘 削	$(0.720 + 0.550) / 2 \times 0.851 \times 2.03 = 1.10$	1.10 m ³
埋 戻 (発生土)	$(0.680 + 0.623) / 2 \times 0.286 \times 2.03 = 0.38$	0.38 m ³
残土処分	$1.10 - 0.38 = 0.72$	0.72 m ³
基 礎 長	$2.03 - \underbrace{(0.216 \times 1)}_{\phi 200} = 1.81$	1.81 m
砂 基 礎	$0.193 \times 1.81 = 0.35$	0.35 m ³
キ カ イ	$1.1 \times 0.90/2.03=0.49$	0.49 m ³
人 力	$1.10 - 0.49 = 0.61$	0.61 m ³
舗装切断	$0.90 \times 2 = 1.80$	1.80 m
仮復旧工 表 層 工 As撤去工	$0.90 \times 0.730 = 0.66$	0.66 m ²
路 盤 工	$0.90 \times (0.720 + 0.680) \times 1/2 = 0.63$	0.63 m ²
A s 処分工	$0.66 \times 0.05 = 0.03$	0.03 m ³

舗装工 数量集計表

補助

[illegible]

補助

[illegible]

舗装工（立坑部） 数量集計表

補助

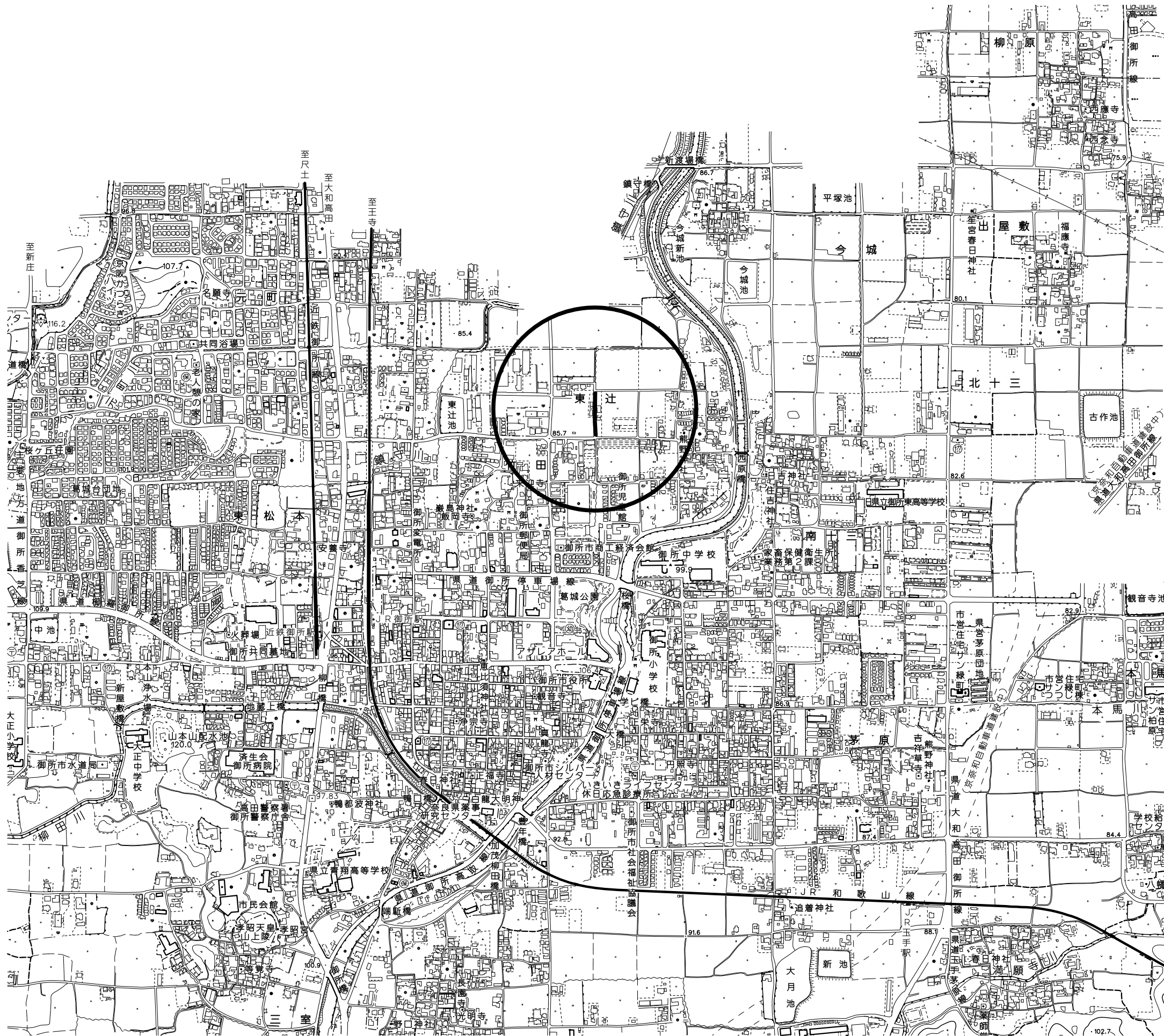
[illegible]

舗装工（取付管部） 数量集計表

補助

[illegible]

位置図
S=1 : 5,000



令和 7 年度		公共下水道事業	
工事名称	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事		
図面名称	位 置 図		
縮 尺	S=1 : 5,000		
施工箇所	東 辻 地 内		
図面番号	1 / 16	作成年月日	年 月 日
御所市 産業建設部 都市整備課			

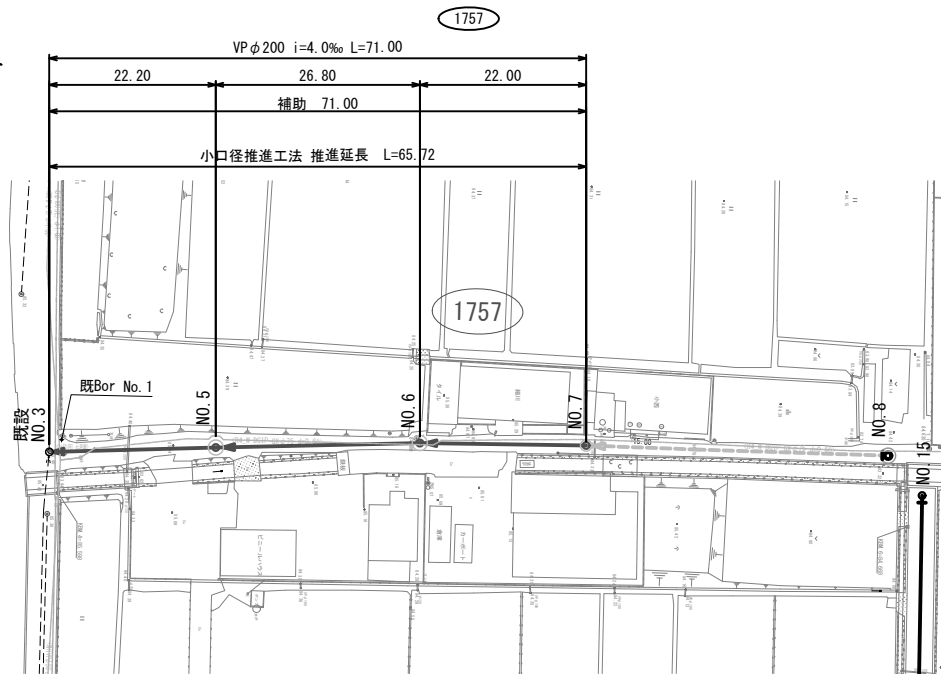
位置図
S=1 : 5,000



令和 7 年度	公共下水道事業		
工事名称	御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事		
図面名称	系 統 図		
縮 尺	S=1 : 1,000		
施工箇所	東 辻 地 内		
図面番号	2 / 16	作成年月日	年 月 日
御所市 産業建設部 都市整備課			

平面図

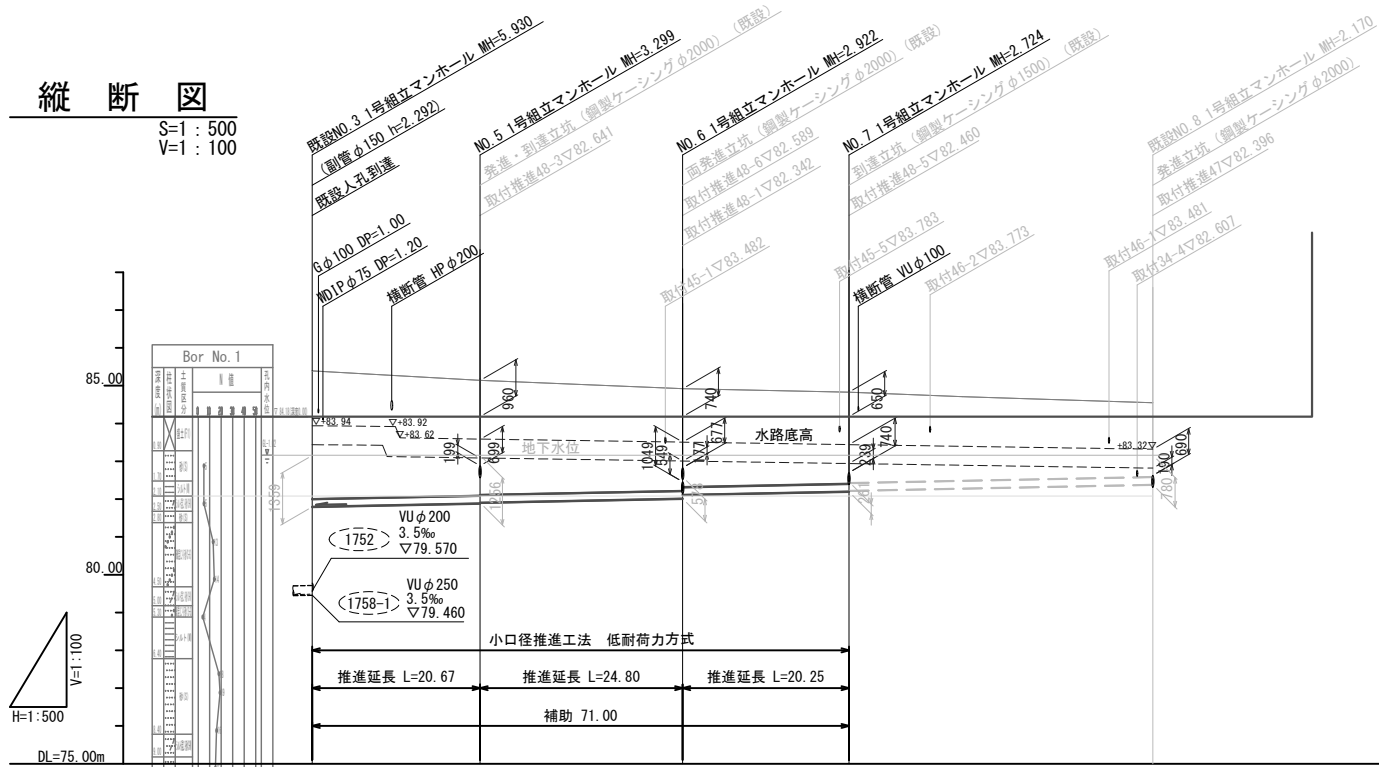
S=1 : 500



縦断図

S=1 : 500

V=1 : 100



管 番 号	1757			
管 径	VP 200			
勾 配	4.0			
管 路 延 長	22.20	26.80	22.00	
管 体 延 長	21.30	25.90	21.10	
土 被 り	3.43	3.09 3.04	2.71 2.61	2.44 2.42
掘 削 深				
管 底 高	81.752	81.841 81.881	81.998 82.018	82.106 82.206
地 盤 高	85.39	85.14	84.92	84.83
追 加 距 離	0.00	22.20	49.00	71.00

1757

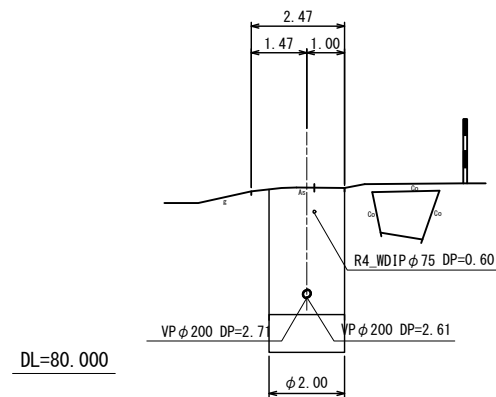
令和 7 年度	公共下水道事業		
工事名称	御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事		
図面名称	平面 縦断 図		
縮 尺	図 示		
施工箇所	東 辻 地 内		
図面番号	3 / 16	作成年月日	年 月 日
御所市 産業建設部 都市整備課			

横断図

S=1 : 100

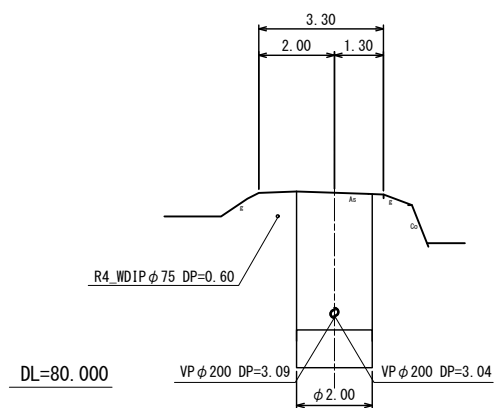
NO. 6

GH=84.92
FH=82.018
FH=81.998



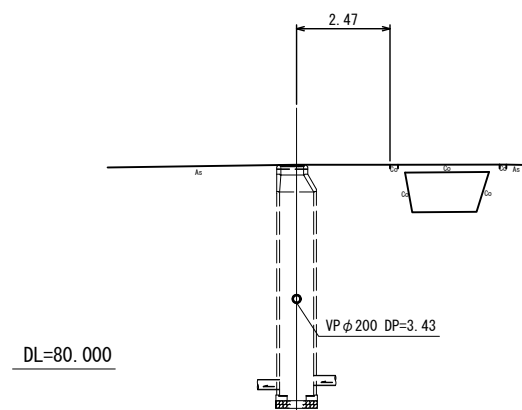
NO. 5

GH=85.14
FH=81.891
FH=81.841



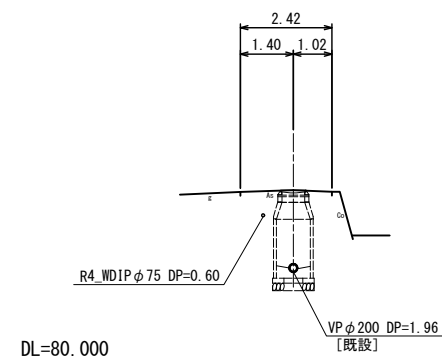
KNO. 3

GH=85.39
FH=81.752
FH=79.570
FH=79.460



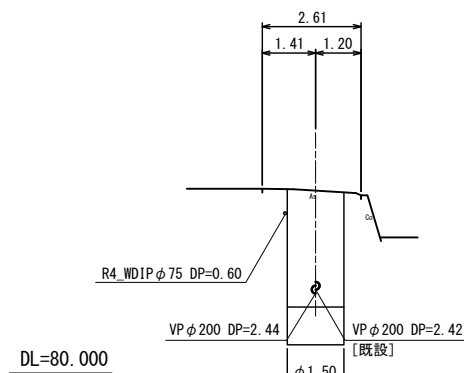
NO. 8

GH=84.55
FH=82.380 [既設]



NO. 7

GH=84.83
FH=82.206 [既設]
FH=82.106



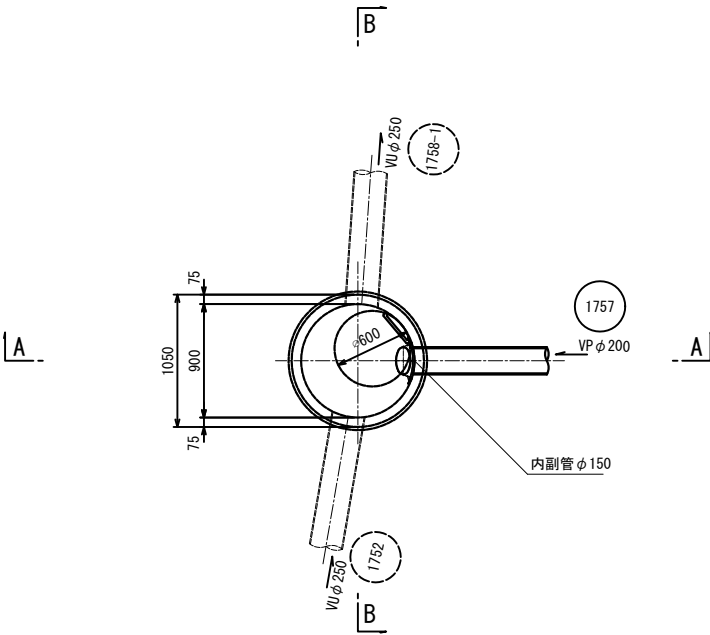
1757

令和 7 年度		公共下水道事業		
工事名称	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事			
図面名称	横 断 図			
縮 尺	S=1 : 100			
施工箇所	東 辻 地 内			
図面番号	4 / 16	作成年月日	年 月 日	
御所市 産業建設部 都市整備課				

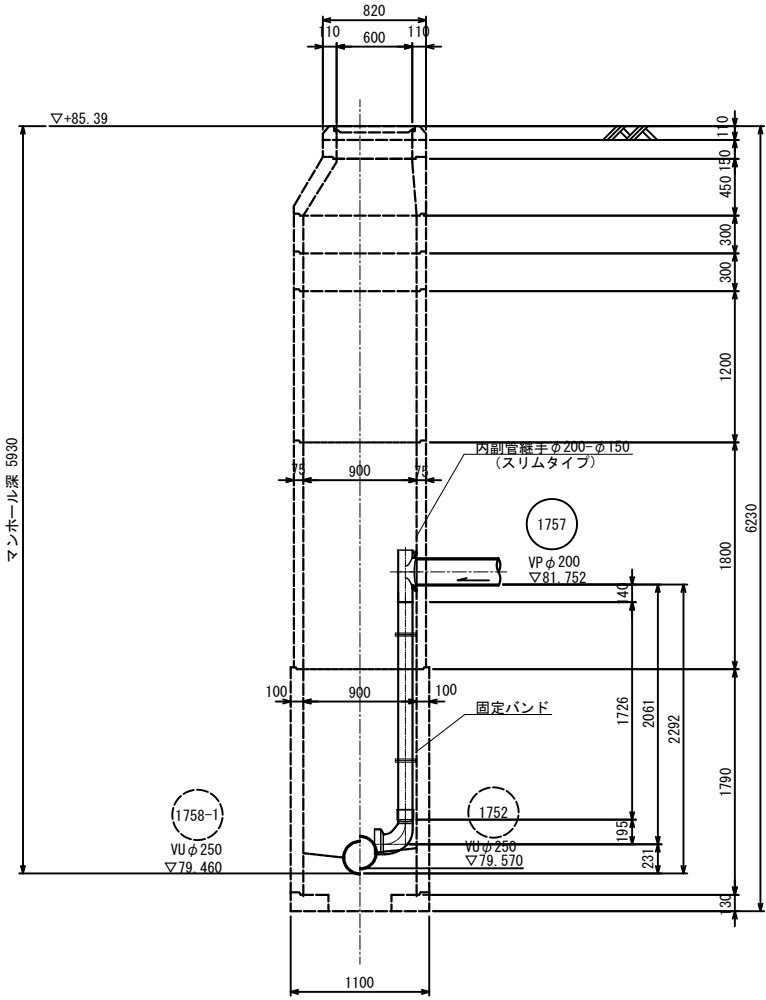
既設N0.3 1号組立マンホール構造図
S=1 : 30

(内副管設置構造図)

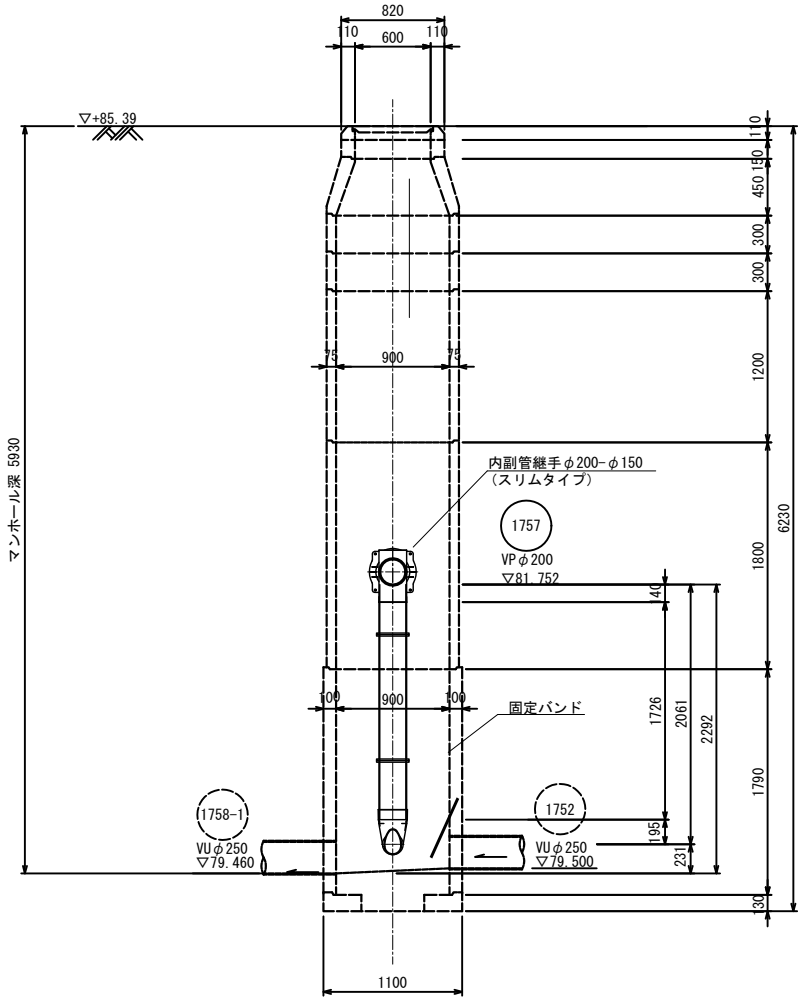
平面図



A-A断面図

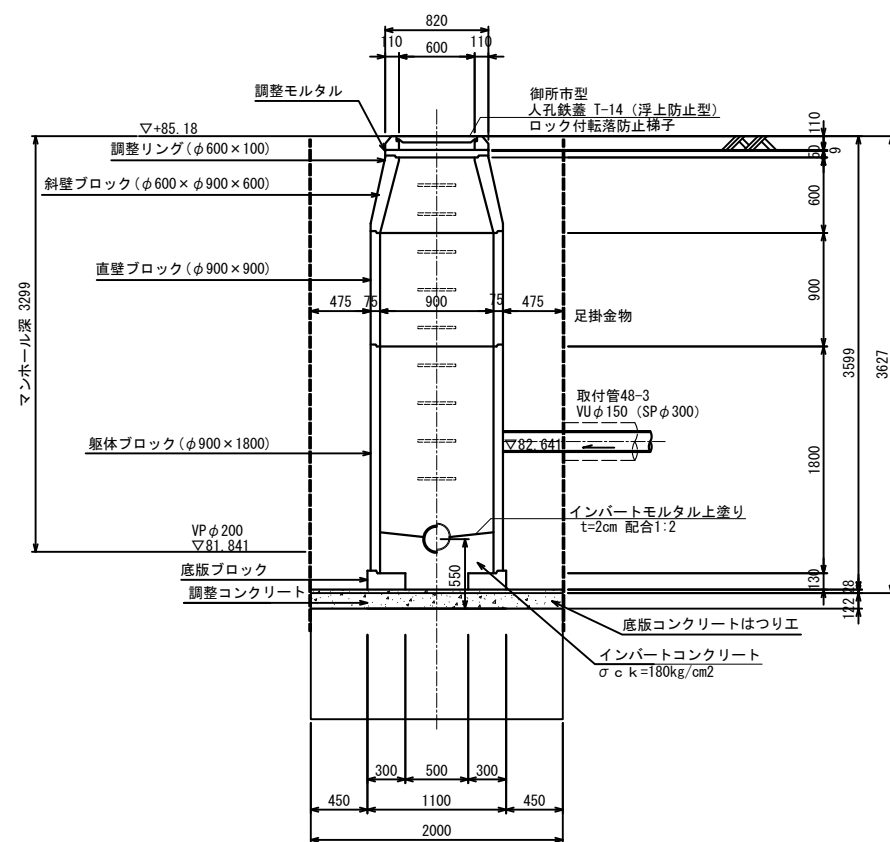


B-B断面図



令和 7 年度	公共下水道事業		
工事名称	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事		
図面名称	既設N0.3 1号組立マンホール構造図 (内副管設置構造図)		
縮 尺	S=1 : 30		
施工箇所	東 辻 地 内		
図面番号	5 / 16	作成年月日	年 月 日
御所市 産業建設部 都市整備課			

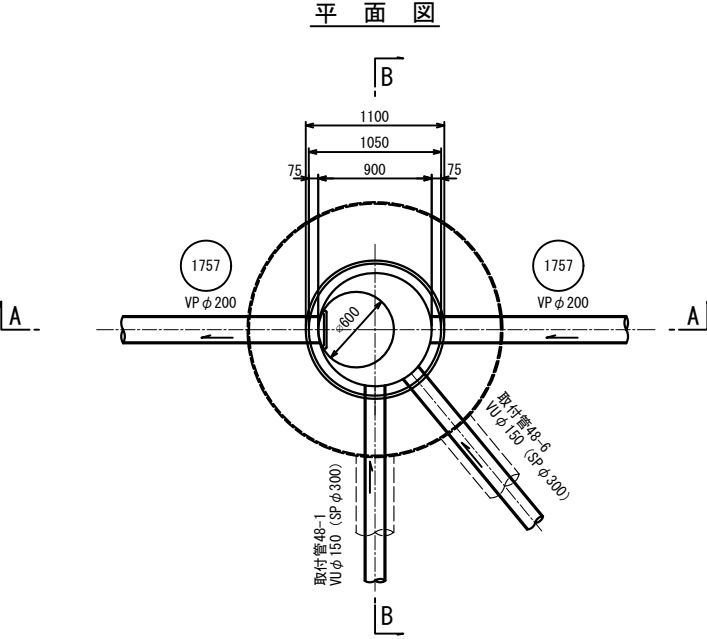
S=1 : 30



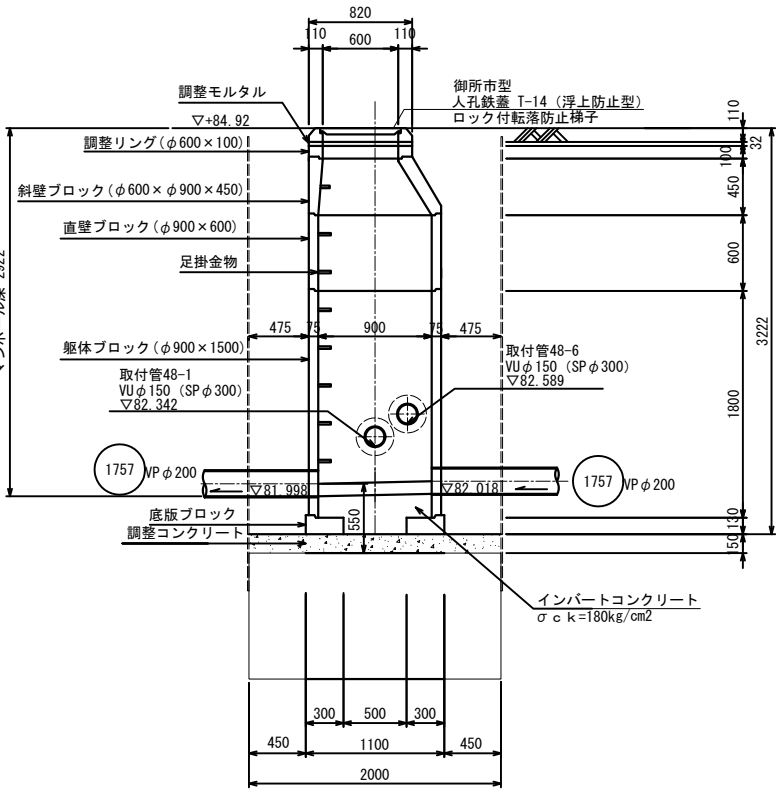
令和 7 年度		公共下水道事業	
工事名称	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事		
図面名称	N0.5 1号組立マンホール構造図		
縮 尺	S=1:30		
施工箇所	東 込 地 内		
図面番号	6 / 16	作成年月日	年 月 日
御所市 産業建設部 都市整備課			

N0.6 1号組立マンホール構造図

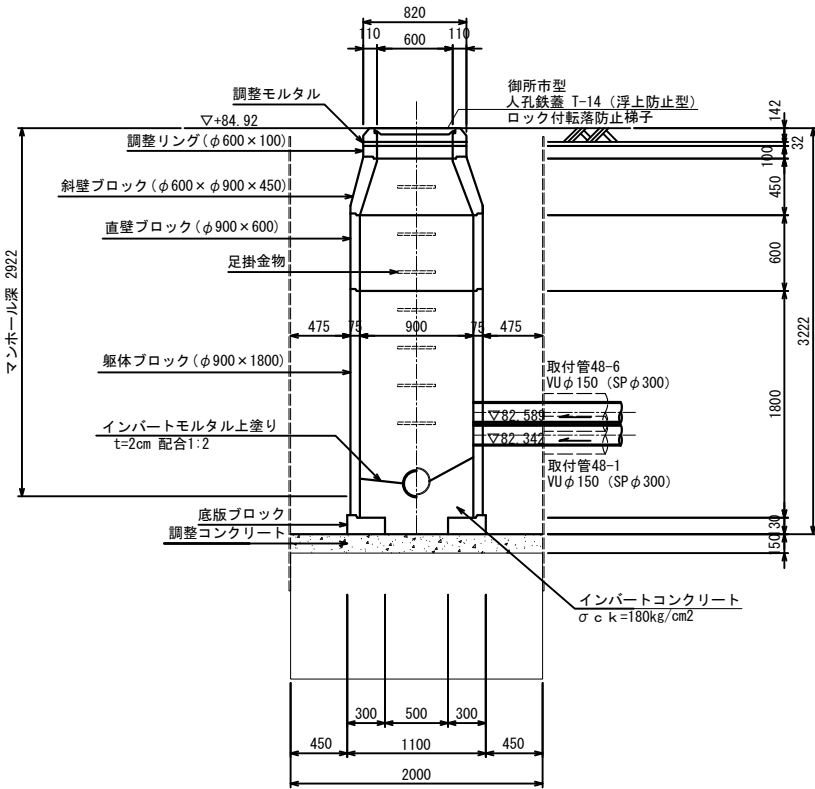
S=1 : 30



A-A断面図



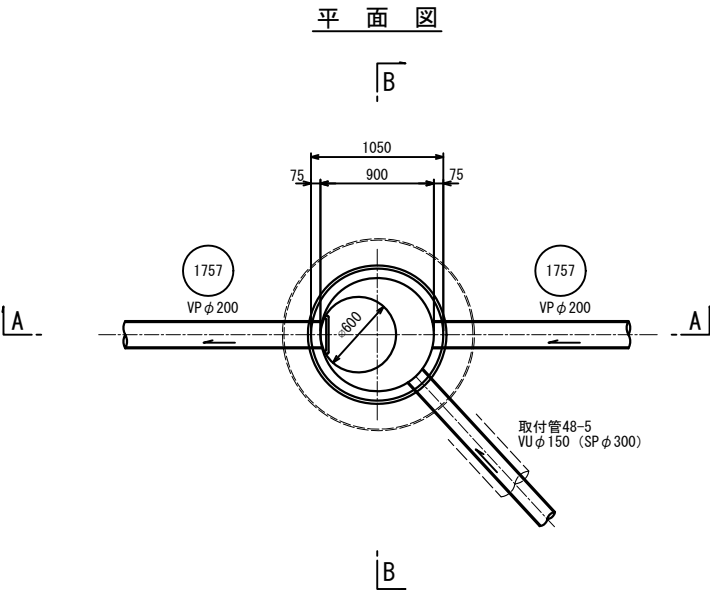
B-B断面図



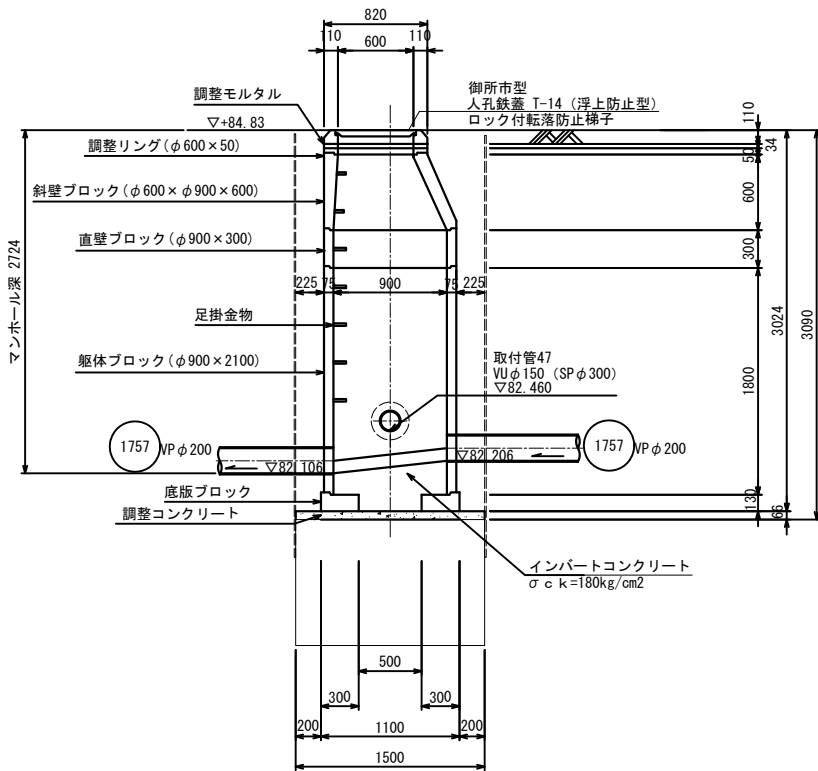
令和 7 年度	公共下水道事業		
工事名称	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事		
図面名称	N0.6 1号組立マンホール構造図		
縮 尺	S=1 : 30		
施工箇所	東 辻 地 内		
図面番号	7 / 16	作成年月日	年 月 日
御所市 産業建設部 都市整備課			

NO. 7 1号組立マンホール構造図

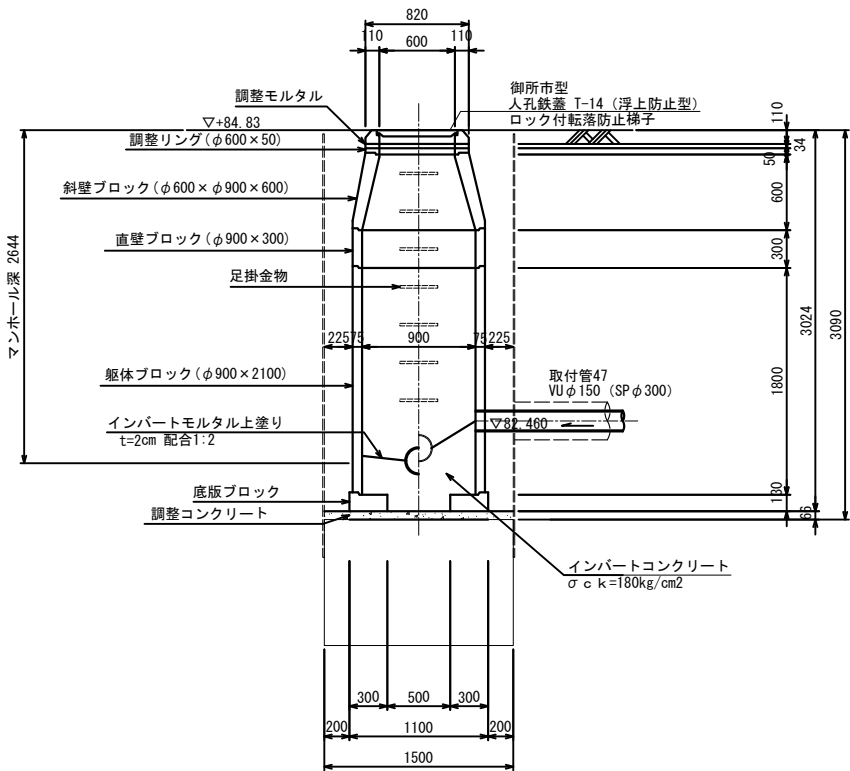
S=1 : 30



A-A断面図



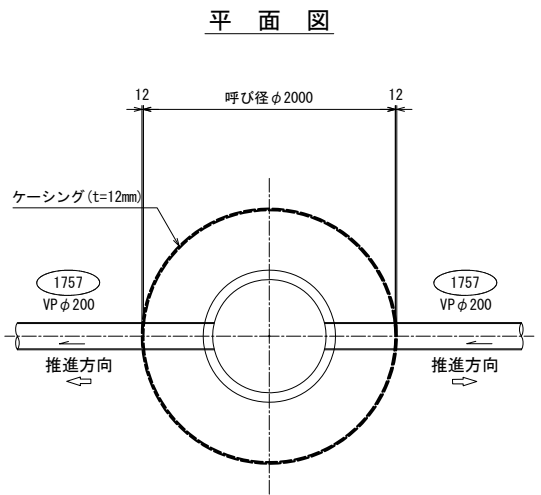
B-B断面図



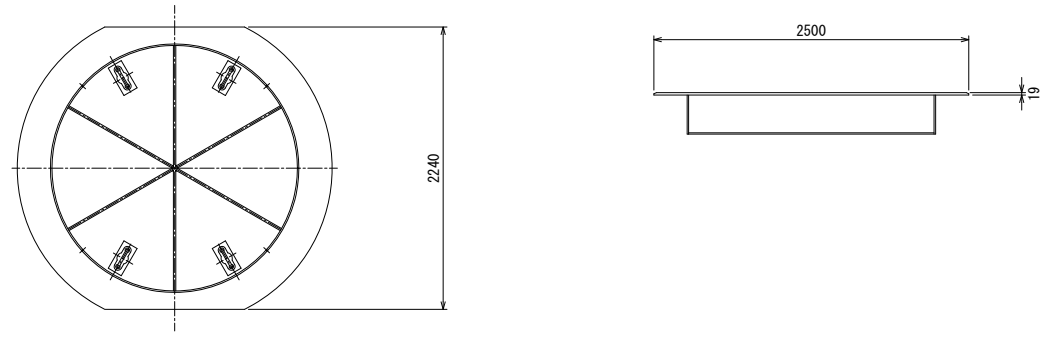
令和 7 年度	公共下水道事業
工事名称	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事
図面名称	NO. 7 1号組立マンホール構造図
縮 尺	S=1 : 30
施工箇所	東 辻 地 内
図面番号	8 / 16 作成年月日 年 月 日
御所市 産業建設部 都市整備課	

N0.5 発進・到達立坑仮設図（鋼製ケーシングφ2000）（既設）

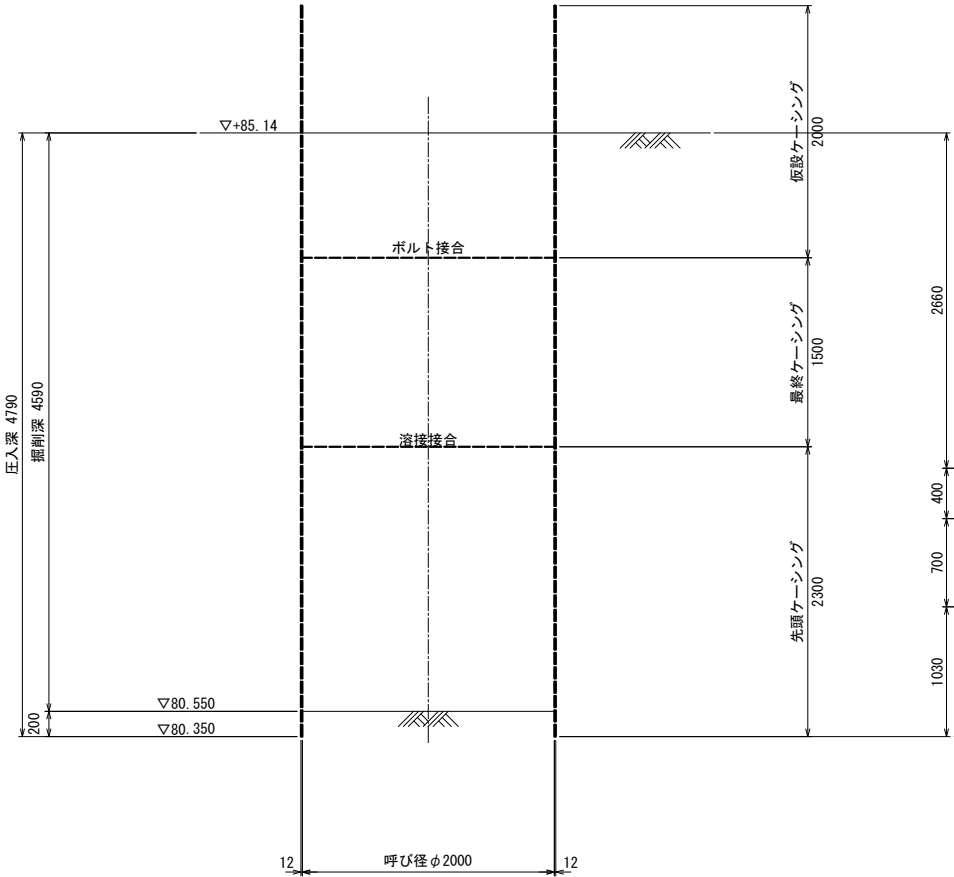
S=1 : 30



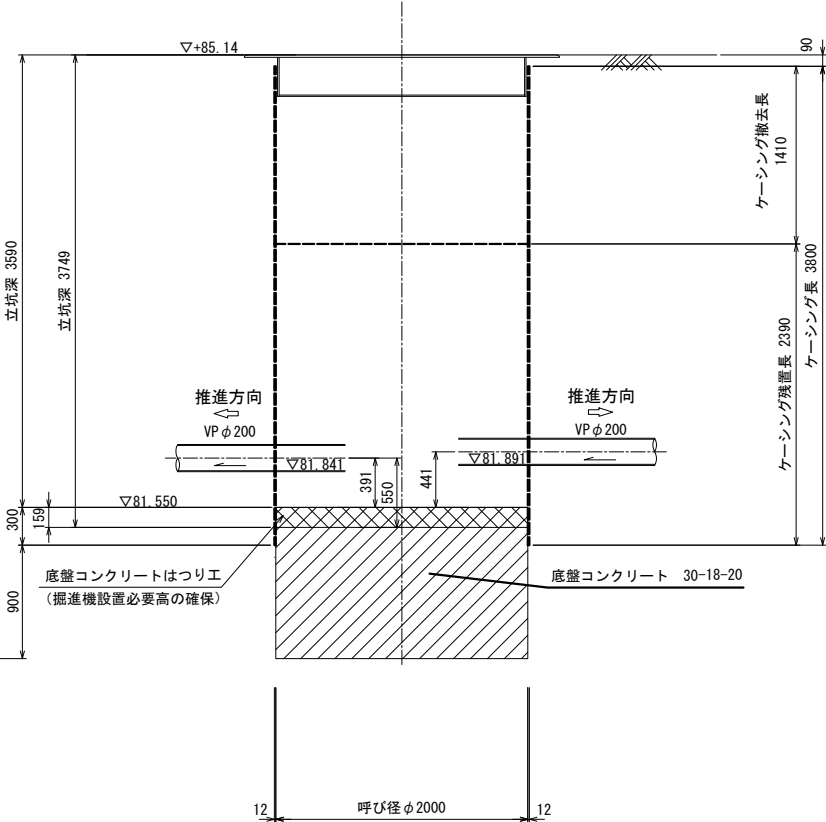
ケーシング用覆工板
（参考図）



圧入掘削完了図
（参考図）

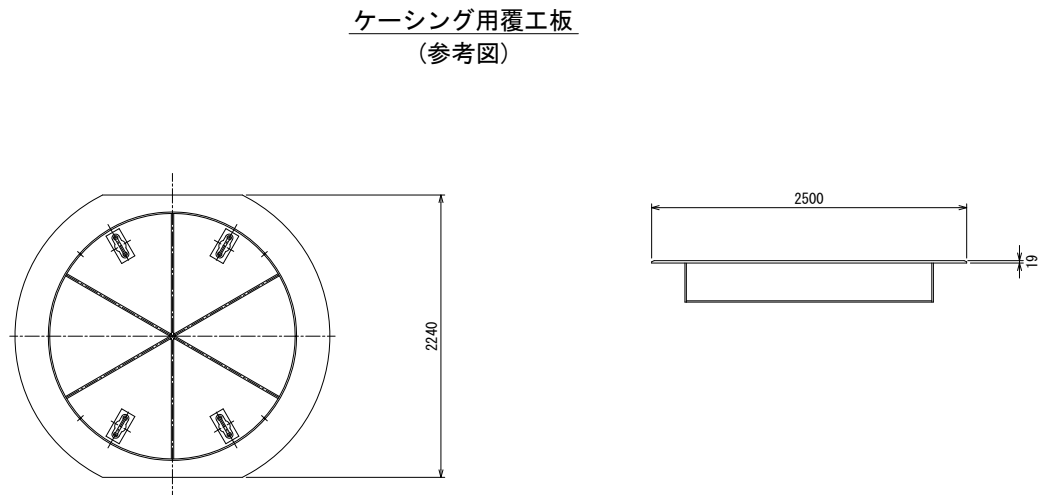
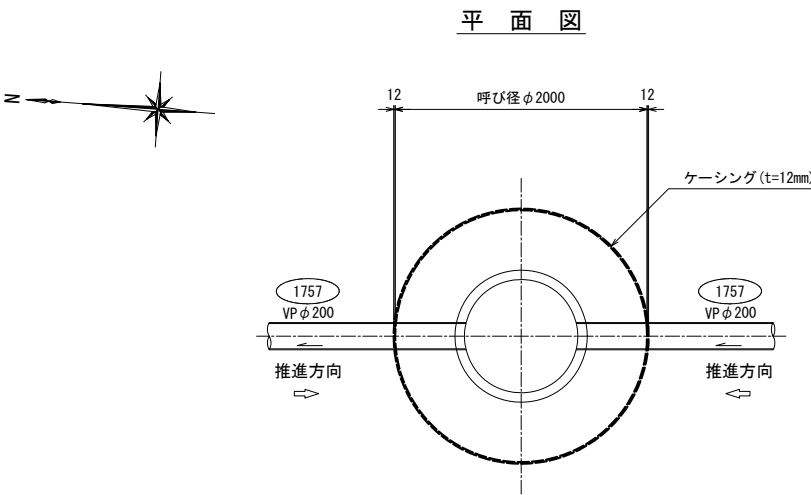


Bor No. 1			
深度 (m)	柱状図	土質区分	N 値
			0 10 20 30 40 50
0.90		盛土 (F1)	
1.70		砂 (S)	
2.10		シルト (M)	
2.50		シルト混じり砂 (S-M)	
2.80		砂 (S)	
4.50		礫混じり砂 (S-L)	
5.00		シルト混じり砂 (S-M)	



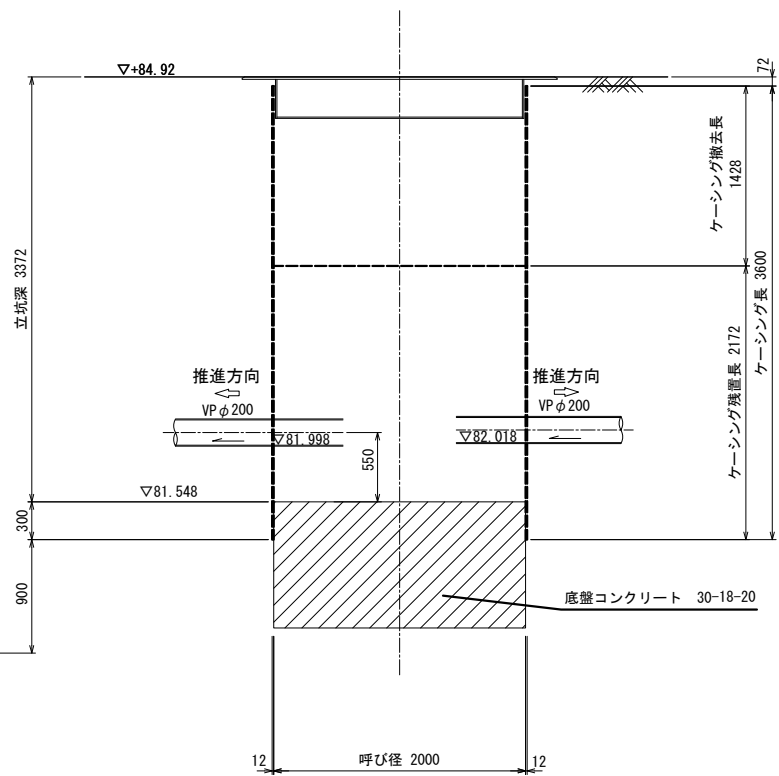
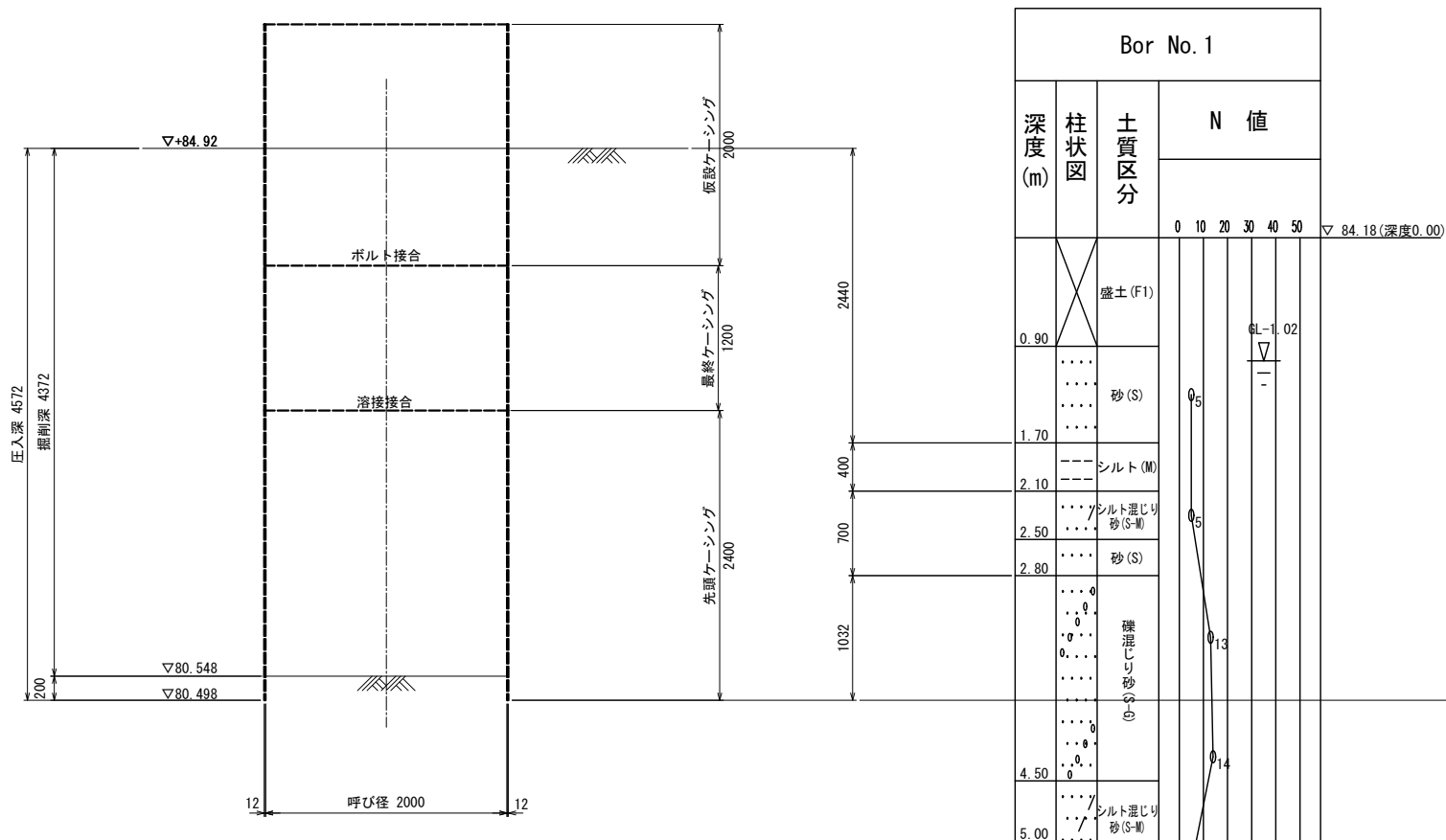
令和 7年度		公共下水道事業	
工事名称	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事		
図面名称	N0.5両発進立坑仮設図		
縮 尺	S=1 : 30		
施工箇所	東 辻 地 内		
図面番号	9 / 16	作成年月日	年 月 日
御所市 産業建設部 都市整備課			

N0. 6 両発進立坑仮設図（鋼製ケーシングφ2000）
S=1：30



圧入掘削完了図
(参考図)

コンクリート打設・引抜完了図



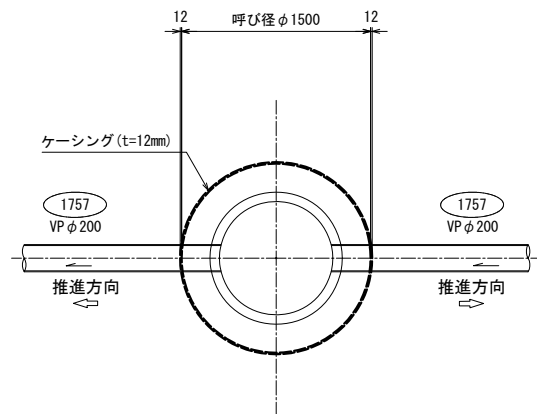
令和 7 年度	公共下水道事業		
工事名称	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事		
図面名称	N0. 6 発進立坑仮設図		
縮 尺	S=1：30		
施工箇所	東 辻 地 内		
図面番号	10 / 16	作成年月日	年 月 日
御所市 産業建設部 都市整備課			

N0.7 発進・到達立坑仮設図（鋼製ケーシングφ1500）（既設）

S=1 : 30

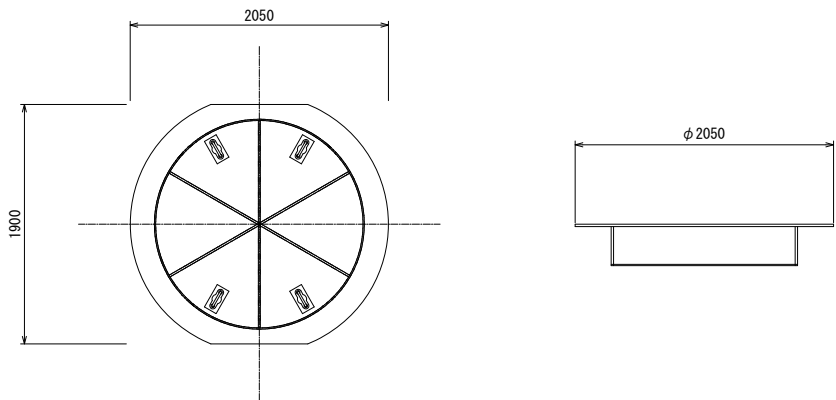


平面図



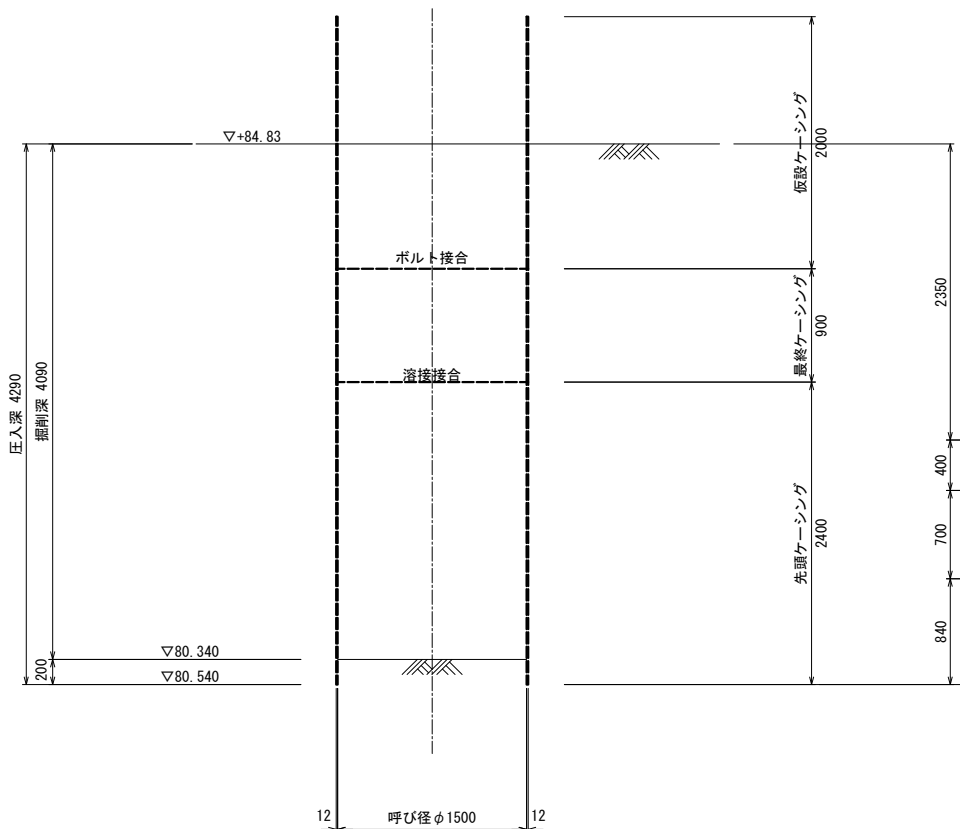
ケーシング用覆工板

(参考図)

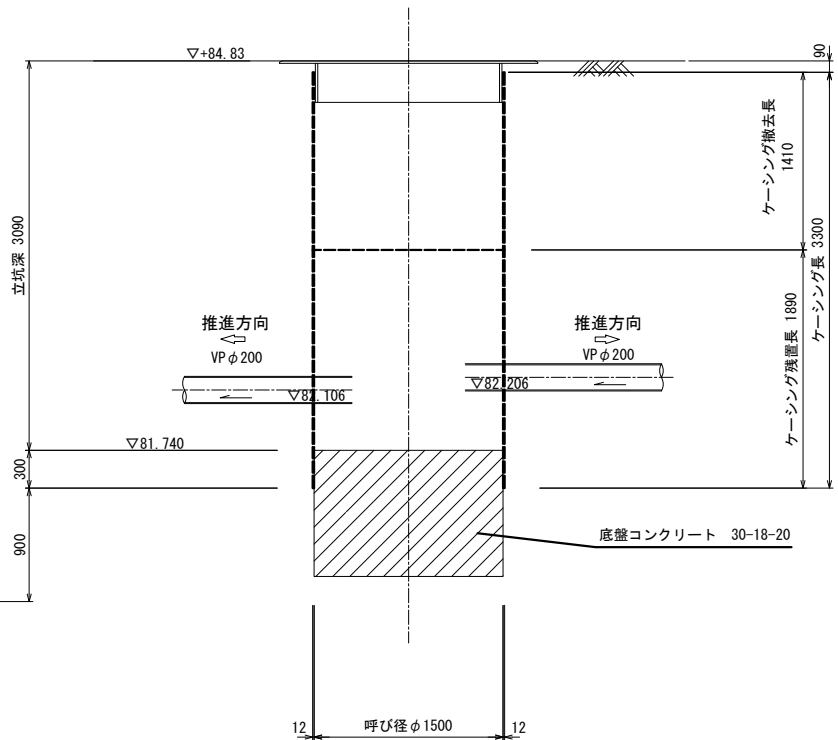


圧入掘削完了図

(参考図)



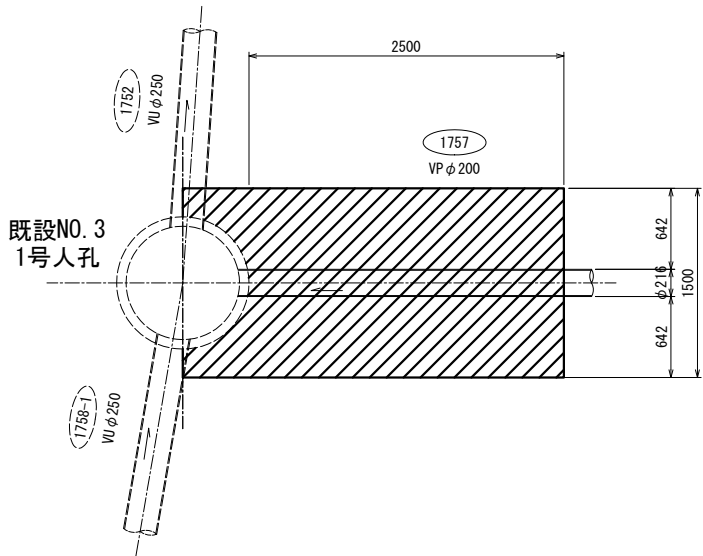
Bor No. 1								
深度 (m)	柱状図	土質区分	N 値					
			0	10	20	30	40	50
			▽ 84.18 (深度0.00)					
0.90		盛土 (F1)					6L-1.02	
							▽	
		砂 (S)		05			—	
1.70								
2.10		シルト (M)						
		シルト混じり砂 (S-M)		05				
2.50								
2.80		砂 (S)						
		礫混じり砂 (S-L)			13			
4.50		砂 (S)						
5.00		シルト混じり砂 (S-M)			14			



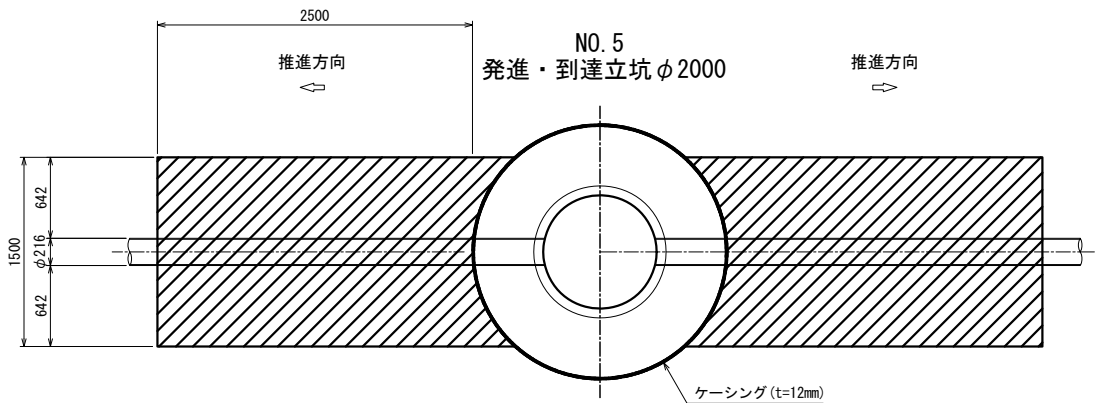
令和 7 年度		公共下水道事業	
工事名称	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事		
図面名称	NO.7 発進・到達立坑仮設図		
縮 尺	S=1 : 30		
施工箇所	東 辻 地 内		
図面番号	11 / 16	作成年月日	年 月 日
御所市		産業建設部	都市整備課

薬液注入工図(1)
S=1 : 30

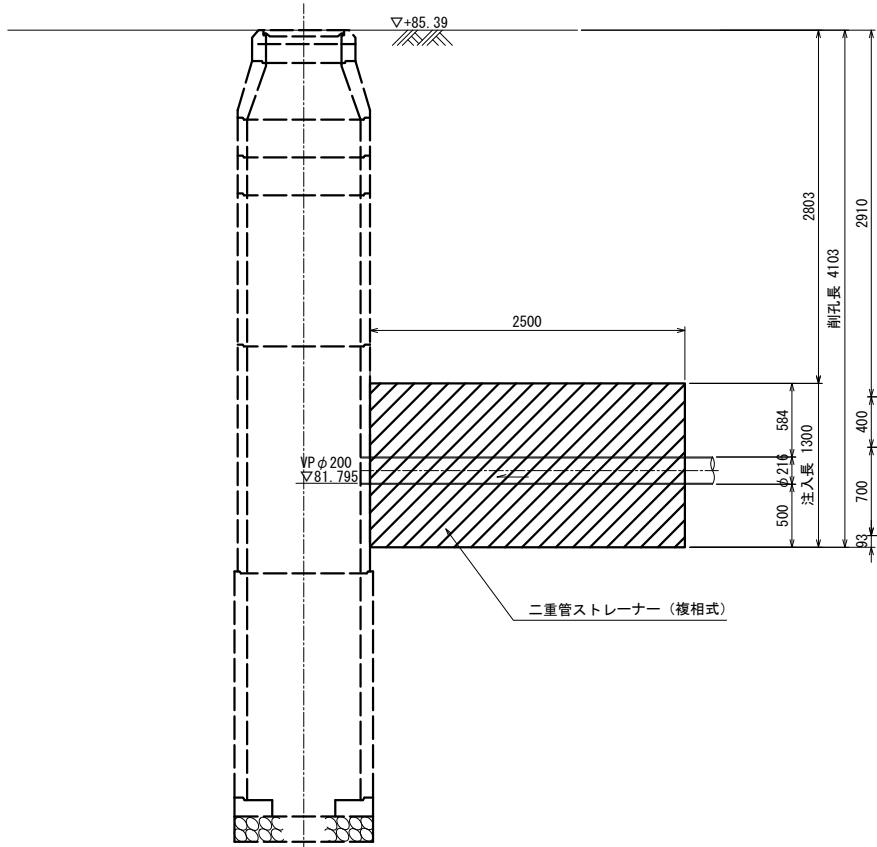
平面図



平面図

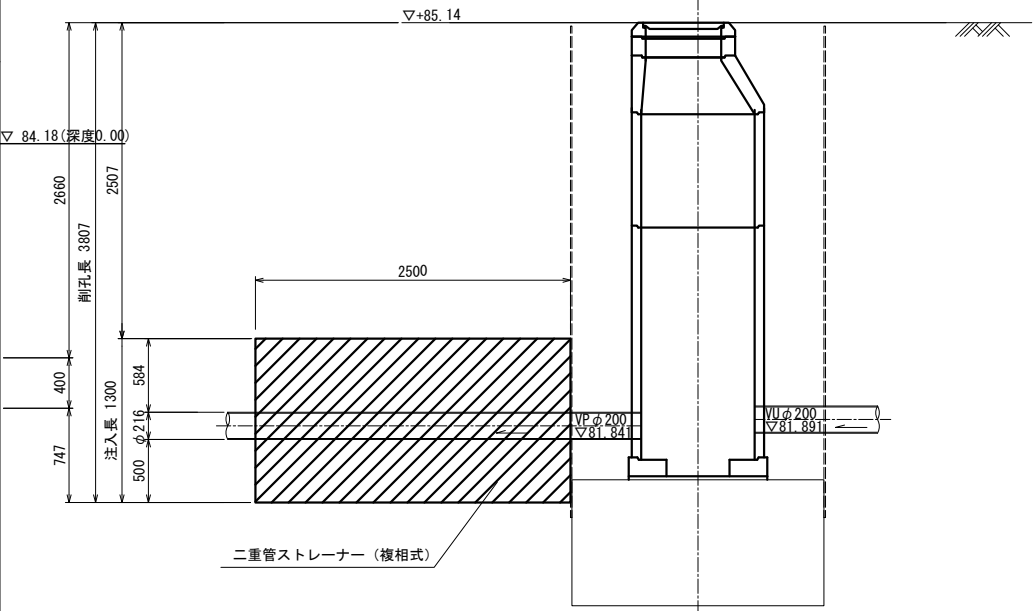


断面図

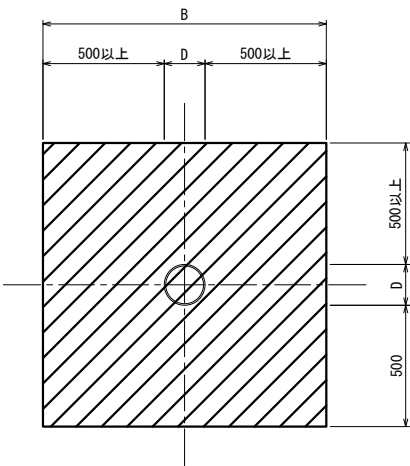


Bor No. 1			
深度 (m)	柱状 図	土質 区分	N 値
			0 10 20 30 40 50
0.90		盛土 (F1)	6L-1.02
1.70		砂 (S)	0.5
2.10		シルト (M)	5
2.50		シルト混じり砂 (S-M)	13
2.80		砂 (S)	14
4.50		礫混じり砂 (S-G)	4
5.00		シルト混じり砂 (S-M)	18
5.30		礫混じり砂 (S-G)	19
6.40		シルト (M)	
		砂 (S)	

断面図



地盤改良断面図
S=1 : 20



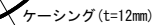
令和 7 年度	公共下水道事業
工事名称	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事
図面名称	薬液注入工図(1)
縮尺	S=1 : 30
施工箇所	東 辻 地 内
図面番号	12 / 16 作成年月日 年 月 日
御所市 産業建設部 都市整備課	

S=1 : 30

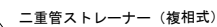
平面图



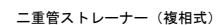
平面图



断面図

GL-1. 02

断面図



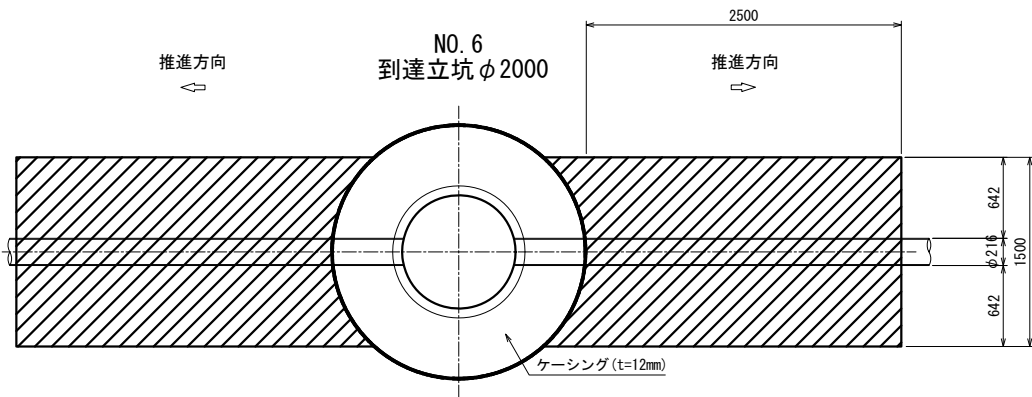
S=1 : 20

御所市 産業建設部 都市整備課

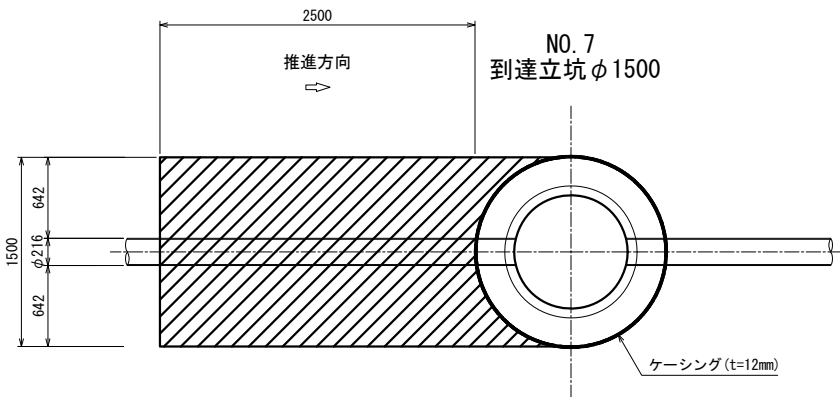
薬液注入工図 (3)

S=1 : 30

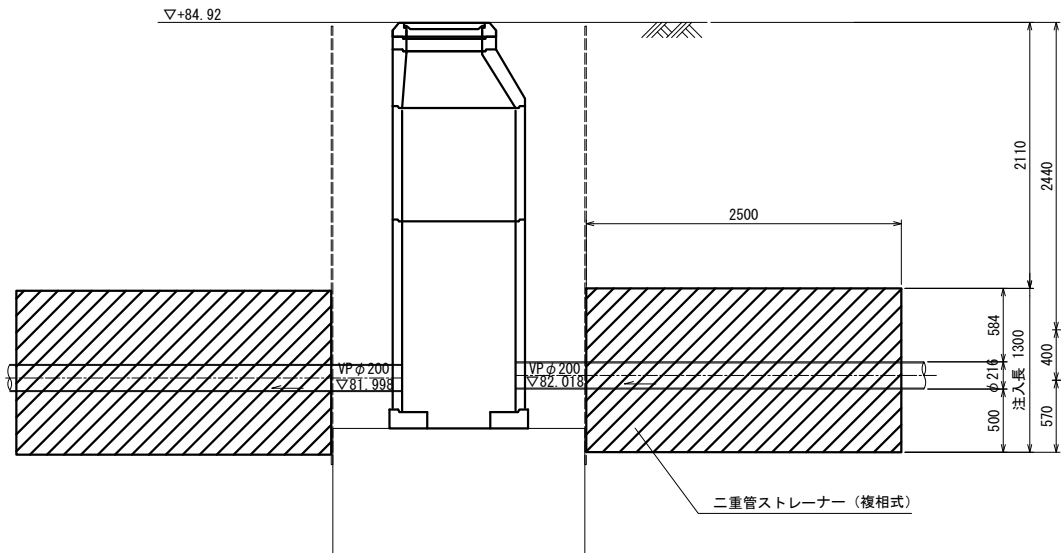
平面図



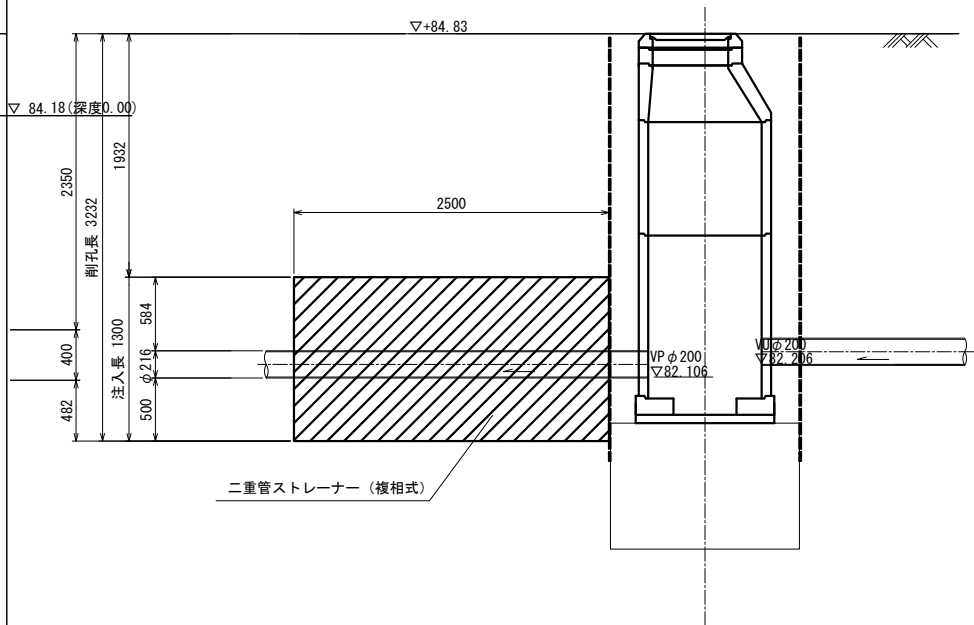
平面図



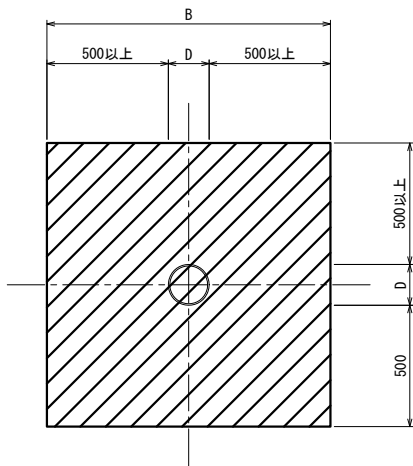
断面図



断面図



地盤改良断面図
S=1 : 20

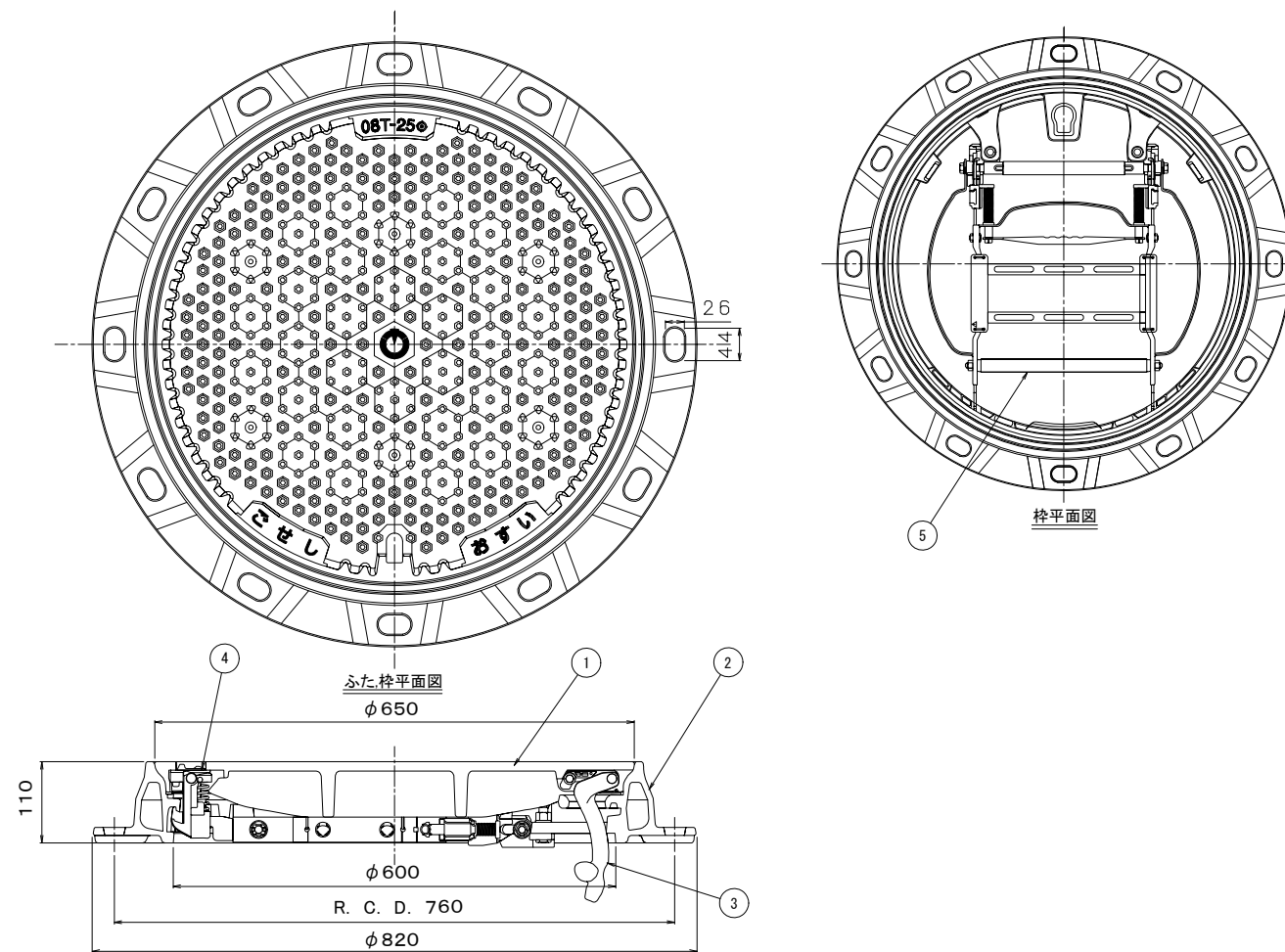


Bor No. 1			
深度 (m)	柱状図	土質区分	N 値
			0 10 20 30 40 50
0.90		盛土 (F1)	6L-1.02
1.70		砂 (S)	0.5
2.10		シルト (M)	0.5
2.50		シルト混じり砂 (S-M)	0.5
2.80		砂 (S)	0.5
4.50		礫混じり砂 (S-G)	1.3
5.00		シルト混じり砂 (S-M)	1.4
5.30		礫混じり砂 (S-G)	0.4
6.40		シルト (M)	0.8
		砂 (S)	1.9

令和 7 年度	公共下水道事業
工事名称	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事
図面名称	薬液注入工図 (3)
縮 尺	S=1 : 30
施工箇所	東 辻 地 内
図面番号	14 / 16 作成年月日 年 月 日
御所市 産業建設部 都市整備課	

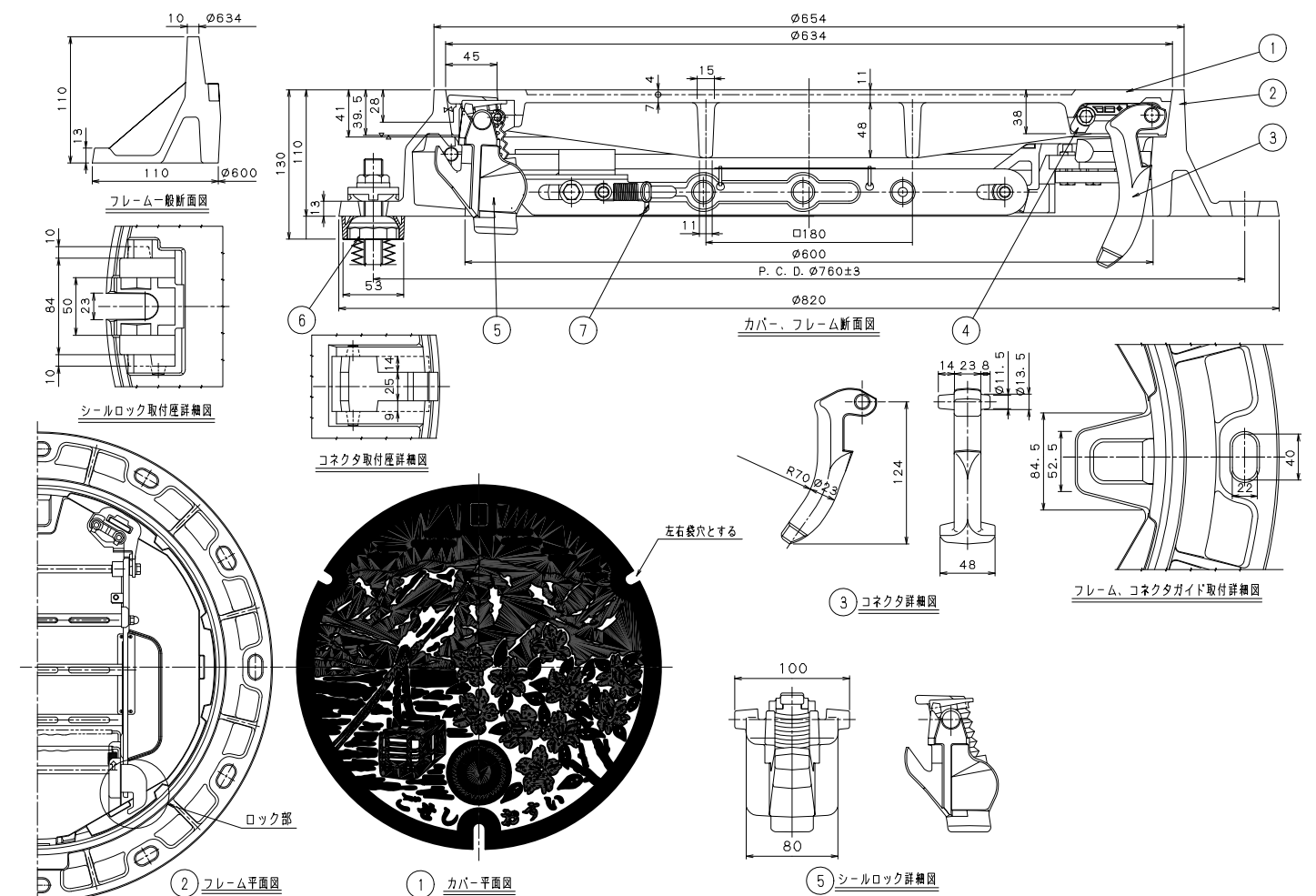
グラウンドマンホール蓋標準図

(T-25)



品番	名 称	材 質	個数	備 考
1	ふた	FGD700	1	荷重仕様：T-25
2	枠	FGD600	1	
3	蝶 番	FGD6000e	1	ボルト・ナット
4	自 動 錠	FGD6000e	1組	ボルト・ナット
5	転落防止装置	SUS304他	1	

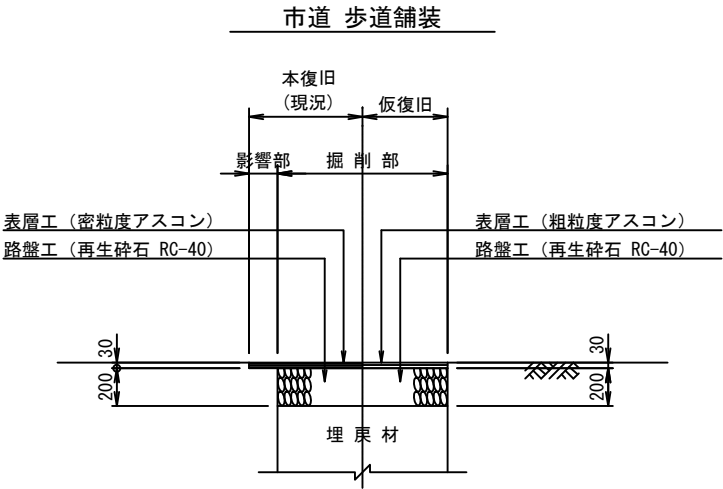
(T-14)



品番	名 称	材 質	個数	備 考
1	ふた	FCD700	1	
2	枠	FCD600	1	
3	蝶 番	FCD600	1	
4	ストッパ	ナイロン	1	
5	シールロック	FCD600他	1	
6	AJフレームホルダ	ポリアセタル他	3	
7	セイフティダラ (梯子)	SUS304他	1	

令和 7 年度	公共下水道事業		
工事名称	御所汚水2号幹線枝線1 管路築造工事		
図面名称	グラウンドマンホール蓋標準図		
縮 尺	NON		
施工箇所	東 辻 地 内		
図面番号	15 / 16	作成年月日	年 月 日
御所市 産業建設部 都市整備課			

舗装復旧工標準図 S=1:20



※舗装構成は交通量の区分により変わり、上記以外の区分の場合は別途協議します。

令和 7 年度	公共下水道事業		
工事名称	御所污水2号幹線枝線1 管路築造工事		
図面名称	舗装復旧工標準図		
縮 尺	図 示		
施工箇所	東 辻 地 内		
図面番号	16 / 16	作成年月日	年 月 日
御所市 産業建設部 都市整備課			